

# 2014年度 授業要覧

## 理工学部 履修ガイド



青山学院大学

## 教育方針・理念

---

### 青山学院教育方針

---

青山学院の教育は  
キリスト教信仰にもとづく教育をめざし、  
神の前に真実に生き  
真理を謙虚に追求し  
愛と奉仕の精神をもって  
すべての人と社会とに対する責任を  
進んで果たす人間の形成を目的とする。

### 青山学院大学の理念

---

青山学院大学は、「青山学院教育方針」に立脚した、  
神と人にとり仕え社会に貢献する  
「地の塩、世の光」としての教育研究共同体である。  
本学は、地球規模の視野にもとづく正しい認識をもって  
自ら問題を発見し解決する知恵と力を持つ人材を育成する。  
それは、人類への奉仕をめざす自由で幅広い学問研究を通してなされる。  
本学のすべての教員、職員、学生は、  
相互の人格を尊重し、建学以来の伝統を重んじつつ、  
おのおのの立場において、時代の要請に応えうる大学の創出に努める。

# 理 工 学 部

## 物理・数理学科

### 「カリキュラムポリシー（教育課程編成・実施の方針）」

物理・数理学科の教育課程は、青山スタンダード科目と専門教育科目で構成される。

#### ◆カリキュラム体系

本学科は、物理分野の力学、電磁気学、統計物理学、熱力学、量子力学、相対性理論の基礎科目を中心として、電気・電子回路、物性物理学、生物物理、光学、高エネルギー物理および宇宙物理学関連科目、これらの講義科目関連の実験科目、演習、また、数理分野の代数、解析、幾何、確率統計の基礎科目を中心として、トポロジー、微分方程式、表現論、計算数学などの数学関連科目、および、これらの講義科目関連の演習により構成されている。最終年度には、これら科目群の学習の集大成として、各研究室における輪講および卒業研究が配置されている。また、専門科目学習に必要な化学・生物学等の専門基礎科目および外国語科目、青山スタンダード科目を履修することにより、専門科目のみならず、研究者・技術者として必要な社会性や倫理観の修得が可能なカリキュラム体系を提供している。

#### 特 色

- ・アカデミックや産業界において多岐にわたり実践応用として用いられている物理学、数学を、基礎から応用を学ぶ。講義群と実際の演習と実験を中心に、基礎力を確実に身につけるとともに、主体的に特定専門分野を選択し履修できる体制をとっている。
- ・複数教員が参加する演習、実験科目を充実させることにより、きめ細やかな少人数教育を実現している。

### 「ディプロマポリシー（学位授与の方針）」

物理・数理学科は、以下の要件を満たす学生に対し、「学士（理学）」を授与する。

1. 物理・数理学科の必修科目の単位を取得し、物理および数理分野の基礎的な知識を身につけていること。
2. 「宇宙物理学」、「物性物理学」、「生物物理学」、「原子物理学」、「宇宙物理学」、「表現論」、「トポロジー」、「微分方程式論」、「確率論」、「計算数学」の領域から1つ以上の系統だった講義科目の履修および単位の取得を行ない、物理・数理学部学生として、必要最低限の専門知識を身につけていること。
3. 講義科目に関連した実験科目を履修し、専門知識の実践に関する能力を身につけていること。
4. 輪講および卒業研究の履修を通じて、研究に関する基礎的な学習および実践能力とプレゼンテーション能力、論文執筆能力を身につけていること。
5. 研究開発の領域のみならず、金融や経営など広く社会において必要とされる数学的センス、物理的センスを持ち、実験科目、演習、輪講により磨かれた問題解決、課題解決能力を身につけていること。

## 化学・生命科学科

### 「カリキュラムポリシー（教育課程編成・実施の方針）」

化学・生命科学科の教育課程は、青山スタンダード科目と専門教育科目で構成される。

#### ◆カリキュラム体系

本学科は、無機・分析化学、物理化学、有機化学、生命科学の専門コア科目を基盤として、錯体化学・数理化学、有機合成化学、分子遺伝学、そして材料科学や生命科学関連科目、またこれらの専門コア講義の実験実習科目により構成されている。最終年度には、これら科目群の学習の集大成として、少人数教育による輪講および卒業研究が配置されている。また、専門科目学習に必要な数学、物理学、化学等の基礎科目および外国語科目、青山スタンダード科目を履修することにより、研究者・技術者として必要な幅広い基礎知識と社会性や倫理観の修得が可能なカリキュラム体系を提供している。

#### — 特 色 —

- ・身の周りの化学物質、生命現象など人間社会に欠くことのできない化学・生命科学の学門を基礎から応用に至るまで講義群と実際的な実験と演習を中心に、幅広い基礎知識と考え方を確実に修得するとともに、主体的に特定専門分野を選択し履修できる体制をとっている。
- ・化学・生命科学の全体像が初年度にイメージすることが出来るよう、基礎教育の化学Ⅰ、Ⅱ、そして専門分野の分析化学、無機化学、有機化学、生命科学が初年度に配置されている。
- ・企業でのインターンシップにより単位認定している。第3年次、第4年次の春季・夏季休暇に、企業現場での体験を通じて、キャリアについて考えさせる効果がある。また、外部からの招聘教員による講演会も随時開催している。

### 「ディプロマポリシー（学位授与の方針）」

化学・生命科学科は、以下の要件を満たす学生に対し、「学士（理学）」を授与する。

1. 化学・生命科学科の必修科目の単位を取得し、化学・生命分野の基礎的な知識を身につけていること。
2. 「無機・分析化学」、「物理化学」、「有機化学」、「生命科学」の系列から3つ以上の系統だった講義科目の履修および単位の取得を行ない、化学・生命科学科の学部学生として、必要最低限の専門知識を身につけていること。
3. 専門コア講義科目に関連した実験科目を履修し、専門知識の実践に関する能力を身につけていること。
4. 輪講および卒業研究の履修を通じて、研究に関する基礎的な学習および実践能力とプレゼンテーション能力、論文執筆能力を身につけていること。

## 電気電子工学科

### 「カリキュラムポリシー（教育課程編成・実施の方針）」

電気電子工学科の教育課程は、青山スタンダード科目と専門教育科目で構成される。

#### ◆カリキュラム体系

本学科は、電気工学、電子工学分野の電気・電子回路、電気磁気学、電気物性学および電気計測の基礎科目を中心として、材料・デバイス関連科目、情報通信関連科目、電子応用関連科目、パワーエレクトロニクス関連科目、コンピューター基礎関連科目、またこれらの講義科目関連の実験科目により構成されている。最終年度には、これら科目群の学習の集大成として、各研究室における輪講および卒業研究が配置されている。また、専門科目学習に必要な数学、物理学、化学等の専門基礎科目および外国語科目、青山スタンダード科目を履修することにより、専門科目のみならず、研究者・技術者として必要な社会性や倫理観の修得が可能なカリキュラム体系を提供している。

#### 特 色

- ・社会のインフラとなっている電気電子工学を、基礎から応用に関する講義群と実際的な演習と実験を中心に、基礎力を確実に身につけるとともに、主体的に特定専門分野を選択し履修できる体制をとっている。
- ・電気電子工学の全体像が初年度にイメージすることが出来るよう、全教員により各専門分野をやさしく解説する電気電子工学概論が初年度に配置されている。
- ・企業でのインターンシップにより単位認定している。企業現場での体験を通じて、キャリアについて考えさせる効果がある。また、工場見学や講演会も随時開催している。

### 「ディプロマポリシー（学位授与の方針）」

電気電子工学科は、以下の要件を満たす学生に対し、「学士（工学）」を授与する。

1. 電気電子工学の必修科目の単位を取得し、電気電子工学分野の基礎的な知識を身につけていること。
2. 「材料・デバイス」、「電磁波～情報・通信」、「電子回路～電子応用」、「パワーエレクトロニクス」の領域から1つ以上の系統だった講義科目の履修および単位の取得を行ない、電気電子工学科学部学生として、必要最低限の専門知識を身につけていること。
3. 講義科目に関連した実験科目を履修し、専門知識の実践に関する能力を身につけていること。
4. 輪講および卒業研究の履修を通じて、研究に関する基礎的な学習および実践能力とプレゼンテーション能力、論文執筆能力を身につけていること。

## 機械創造工学科

### 「カリキュラムポリシー（教育課程編成・実施の方針）」

機械創造工学科の教育課程は、青山スタンダード科目と専門教育科目で構成される。

#### ◆カリキュラム体系

1年次の授業科目では、基礎的素養として、コミュニケーション・ツールとしての英語、コンピュータ・リテラシー、システム分析およびモデル構築の基礎としての数学、システム開発の基礎として情報技術の習得を重視している。2年次の授業では、機械工学として最も重要な4力学、すなわち、材料力学、機械力学、熱力学、流体力学を必修科目として履修させる。これらの科目は演習と組み合わせられ、1週間に2度の授業が行われている。これによって、集中的に基礎的な学力を習得させている。3年次では、機械創造工学実験および機械設計製図を配置し、より実践的な基礎知識の素養を付けるとともに、他の専門科目では、本学科の教育目標「もの創りのできるアカウントブル・エンジニアの育成」が達成できるように配置している。4年次では、これらのカリキュラムの集大成として、各研究室において卒業研究を行っている。

#### — 特 色 —

1. 数学、英語、コンピュータは必須の道具です。
2. 工業力学、材料力学、熱力学、流体力学、機械力学を統合および解決両能力を育てる必須の基礎学問と位置づけます。

とのポリシーで、

3. 1. 2. を基礎として、機械工学は次の3つの分野に大別できます。したがって、学生諸君は自分の進むべき道を熟考し、自らの意志と責任において履修計画を立てるべきです。  
分野1：材料を対象とし、材料の変形・強度・破壊など、材料の性質・挙動などについて学びます。  
分野2：熱や流体を対象とし、熱や流れの力学、熱エネルギーの利用や熱移動、輸送システムなどについて学びます。  
分野3：動力学・計測・制御・生産を対象とし、機械の動きとその計測・制御といったシステムに関する基礎、設計手法・生産システムなどについて学びます。
4. 上記に平行して、ラボワーク、機械創造工学演習、機械創造工学実験、機械設計製図など、演習、実験、実習科目を配置しています。これらの科目は、実践を通じて統合と解決の能力を育てる場です。  
と授業要覧に明記し、汎用性のある基礎的な能力を身に着かせようとしている。

### 「ディプロマポリシー（学位授与の方針）」

機械創造工学科は、以下の要件を満たす学生に対し、「学士（工学）」を授与する。

1. 本学科が定める卒業要件単位表に示す区分ごとに、それぞれ必要な単位を修得した者
2. 専門能力として、力学を基礎とした分析力および機械システムの開発、維持そして廃棄に必要な統合力が身についている者
3. 基礎的素養として、英語、数学、情報技術が身についている者
4. 判断力を高める豊かな教養が身についている者

特に上記2から4については、4年次の1年間にわたる卒業研究の過程において指導教員が、そして年度末に学科主催で行われる卒業研究発表会において全学生に対して全教員が、審査し、評価する。

## 経営システム工学科

### 「カリキュラムポリシー（教育課程編成・実施の方針）」

経営システム工学科の教育課程は、青山スタンダード科目と専門教育科目で構成される。

#### ◆カリキュラム体系

本学科は、分析技術、モデル化技術、最適化技術の3つの技術分野を中心にして工学的な問題解決法と社会科学の知識を融合する技術、手法、システムの研究開発に関するカリキュラム体系をとっている。また、社会的要請を考慮して多くの改善・改革を実施している。企業や社会をより良く機能させるために役立つ管理技術と、システムの開発から実際の導入までをトータルに考察して実践するカリキュラム体系を提供している。

#### — 特 色 —

- ・先進かつ多彩で実際的な演習と実験など、自由度の高いカリキュラム構成により、自らの問題意識に応じた主体的に履修できる体制をとっている。
- ・情報教育に関する実験・演習科目の新設や、学生が研究の方向や将来の仕事のイメージをつかむため第一線の実務家講師として当学科の卒業生を招く経営システム工学特別講座を開講している。また、3年次後期の実力テストの実施（全員）や技術士試験（希望者）により学習成果を自覚できる環境づくりを整えている。
- ・短期海外研修や企業でのインターンシップにより単位認定している。第3年次、第4年次の休暇に、海外の大学との研究交流や企業現場での体験を通じて、キャリアについて考えさせる効果がある。また、工場見学や講演会も随時開催している。

### 「ディプロマポリシー（学位授与の方針）」

経営システム工学科は、以下の要件を満たす学生に対し、「学士（工学）」を授与する。

1. 経営システム工学の必修科目の単位を取得し、経営システム工学分野の基礎的な知識を身につけていること。
2. 青山スタンダード科目、外国語科目、学科科目、自由選択科目の所定の単位を習得していること。なお自由選択科目は、青山スタンダード科目、外国語科目、学科科目、他学科科目、他学部科目からの選択となっている。
3. 経営システム工学輪講および卒業研究の履修を通じて、研究に関する基礎的な学習および実践能力とプレゼンテーション能力、論文執筆能力を身につけていること。

## 情報テクノロジー学科

### 「カリキュラムポリシー（教育課程編成・実施の方針）」

情報テクノロジー学科の教育課程は、青山スタンダード科目と専門教育科目で構成される。

#### ◆カリキュラム体系

1年次では青山スタンダード科目の履修を通じて理数系および人文系の一般教養を身につけさせ、特に英語は10単位を課している。専門科目に関しては、講義科目の情報数学とノートPCを用いた実際的な体験演習により、理論と実践の双方から情報テクノロジーに親しめるようにしている。2年次以降は、専門科目を必修度の高さに応じて4つの科目群に分け、その中から学生が主体的に科目を選択できるように配置している。本学科では、2、3年次に多数の演習・実習科目を必修もしくは選択必修として課しており、講義科目で学んだ理論を具体的に問題解決に適用し、システムを構築する能力の育成を重視している。専門領域のみならず学際・境界領域への幅広い視野を身に付けられるようにしている。また、2014年度から始まる「理工学国際プログラム」においては、当学科は英語による専門科目、テキストや資料を英語で記述した専門科目を配置し、学生のグローバル対応能力を養うことにしている。4年次では学科内の各研究室に所属して卒業研究を行うが、4年次に履修することがふさわしい講義科目も用意しており、学生が幅広い知識を身につけることができるようにしている。

#### 特 色

- ・本学科では、英語教育（技術英語）、数学（情報数学）、コンピュータ（各種実習）を重視し、カリキュラムを構成している。教育の目標は基礎的なプログラミング、システム構築、Webアプリケーション開発などの実践的な力を育成することにある。
- ・社会のインフラとなっている情報テクノロジー技術を、基礎から応用に関する講義群と実際的な演習と実験を中心に、基礎力を確実に身につけるとともに、主体的に特定専門分野を選択し履修できる体制をとっている。
- ・3年次の科目では、学生に情報技術の社会における役割を体験させる目的で、インターンシップの単位認定を実施し、企業の中での情報技術の役割を実践的に学習できる場を設けた。

### 「ディプロマポリシー（学位授与の方針）」

情報テクノロジー学科は、以下の要件を満たす学生に対し、「学士（工学）」を授与する。

1. 情報テクノロジー学科の必修科目の単位を取得し、情報テクノロジー分野の基礎的な知識を身につけていること。
2. 「メカトロニクステクノロジー」「ソフトウェアテクノロジー」「ヒューマンファクタテクノロジー」「ネットワークテクノロジー」の4つの応用領域のうち1つ以上においてより進んだ専門知識を持ち、活用できること。
3. 講義科目に関連した実験科目を履修し、専門知識の実践に関する能力を身につけていること。
4. 輪講および卒業研究の履修を通じて、研究に関する基礎的な学習および実践能力とプレゼンテーション能力、論文執筆能力を身につけていること。

## 総目次

I. キリスト教教育について	2
II. 大学での学習活動について	3
1 大学での学習とは（カリキュラム／履修）	
2 単位（単位制／単位とは／単位数／既修得単位の認定／協定校・認定校留学による単位認定）	
3 授業科目の種類と配置（授業科目の種類／履修年次／履修順序）	
III. 履修について	6
1 履修計画（履修計画の立案／履修計画上の注意）	
2 履修登録（履修登録について／履修登録の方法／履修登録の確認と修正／履修取消制度について／履修取消申請方法／青山学院女子短期大学との単位互換制度について）	
IV. 学部履修要項	11
V. 授業について	97
1 授業（授業時間／授業教室／休講／補講／授業の欠席について）	
2 大学からの伝達	
3 緊急時の「授業の取り扱い」および「伝達手段」について	
VI. 試験・レポートについて	100
1 試験の種別（定期試験／平常試験／レポート／追試験）	
2 定期試験の受験（定期試験時間／受験上の注意／不正行為）	
3 追試験（申請資格／申請方法／追試験時間・採点）	
VII. 成績評価について（成績評価／G.P.A.／成績通知／成績調査）	104
VIII. 進級および卒業について（進級／卒業／9月卒業／卒業延期制度）	106
IX. 学籍について	107
（修業年限／在学年限／休学／復学／退学／再入学／二重学籍／除籍／転学部・転学科）	
X. 教職課程（教員免許状・各種資格）について	109
XI. 大学院について	116
巻末 教務窓口について	

# I. キリスト教教育について

## 本学のキリスト教教育

キリスト教の精神のもとに建てられている青山学院は、その「教育方針」にも明記されているように「キリスト教信仰にもとづく教育をめざし、神の前に真実に生き 真理を謙虚に追求し 愛と奉仕の精神をもって すべての人と社会とに対する責任を 進んで果たす人間の形成を目的とする」特別な学校です。したがって、その中に設置された青山学院大学においても、キリスト教教育を非常に重視しています。

本学における教育の特徴が他の国公立や私立の大学と異なる最もユニークな点は、このキリスト教による教育方針にあるといえます。

この教育方針をまっとうするために、本学には次の3つの基本的プログラムがあります。

- (1) 大学礼拝 (2) キリスト教概論 (3) 宗教センター活動

### (1) 大学礼拝

大学では、キリスト教教育の中心に礼拝を位置づけており、時間を定めて礼拝を行っています(礼拝時間：青山・月～金 10時30分～11時 および 火 18時～18時30分、相模原・月～金 10時30分～11時)。大学礼拝は、キリスト教の信仰を土台とする学院の精神を最も具体的に示す場であるとともに、みなさんにキリスト教による人格教育を行う教育の場でもあります。また大学礼拝は教会における礼拝とは異なり、キリスト教信者だけの礼拝ではありません。礼拝出席は自由ですが、青山学院大学の独特な“スピリット”は礼拝においてよく表わされているので、大学礼拝を体験することなしに本学の教育を受けたとは言えないのです。

### (2) キリスト教概論

大学の必修科目の一つとして、「キリスト教概論」があります。この講義は、本学建学の精神であるキリスト教の信仰の内容を学問的に研究し、聖書を通してキリスト教の教義、歴史、神学、実践などの問題を理解するとともに、キリスト教の意義を学ぶことを目的としています。大学礼拝とキリスト教概論とは密接な関係があり、そのため礼拝レポートがキリスト教概論の中に取り入れられています。その他数多くのキリスト教関連科目が青山スタンダード(テーマ別科目)、スーパー・プログラム科目、各学科科目のなかに配置され、みなさんの知的好奇心にチャレンジしています。

### (3) 宗教センター活動

青山学院は、プロテスタント・キリスト教信仰の上に創立された学園であり、宗教センターは、特に、メソジスト教会の創始者、ジョンおよびチャールズ・ウェスレー兄弟の信仰的伝統を重んじ、キリスト教活動を行っています。青山キャンパスは間島記念館1階に、相模原キャンパスはC棟(チャペル)1階にそれぞれ宗教センターがあり、学生キリスト教活動の中心になっています。

各宗教センターでは、みなさんのために「聖書に親しむ会」、「キリスト教文化に親しむ会」、青山キリスト教学生会(ACF)、聖歌隊、ハンドベル・クワイア、ゴスペル・クワイアまた、キリスト教図書の閲覧、講演会・コンサートの開催、研修旅行の実施などの活動が行われており、学生生活に色彩とバランスをあたえるために重要な役割を果たしています。さらに、各宗教センターには大学の専任教員でもある宗教主任(牧師)がおり、事務職員と協力して毎日みなさんのために宗教上の指導、アドバイス、教会紹介、カウンセリングなどの責任を負っています。この宗教センター活動は他大学とは異なる本学独特のシステムであり、みなさんの利用を待っています。活動の詳細は「キリスト教活動のしおり」ならびに宗教センターWebサイトを参照してください。

## Ⅱ．大学での学習活動について

### 1．大学での学習とは

#### カリキュラム

大学の授業科目、単位数、履修年次（どの学年で履修するか）を体系的に編成したものを「カリキュラム（教育課程）」といいます。所属する学部・学科のカリキュラムにそって学習を進め、最終的に、定められたカリキュラムの授業内容を修得することが、大学での学習の目的です。

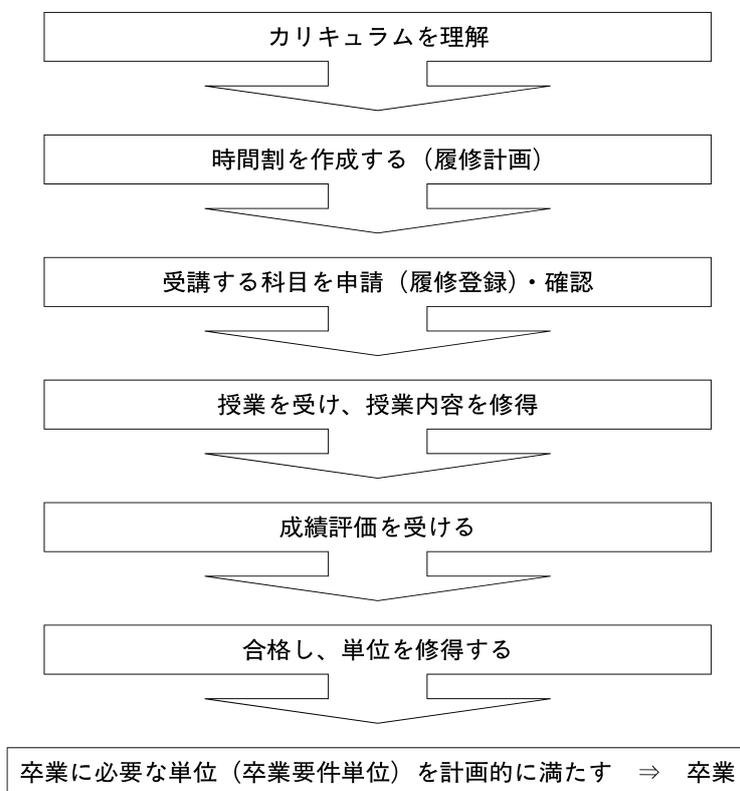
カリキュラムは入学年度別に定められており、卒業まで変更はありません。

各学部・学科のカリキュラムについては、「Ⅳ．学部履修要項」を参照してください。

#### 履 修

各学部・学科のカリキュラムにそって配置された授業科目の受講を大学に申請することを「履修登録」、授業を受け、試験に合格して単位を得ることを「単位を修得する」といいます。この「履修登録」から「単位修得」までの一連の流れを「履修」といいます。

図式化すると以下ようになります。



大学では、カリキュラムで定められた範囲で履修する科目を選択することができますが、卒業に至るまでの過程は自己責任であるということを常に念頭に置いてください。

## 2. 単 位

### 単位制

単位制とは、卒業するために、在学年限内に所定の単位を修得しなければならない制度です。これは極めて厳格なもので、たとえ1単位であっても不足すると卒業できません。卒業に必要な単位数は、学部・学科ごとに定められています。詳しくは、「IV. 学部履修要項」の「卒業要件」を参照してください。

### 単位とは

単位とは、学習の成果を量的に表したものです。授業科目を履修し、出席回数、平常試験・定期試験またはレポート、その他担当教員が必要と認める学習作業の結果などによって、その授業科目に合格したと担当教員が判断したとき、所定の単位が与えられます。

### 単位数

単位数は、それぞれの授業科目ごとに定められており、授業形態によって算定方法が異なります。

大学設置基準による規定	1単位の標準＝“45時間の学修が必要な内容”
-------------	------------------------

#### 本学での単位算定方法

講義・演習の科目では…	1単位＝授業15～30時間分
実験・実習・実技（スポーツなど）の科目・集中科目では…	1単位＝授業30～45時間分

15時間の講義科目（1単位）を例にとると、“45時間の学修を必要とする内容”で1単位、と規定されており、授業時間外に30時間の自習が前提となっています。

なお、ここでいう“1時間”とは、授業時間45分を表します。本学での1時限の授業は90分で行われているので、単位計算上は、1時限＝“2時間分の授業”となります。

半期の講義科目では、

15週×2時間＝30時間分＝2単位

となります。

#### 実際の単位数

半期科目 (前期のみ、または後期のみの科目)	15週で完結 ・講義科目なら2単位 ・演習科目なら2単位または1単位 ・実験・実習・実技科目なら1単位
通年科目 (一年を通して行われる科目)	30週で完結 ・講義科目なら4単位 ・演習科目なら4単位または2単位 ・実験・実習・実技科目なら2単位

### 既修得単位の認定

**新たに入学した1年生**で、本学入学以前に他大学・短期大学ですでに修得した単位があり、修得済み単位として認定を受けたい学生は、指定された期間(入学式翌日～前期授業開始日)に書類を所属キャンパスの教務窓口へ提出し申請してください。各学部・学科の基準に従って単位が認定されます。既修得単位として認定された単位数と、入学後に交換留学等で認定される単位数は、合わせて60単位を越えないものとします。(大学学則第42条参照)この申請は、入学した年度に限って可能であり、次年度以降に申請することはできません。

**編入・転部または転学部・転学科**した学生の場合は、それまで修得した単位のうち、各学部・学科が適当と認める科目の単位が認定されますので、指定された期間(入学時付書類に記載)に書類を所属キャンパスの教務窓口へ提出し申請してください。

### 協定校・認定校留学による 単位認定

協定校留学・認定校留学の制度によって留学した場合は、帰国後所定の手続きをふむことにより、留学先で修得した単位が各学部・学科の基準に従って認定されます。既修得単位と

### 3. 授業科目の種類と配置

#### 授業科目の種類

して認定された単位数と、入学後に交換留学等で認定される単位数は、合わせて60単位を越えないものとします。(大学学則第42条参照)ただし、教員免許状取得希望者の場合、認定された科目の単位は、教員免許状取得に係る単位として証明されません。

各授業科目は、卒業要件として必ず履修・修得しなければならないか否かによって、以下の3つに区分されます。

#### 授業科目の種類

必修科目	必ず履修し、単位を修得しなければならない科目
選択必修科目	指定されたいくつかの科目の中から選択履修し、各学部・学科所定の単位数を必ず修得しなければならない科目
選択科目	自由に選択履修し、必要単位数を修得する科目

上記の内容でわかるとおり、履修の際には、「必修科目」を優先して卒業要件単位を満たしていく必要があります。

また、授業の開講期間によって、1年を通じて実施する「通年科目」、前期あるいは後期で完結する「半期科目」、夏期・冬期休業期間などを利用して実施する「集中講義科目」に分かれます。

#### 履修年次

「履修年次」とは、それぞれの授業科目を履修するのが望ましい学年のことです。履修年次は、4年間の学習を系統的に行えるよう、カリキュラムに基づいて定められています。

履修年次は「IV. 学部履修要項」部分の科目配置表に記載されていますので、それに従って科目を履修してください。

原則として、現在の学年より上級の年次に配置されている授業科目を履修することはできませんが、現在の学年より下級の年次に配置されている授業科目であれば履修することができます。ただし、例外もありますので、「IV. 学部履修要項」で確認してください。

#### 履修順序

各学部・学科には、段階的に学習を進めるために「履修順序」が設けられた授業科目があります。これは、ある授業科目の単位を修得しなければ、その上級科目として設けられている授業科目を履修することができない、というものです。

上級に設けられた授業科目は、初級の授業科目の内容をすでに修得していることを前提とし、その次の段階から授業を始めます。したがって、初級の授業科目と上級の授業科目を同時に履修することはできません。ただし、4年次留年生は、学部・学科によっては履修順序に関係なく履修できる場合もあります。

各学部・学科の履修順序については、「IV. 学部履修要項」に記載されています。

## Ⅲ. 履修について

### 1. 履修計画

#### 履修計画の立案

大学においては、各学生がカリキュラムにそって履修計画を立て、受講したい科目を選択します。

授業科目には、あらかじめ登録されている「事前登録科目」（必修科目等）があり、学生はそれ以外の時限について履修計画を立てることになります。

履修計画を立てるに当たっては、カリキュラムについてよく理解し、所属学部・学科で定められた必修科目の修得と、進級や卒業に必要な履修規定上の必要条件（進級条件・卒業要件）を満たすことを優先させます。

第一部では、1年間で履修申請できる単位数が決められています。下記の(1)～(4)にそって、履修計画を立ててください。

- (1) 年度初めのオリエンテーション期間中に行われる所属学部・学科のガイダンスに出席する。

ガイダンスでは、履修上の注意や授業科目の説明が行われますので、必ず出席して最新の情報を得てください。

- (2) カリキュラムの内容、特徴、意義について知る。

「Ⅳ. 学部履修要項」の卒業要件単位表・科目配置表で、各授業科目がどのような分野に属しているかを確認してください。履修順序についても、ここで確認してください。

- (3) 各授業科目の講義内容を知る。

Web版『講義内容』（「学生ポータル」の「講義内容検索」よりアクセス可能）には、各授業の詳しい授業計画などが記載されています。履修しようと思う科目の内容をよく確認してください。具体的な授業内容を知りたい場合は、履修登録期間中に受講してみる、受講時に担当者に確認するなどの方法でも講義内容を確認できます。（履修登録期間終了後は、履修登録をしていない科目を受講することはできません。）

「Ⅳ. 学部履修要項」の「履修年次」は履修が望ましい年次を表しています。履修順序などで履修が制限されることがありますので、「Ⅳ. 学部履修要項」で必ず確認し、なるべく望ましい年次での履修を心がけてください。

- (4) 卒業に必要な科目と単位数、資格に必要な科目と単位数を知る。

卒業要件単位とは、卒業に必要な最低限の単位です。教員免許状および各種資格を取得するためには、これに加えてそれぞれに必要な所定の単位を修得しなければなりません。「Ⅳ. 学部履修要項」、「Ⅹ. 教職課程（教員免許状・各種資格）について」および冊子『教職課程履修の手引』を参照し、各自の目標に合った計画を立ててください。

#### 履修計画上の注意

履修計画に際しては、以下のことに注意してください。

- (1) 同一時限に、2科目以上の授業科目を重複して履修登録することはできません。（特に許可された科目を除きます。）
- (2) 第一部では各学部・学科で1年間の履修登録単位数の限度（最高履修制限単位）が定められており、その単位数を超えて履修することはできません。  
教職課程関連科目および教職課程科目については「Ⅳ. 学部履修要項」および冊子『教職課程履修の手引』を参照してください。
- (3) 既に単位を修得した科目を、再度履修登録することはできません。（特に許可された科目を除きます。）
- (4) 他キャンパスの授業科目を履修する場合、90分間の移動時間が必要です。この移動時間の間に実施されている授業科目の履修はできません。
- (5) 他学部科目の履修を希望する場合、「Ⅳ. 学部履修要項」の「他学部科目一覧表」を参

照してください。

- (6) 第一部の学生が第二部開講科目を履修することはできません。また、第二部の学生が第一部開講科目を履修することはできません。
- (7) 履修登録締め切り後、登録に不備や間違いがあったときは、当該科目の登録が無効となります。
- (8) 受講者数が著しく多い科目については、教室の収容人数、教育効果などを考慮して、クラスの分割・抽選などの措置を取ることがあります。

## 2. 履修登録

### 履修登録について

#### 1. 履修登録

「履修登録」は、年度初頭に、その年度に履修を希望する授業科目を大学に登録する、大変重要な手続きです。(集中講義科目、後期に開講される科目も年度初頭に履修登録を行います。)一科目でも登録もれや登録間違いがあってはなりません。『履修登録システム利用案内』をよく読み、各自の責任において、履修登録期間内に履修登録を完了してください。履修登録期間は「学生ポータル」で確認してください。

**制限科目の応募締切日時は、個々の科目により異なりますので、注意してください。**

#### 2. 後期履修変更

後期に履修変更期間を設けます。前期科目の成績を確認したうえで再度履修を見直し、必要がある場合は Web 履修登録システムを使用して各自で履修の変更を行ってください。履修変更期間以降の修正は、一切認めません。後期履修変更期間は、「学生ポータル」で確認してください。

後期の履修変更の際には、次の5点に注意してください。

- (1) 履修制限単位内で、後期科目のみの修正を行うことができます。
- (2) 受講者を制限する科目(抽選・制限カード・受講許可等)に関わる変更はできません。
- (3) 通年科目を削除しなければならない変更はできません。
- (4) 前期に修得できなかった科目と同一名称科目の再履修はできません。
- (5) (2)~(4)の制限にかかわらず、学部学科等から特に指定があった場合は、それに従ってください。

後期履修変更期間中に追加できる単位数は次のとおりです。(第一部学生のみ)

$$\text{後期履修変更期間に追加できる単位数 (後期科目のみ)} = \text{当該年度の最高履修制限単位} - \left[ \begin{array}{c} \text{前期修得単位数} \\ + \\ \text{前期に修得できなかった単位数} \\ + \\ \text{履修取消科目の単位数} \\ + \\ \text{通年科目の単位数} \end{array} \right]$$

## 履修登録の方法

本学の履修登録は、基本的には Web 上のシステム「Web 履修登録システム」（パソコンまたは学内情報端末を使用）で行います。詳細については、冊子『履修登録システム利用案内』を参照してください。

履修登録方法は次のとおりです。

### 【登録番号と履修登録方法】

『授業時間割表』の登録番号表示	履修登録方法
数字 5 桁で表示されている	Web 履修登録システムを利用して、自分で登録できます。履修登録期間内であれば、自分で削除することもできます。
+++++	Web で抽選または選考を行う科目です。Web 履修登録システムの「制限科目申請」から応募してください。抽選・選考の結果、履修登録された科目は、削除することはできません。曜日時限等に間違いのないよう、注意して応募してください。また、受付期間が科目によって異なりますので、注意してください。
*****	Web 以外で抽選または選考を行う科目です。所定の日時・場所（オリエンテーション期間中や初回授業等）で申請してください。申請方法については、『学年初頭行事』や『講義内容』、学部・学科等の指示に従ってください。抽選・選考の結果、履修登録された科目は、削除することはできません。
#####	事前に登録済または履修登録期間中に大学側で登録を行う科目です。自分で履修登録する必要はありません。
-----	受講が許可された学生のみ登録できます。学部学科等の指示に従ってください。

### 【ペア科目】

ペア科目とは、同一授業科目で、週 2 回以上授業を行う科目です。『授業時間割表』には「ペア」と記載されています。『授業時間割表』に記載されている登録番号で登録してください。対応するほかの曜日・時限も自動的に登録されます。

### 【集中講義科目】

集中講義科目とは、曜日・時間にかかわらず、一定の期間に集中して授業を行う科目です。『授業時間割表』の各学部・学科注意事項を確認のうえ登録してください。

### 【「健康・スポーツ演習」・「スポーツ運動実習」】

『学年初頭行事』を参照のうえ、これらの科目に関するガイダンスに出席してください。

## 履修登録の確認と修正

履修登録最終日は、アクセスが多く、登録に時間がかかります。「混みあってアクセスできなかった」という理由は認められませんので、余裕をもって履修登録が完了するようにしてください。

エラーが表示されたら、適切に対処してください。自分で解決できない場合は、所属キャンパス教務窓口で相談してください。

登録や修正を行った後は、必ず「履修登録画面」で履修登録リストを印刷して誤りがないか確認してください。印刷した履修登録リストは、年度末まで保管してください。確認を怠ったために生じた問題について、大学側は一切責任を負いません。

履修登録を行ったつもりで登録されていなかった科目や、誤って登録してしまった科目については、間違えたまま授業に出席し試験を受けても単位を修得することができないばかりでなく、登録していない科目の試験を受けることは不正行為とみなされ、処分の対象となり

ます（『試験における不正行為者処分規則施行細則』第2条参照）ので注意してください。

期日までに履修登録をしない場合は、修学の意志がないものとして、大学学則第34条に基づき除籍処分となります。

## 履修取消制度について

授業の内容が勉強したいものと異なっていた場合、履修登録（または後期履修変更）期間終了後の一定期間内であれば履修を取りやめることができます。

詳細は以下のとおりです。

- 1) 対象者：全学部生
- 2) 対象科目：下記①、②を除く全科目
  - ① 事前登録科目（履修登録期間中に大学側が登録する科目を含む）
  - ② 制限科目
  - ※ この他に学部・学科で対象外としている科目がある場合は「IV. 学部履修要項」に記載されていますので、参照してください。
  - ※ 夏期集中科目（後期扱い）の取消は前期の履修取消期間に申請してください。
- 3) 履修取消科目の扱い：本制度を利用して取り消した前期科目と同一名称の科目を後期に履修することはできません。
- 4) 履修取消科目の単位の扱い：本制度を利用して取り消した科目の単位数は、当該年度の申請単位数に含まれます。
- 5) 履修取消科目の成績評価の表示：
  - ① 成績通知書：「W」
  - ② 成績証明書：記載しない。

## 履修取消申請方法

履修取消の申請は、所定の期間内に所属キャンパスの教務窓口でのみ受け付けます。申請の取り下げは一切認められません。履修取消申請受付期間は、「学生ポータル」で確認してください。

## 青山学院女子短期大学との単位互換制度について

本学では青山学院女子短期大学との相互交流を促進し、学生の教育研究上の必要のため、単位互換に関する協定を締結しています。

本制度の利用を希望する学生は以下を参照し、履修手続きを行ってください。

- 1) 対象者：全学部生（2014年度は女子学生のみ）
- 2) 対象学年：2年生～4年生
- 3) 対象科目：別途「学生ポータル」にて指示。
- 4) 履修方法：定められた期間内に手続きを行ってください。

手続きについての期間や詳細は「学生ポータル」で確認してください。

  - ※ 1 履修が認められた科目の履修変更、履修取消は認めません。
  - ※ 2 受講に際しては女子短期大学の学事暦・時間割に従います。
- 5) 単位認定：所定の合格基準に達した場合は、大学の科目として単位が付与されます。成績証明書および成績通知書には「++」と表示されます。なお、単位が付与された場合でも、卒業要件には含まれません。



## IV. 理工学部履修要項

1. 青山スタンダード科目履修方法および配置表（2014年度入学者）	12
2. 物理・数理学科履修要項（2014年度入学者）	21
3. 化学・生命科学科履修要項（2014年度入学者）	35
4. 電気電子工学科履修要項（2014年度入学者）	44
5. 機械創造工学科 教育目標とカリキュラム（2014～2007年度入学者）	54
6. 機械創造工学科履修要項（2014年度入学者）	55
7. 経営システム工学科履修要項（2014年度入学者）	66
8. 情報テクノロジー学科履修要項（2014年度入学者）	76
9. 他学部科目一覧表	86

表の見方 「週時間数」の項目に記されている数字は、時間数を表す。

「週時間数」の表記	実際の授業時間（分）
2	90分
3	135分
4	180分 または、週2回のペア科目で、1回の授業が90分
6	週2回のペア科目で、1回の授業が135分

【青山スタンダード科目履修方法および配置表】

1. 全学部に通ずる教養教育の理念・目標

青山学院の教育方針は、キリスト教信仰にもとづく教育を基盤として、幅広く深い知識を授けることにより、主体的な学習能力、着実な思考力、問題解決能力および総合的な判断力を培い、愛と奉仕の精神をもってすべての人と社会とに対する責任を進んで果たす、人間性豊かで国際性に富む人材を育成することです。

本学の全学部に通ずる教養教育は、この理念をうけて、「およそ青山学院大学の卒業生であれば、どの学部・学科を卒業したかに関わりなく、一定の水準の技能・能力と一定の範囲の知識・教養をそなえているという社会的評価を受けることを到達目標とする」として、青山スタンダード科目を開講しています。

2. 履修方法

科目の種類			必選の別	必要単位
青山スタンダード科目	1) 教養コア	キリスト教理解関連科目	必修	2
	2) 技能コア	言葉の技能	英語	※1
			第二外国語 ※2 ※3	必修
		身体の技能	必修 ※4	2
		情報の技能	必修	2
	3) テーマ別	キリスト教理解関連科目	必修	2
	4) 教養コア	人間理解関連科目 社会理解関連科目 自然理解関連科目 歴史理解関連科目	左記4領域のうち2領域から「教養コア科目」を選択	選択必修
5) 領域指定	人間理解関連科目 社会理解関連科目 自然理解関連科目 歴史理解関連科目	左記領域より4)で選択しなかった2領域から各1科目(2単位)ずつ選択。(「教養コア科目」あるいは「テーマ別科目」いずれも可)	選択必修	4
	フレッシュャーズ・セミナー、ウェルカム・レクチャー、キャリアデザイン・セミナー、教養コア科目、技能コア科目、テーマ別科目から選択。(1)~5)で修得した科目は除く)	選択	6	

※1 言葉の技能・英語は、所属する学部(学科)が開講する科目を履修します。詳しくは、所属する学部(学科)の外国語科目履修方法および配置表に関するページを参照してください。(英語スキルI-1、I-2を除く)

※2 第二外国語科目の中から1外国語を選択します(入学手続き時に申請されています)。

※3 第二外国語科目には、履修順序があります。

・第二外国語科目は、それぞれ前期の単位が修得できた者のみが後期の履修を認められます。

・「インテンシブ・(第二外国語)」は週に半期4クラスをセットとし前後期で履修登録するものです。このうち前期4クラスのどれか一つでも不合格となれば後期4クラスを履修することはできません。

・「インテンシブ・(第二外国語)」「(第二外国語)Ⅱ」あるいは「(第二外国語)会話(I)」は、「(第二外国語)Ⅰ」の必要単位をすべて修得した者のみが履修を認められます。

・「(第二外国語)Ⅲ」は、「インテンシブ・(第二外国語)(A)~(D)-1」あるいは「(第二外国語)Ⅱ-2」の単位を修得した者のみが履修を認められます。

・「(第二外国語)会話(Ⅱ)」は、「インテンシブ・(第二外国語)(A)~(D)-1」「(第二外国語)Ⅱ-2」あるいは「(第二外国語)会話(I)-2」の単位を修得した者のみが履修を認められます。

※4 教育人間科学部教育・経済・経営・総合文化政策・社会情報のみ必修です。

○ 必要単位以上修得した場合は、卒業要件の中の自由選択科目に算入されます。

○ 第二外国語として修得した外国語以外の第二外国語科目を修得した単位は、卒業要件の中の自由選択科目に算入されます。

- 受講者数の著しく多い科目については、教室の収容人数、教育効果等を考慮して、クラスの分割・抽選などの措置をとることがあります。

3. 授業科目配置表

(太字は必修項目)

		授 業 科 目	単 位	配 置 年 次	備 考	
		フレッシュャーズ・セミナー	2	1	1年生のみ	
		ウェルカム・レクチャー	2	1	1年生のみ	
		キャリアデザイン・セミナー	2	1	1年生のみ	
教 養 コ ア 科 目		(キリスト教理解関連科目) <b>キ リ ス ト 教 概 論 I</b>	<b>2</b>	<b>1</b>		
		(人間理解関連科目) 自 己 理 解 (総 合 科 目) 自 己 理 解 (個 別 科 目)	2 2	1 1	(総合科目)：複数の教員による担当 (個別科目)：一人の教員による担当	
		(社会理解関連科目) 現代社会の諸問題 (総合科目) 現代社会の諸問題 (個別科目)	2 2	1 1	(総合科目)：複数の教員による担当 (個別科目)：一人の教員による担当	
		(自然理解関連科目) 科学・技術の視点 (総合科目) 科学・技術の視点 (個別科目)	2 2	1 1	(総合科目)：複数の教員による担当 (個別科目)：一人の教員による担当	
		(歴史理解関連科目) 歴 史 と 人 間 (総 合 科 目) 歴 史 と 人 間 (個 別 科 目)	2 2	1 1	(総合科目)：複数の教員による担当 (個別科目)：一人の教員による担当	
技 能 コ ア	言 語 の 技 能	英 語 ・ 第 一 外 国 語	英 語 ス キ ル I - 1	1	1	1年生のみ
			英 語 ス キ ル I - 2	1	1	1年生のみ
			(第二外国語) I (A) - 1	1	1	(第二外国語)はフランス語(フランス文学科除く)、ドイツ語、スペイン語、中国語、ロシア語、韓国語を指します。
			(第二外国語) I (A) - 2	1	1	
			(第二外国語) I (B) - 1	1	1	
			(第二外国語) I (B) - 2	1	1	
			英 語 I - 1	1	1	
			英 語 I - 2	1	1	
			英 語 ( I A ) - 1	1	1	外国人留学生のみ
			英 語 ( I A ) - 2	1	1	外国人留学生のみ
			英 語 ( I B ) - 1	1	1	外国人留学生のみ
			英 語 ( I B ) - 2	1	1	外国人留学生のみ
			日 本 語 I ( A ) - 1	1	1	外国人留学生のみ
			日 本 語 I ( A ) - 2	1	1	外国人留学生のみ
	日 本 語 I ( B ) - 1	1	1	外国人留学生のみ		
日 本 語 I ( B ) - 2	1	1	外国人留学生のみ			
身 体 の 技 能	健 康 ・ ス ポ ー ツ 演 習	2	1	教育人間科学部教育・経済・経営・総合文化政策・社会情報のみ必修		
情 報 の 技 能	情 報 ス キ ル I	2	1			
テ ー マ 別 科 目	キ リ ス ト 教 理 解 関 連 科 目 (領域A)	<b>キ リ ス ト 教 概 論 II</b>	<b>2</b>	<b>2・3</b>	理工学部・社会情報学部は2年次 他は3年次配置	
		旧 約 聖 書 と 人 間	2	2・3・4		
		新 約 聖 書 と 人 間	2	2・3・4		
		キ リ ス ト 教 生 命 倫 理	2	2・3・4		
		キ リ ス ト 教 政 治 倫 理	2	2・3・4		
		キ リ ス ト 教 と 自 然 科 学	2	2・3・4	両キャンパス隔年開講	
	キ リ ス ト 教 環 境 倫 理	2	2・3・4	両キャンパス隔年開講		

		授 業 科 目	単 位	配 置 年 次	備 考	
キ リ ス ト 教 理 解 関 連 科 目	(領域A)	キ リ ス ト 教 音 楽	2	2・3・4		
		キ リ ス ト 教 美 術	2	2・3・4		
		メ ソ ジ ス ト 教 会 史	2	2・3・4		
		世 界 の 諸 宗 教	2	2・3・4	両キャンパス隔年開講	
		聖書の中の女性たち(旧約)	2	2・3・4	両キャンパス隔年開講	
		聖書の中の女性たち(新約)	2	2・3・4	両キャンパス隔年開講	
		サービ <span>ス</span> ・ラーニング I	2	2・3・4		
		サービ <span>ス</span> ・ラーニング II	2	2・3・4		
		海外語学・キリスト教文化研修	2	2・3・4		
	テ ー マ 別 科 目	(領域B)	哲 学 A	2	2・3・4	
			哲 学 B	2	2・3・4	
			哲 学 の 諸 問 題 A	2	2・3・4	
			哲 学 の 諸 問 題 B	2	2・3・4	
			哲 学 の 諸 問 題 C	2	2・3・4	
			哲 学 の 諸 問 題 D	2	2・3・4	
			論 理 学 A	2	2・3・4	
			論 理 学 B	2	2・3・4	
			論 理 学 の 諸 問 題 A	2	2・3・4	
			論 理 学 の 諸 問 題 B	2	2・3・4	
			倫 理 学 A	2	2・3・4	
			倫 理 学 B	2	2・3・4	
			倫 理 学 の 諸 問 題 A	2	2・3・4	
			倫 理 学 の 諸 問 題 B	2	2・3・4	
			西 洋 倫 理 思 想 史 A	2	2・3・4	
			西 洋 倫 理 思 想 史 B	2	2・3・4	
			言 語 学 A	2	2・3・4	
			言 語 学 B	2	2・3・4	
日 本 語 学 A			2	2・3・4		
日 本 語 学 B			2	2・3・4		
文 学 A			2	2・3・4		
文 学 B			2	2・3・4		
文 学 史 A			2	2・3・4		
文 学 史 B			2	2・3・4		
美 術 A			2	2・3・4		
美 術 B			2	2・3・4		
美 術 史 A			2	2・3・4		
美 術 史 B			2	2・3・4		
音 楽 A			2	2・3・4		
音 楽 B			2	2・3・4		
音 楽 史 A			2	2・3・4		
音 楽 史 B			2	2・3・4		
文 化 人 類 学 A			2	2・3・4		
文 化 人 類 学 B	2	2・3・4				
比 較 文 化 A	2	2・3・4				
比 較 文 化 B	2	2・3・4				
比 較 文 化 の 諸 問 題 A	2	2・3・4				
比 較 文 化 の 諸 問 題 B	2	2・3・4				
心 理 学 A	2	2・3・4	心理学科除く			
心 理 学 B	2	2・3・4	心理学科除く			

		授 業 科 目	単 位	配 置 年 次	備 考
テ ー マ 別 科 目	人間理解関連科目 (領域B)	教 育 学 A	2	2・3・4	
		教 育 学 B	2	2・3・4	
		平 和 を 考 え る A	2	2・3・4	
		平 和 を 考 え る B	2	2・3・4	
		人間関係とコミュニケーションA	2	2・3・4	
		人間関係とコミュニケーションB	2	2・3・4	
		文化とコミュニケーションA	2	2・3・4	国際政治経済学部除く
		文化とコミュニケーションB	2	2・3・4	国際政治経済学部除く
	社会理解関連科目 (領域C)	法学(日本国憲法を含む)A	2	2・3・4	法学部除く。 教員免許状取得申請者は、1年次から履修できます。
		法学(日本国憲法を含む)B	2	2・3・4	
		日 本 の 法 と 社 会 A	2	2・3・4	
		日 本 の 法 と 社 会 B	2	2・3・4	
		国 際 政 治 経 済 学 A	2	2・3・4	
		国 際 政 治 経 済 学 B	2	2・3・4	
		国 際 関 係 概 論 A	2	2・3・4	
		国 際 関 係 概 論 B	2	2・3・4	
		社 会 学 A	2	2・3・4	
		社 会 学 B	2	2・3・4	
		現代社会と教育人間学A	2	2・3・4	
		現代社会と教育人間学B	2	2・3・4	
		経 済 学 A	2	2・3・4	経済学部除く
		経 済 学 B	2	2・3・4	経済学部除く
		情 報 社 会 科 学 A	2	2・3・4	
		情 報 社 会 科 学 B	2	2・3・4	
		情 報 社 会 論	2	2・3・4	
		社 会 情 報 論	2	2・3・4	
		人 口 問 題 A	2	2・3・4	
		人 口 問 題 B	2	2・3・4	
		フ ェ ミ ニ ズ ム A	2	2・3・4	
		フ ェ ミ ニ ズ ム B	2	2・3・4	
		民 族 問 題 A	2	2・3・4	
		民 族 問 題 B	2	2・3・4	
マスメディアと社会		2	2・3・4		
データサイエンス		2	2・3・4		
福 祉 と 人 間 A		2	2・3・4		
福 祉 と 人 間 B		2	2・3・4		
グローバリゼーションとWTO	2	2・3・4			
日 本 農 業 と W T O	2	2・3・4			
環 境 問 題 と 社 会	2	2・3・4	NPO 環境平和持続の会寄附講座		
自然理解関連科目 (領域D)	技 術 史 A	2	2・3・4		
	技 術 史 B	2	2・3・4		
	日 常 生 活 の 数 理	2	2・3・4		
	数 理 科 学 入 門 I	2	2・3・4	理工学部・社会情報学部を除く	
	数 理 科 学 入 門 II	2	2・3・4	理工学部・社会情報学部を除く	
	数 理 科 学 の 視 点	2	2・3・4		
	数 理 モ デ ル	2	2・3・4		
	自 然 科 学 概 論 A	2	2・3・4		
自 然 科 学 概 論 B	2	2・3・4			
文化としての科学・技術A	2	2・3・4			

		授 業 科 目	単 位	配 置 年 次	備 考
テ ー マ 別 科 目	自然理解関連科目 (領域D)	文化としての科学・技術B	2	2・3・4	
		生活と先端テクノロジー	2	2・3・4	
		ライフサイエンス	2	2・3・4	
		ゲノム	2	2・3・4	
		生物と地球環境	2	2・3・4	
		地球環境保全	2	2・3・4	
		バイオテクノロジーと生命倫理	2	2・3・4	
		地球観(自然と人の倫理)	2	2・3・4	
		生命と地球の歴史	2	2・3・4	
		宇宙科学	2	2・3・4	
		野鳥の生態	2	2・3・4	
		鳥類と生物多様性	2	2・3・4	
		植物生態学	2	2・3・4	
		先端エレクトロニクス	2	2・3・4	
		環境科学 A	2	2・3・4	
		環境科学 B	2	2・3・4	
		自然地理学 A	2	2・3・4	
		自然地理学 B	2	2・3・4	
		科学史	2	2・3・4	
		生命と生態系(環境と生物)	2	2・3・4	
	生命の連続(遺伝)	2	2・3・4		
	かたちの科学	2	2・3・4		
	自然史	2	2・3・4		
	自然観の変遷	2	2・3・4		
	歴史理解関連科目 (領域E)	青山学院大学の歴史	2	2・3・4	
		日本社会史 A	2	2・3・4	
		日本社会史 B	2	2・3・4	
		日本社会史 C	2	2・3・4	
		中国史 A	2	2・3・4	
		中国史 B	2	2・3・4	
		ヨーロッパ史 A	2	2・3・4	
		ヨーロッパ史 B	2	2・3・4	
		ヨーロッパ史 C	2	2・3・4	
現代史 A		2	2・3・4		
現代史 B		2	2・3・4		
現代史 C		2	2・3・4		
現代史 D		2	2・3・4		
考古学 A	2	2・3・4			
考古学 B	2	2・3・4			
科学思想史 A	2	2・3・4			
言葉の技能 (領域F)	インテンシブ・(第二外国語) (A)-1	1	2・3・4	(第二外国語)はフランス語(フランス文学科除く)、ドイツ語、スペイン語、中国語、ロシア語、韓国語を指します。	
	インテンシブ・(第二外国語) (A)-2	1	2・3・4		
	インテンシブ・(第二外国語) (B)-1	1	2・3・4		
	インテンシブ・(第二外国語) (B)-2	1	2・3・4		
	インテンシブ・(第二外国語) (C)-1	1	2・3・4		
	インテンシブ・(第二外国語) (C)-2	1	2・3・4		
	インテンシブ・(第二外国語) (D)-1	1	2・3・4		
	インテンシブ・(第二外国語) (D)-2	1	2・3・4		

	授 業 科 目	単 位	配 置 年 次	備 考
テ ー マ 別 科 目	(第二外国語)Ⅱ(A)-1	1	2・3・4	(第二外国語)はフランス語(フランス文学科除く)、ドイツ語、スペイン語、中国語を指します。
	(第二外国語)Ⅱ(A)-2	1	2・3・4	
	(第二外国語)Ⅱ(B)-1	1	2・3・4	
	(第二外国語)Ⅱ(B)-2	1	2・3・4	
	(第二外国語)Ⅱ(C)-1	1	2・3・4	
	(第二外国語)Ⅱ(C)-2	1	2・3・4	
	(第二外国語)Ⅱ-1	1	2・3・4	(第二外国語)はロシア語、韓国語を指します。
	(第二外国語)Ⅱ-2	1	2・3・4	
	英 語 Ⅱ -1	1	2・3・4	フランス文学科のみ
	英 語 Ⅱ -2	1	2・3・4	
	英 語 (Ⅱ A)-1	1	2・3・4	外国人留学生のみ
	英 語 (Ⅱ A)-2	1	2・3・4	
	英 語 (Ⅱ B)-1	1	2・3・4	
	英 語 (Ⅱ B)-2	1	2・3・4	
	日 本 語 Ⅱ -1	1	2・3・4	外国人留学生のみ
	日 本 語 Ⅱ -2	1	2・3・4	
	(第二外国語)Ⅲ-1	1	3・4	(第二外国語)はドイツ語、スペイン語、中国語、ロシア語、韓国語を指します。
	(第二外国語)Ⅲ-2	1	3・4	
	フランス語Ⅲ(A)-1	1	3・4	フランス文学科除く
	フランス語Ⅲ(A)-2	1	3・4	
	フランス語Ⅲ(B)-1	1	3・4	
	フランス語Ⅲ(B)-2	1	3・4	
	英 語 Ⅲ -1	1	3・4	フランス文学科のみ
	英 語 Ⅲ -2	1	3・4	
	英 語 (Ⅲ)-1	1	3・4	外国人留学生のみ
	英 語 (Ⅲ)-2	1	3・4	
	日 本 語 Ⅲ -1	1	3・4	外国人留学生のみ
	日 本 語 Ⅲ -2	1	3・4	
	(第二外国語)会話(Ⅰ)-1	1	2・3・4	(第二外国語)はフランス語(フランス文学科除く)、ドイツ語、スペイン語、中国語、ロシア語、韓国語、英語(フランス文学科のみ)を指します。
	(第二外国語)会話(Ⅰ)-2	1	2・3・4	
	(第二外国語)会話(Ⅱ)-1	1	3・4	(第二外国語)はフランス語(フランス文学科除く)、ドイツ語、スペイン語、中国語、ロシア語、韓国語を指します。
	(第二外国語)会話(Ⅱ)-1	1	3・4	
日 本 語 (ⅠS) A	1	3	交換留学生のみ	
日 本 語 (ⅠF) A	1	3		
日 本 語 (ⅠS) B	1	3		
日 本 語 (ⅠF) B	1	3		
日 本 語 (ⅠS) C	1	3		
日 本 語 (ⅠF) C	1	3		
日 本 語 (ⅠS) D	1	3		
日 本 語 (ⅠF) D	1	3		
日 本 語 (ⅡS) A	1	3		
日 本 語 (ⅡF) A	1	3		
日 本 語 (ⅡS) B	1	3		
日 本 語 (ⅡF) B	1	3		
日 本 語 (ⅡS) C	1	3		
日 本 語 (ⅡF) C	1	3		
日 本 語 (ⅡS) D	1	3		



	授 業 科 目	単 位	配 置 年 次	備 考	
テ ー マ 別 科 目	言葉の技能 (領域F)	英 語 圏 の 社 会 と 文 化 B	2	2・3・4	
		フ ラ ン ス 語 圏 の 社 会 と 文 化 A	2	2・3・4	
		フ ラ ン ス 語 圏 の 社 会 と 文 化 B	2	2・3・4	
		フ ラ ン ス 語 圏 の 社 会 と 文 化 C	2	2・3・4	
		ド イ ツ 語 圏 の 社 会 と 文 化 A	2	2・3・4	
		ド イ ツ 語 圏 の 社 会 と 文 化 B	2	2・3・4	
		ド イ ツ 語 圏 の 社 会 と 文 化 C	2	2・3・4	
		ス ペ イ ン 語 圏 の 社 会 と 文 化 A	2	2・3・4	
		ス ペ イ ン 語 圏 の 社 会 と 文 化 B	2	2・3・4	
		ス ペ イ ン 語 圏 の 社 会 と 文 化 C	2	2・3・4	
		中 国 語 圏 の 社 会 と 文 化 A	2	2・3・4	
		中 国 語 圏 の 社 会 と 文 化 B	2	2・3・4	
		中 国 語 圏 の 社 会 と 文 化 C	2	2・3・4	
		ロ シ ア 語 圏 の 社 会 と 文 化 A	2	2・3・4	
		ロ シ ア 語 圏 の 社 会 と 文 化 B	2	2・3・4	
		韓 国 ・ 朝 鮮 の 社 会 と 文 化 A	2	2・3・4	
		韓 国 ・ 朝 鮮 の 社 会 と 文 化 B	2	2・3・4	
		イ ス ラ ム 圏 の 社 会 と 文 化 A	2	2・3・4	
		イ ス ラ ム 圏 の 社 会 と 文 化 B	2	2・3・4	
		日 本 学 A	2	2・3・4	交換留学生・外国人留学生のみ
	日 本 学 B	2	2・3・4	交換留学生・外国人留学生のみ	
	English Studies A	2	2・3・4		
	English Studies B	2	2・3・4		
	English Studies C	2	2・3・4		
	English Studies E	2	2・3・4		
	こ と ば の 研 究 A	2	2・3・4		
	こ と ば の 研 究 B	2	2・3・4		
	少 数 民 族 の 社 会 と 文 化 A	2	2・3・4		
	少 数 民 族 の 社 会 と 文 化 B	2	2・3・4		
	民 族 文 化 論 A	2	2・3・4		
	民 族 文 化 論 B	2	2・3・4		
	身体の技能 (領域G)	健 康 医 学	2	2・3・4	
		身 体 の 仕 組 み と 病 気 A	2	2・3・4	
身 体 の 仕 組 み と 病 気 B		2	2・3・4		
ス ポ ー ツ 生 理 学		2	2・3・4		
ス ポ ー ツ バイオメカニクス		2	2・3・4		
ス ポ ー ツ 心 理 学		2	2・3・4		
動 き の 人 間 学		2	2・3・4		
医 療 社 会 学		2	2・3・4		
ス ポ ー ツ 運 動 実 習		1	2・3・4	4回まで重複履修を認めます。 教員免許状取得申請者は、1年次から履修できます。	
ア ド バ ン ス ト ス ポ ー ツ 実 習		2	2・3・4		
情報 の 技 能 (領域H)	プ ロ グ ラ ミ ン グ 基 礎 I	2	2・3・4		
	プ ロ グ ラ ミ ン グ 基 礎 II	2	2・3・4		
	情 報 ス キ ル II	2	2・3・4		
	e ラ ー ニ ン グ の 法 的 課 題 入 門	2	2・3・4		
キ ャ リ ア の 技 能 (領域I)	キ ャ リ ア デ ザ イン 基 礎	2	2・3・4		
	キ ャ リ ア デ ザ イン 応 用	2	3・4		
	仕 事 力 基 礎 論	2	2・3・4		

青山スタンダード科目

		授 業 科 目	単 位	配 置 年 次	備 考
テ ー マ 別 科 目	キ ャ リ ア の 技 能 ( 領 域 Ⅰ)	日 本 語 文 章 作 成 演 習	2	2・3・4	
		国 際 ビ ジ ネ ス 入 門 A	2	2・3・4	
		国 際 ビ ジ ネ ス 入 門 B	2	2・3・4	
		感 性 ビ ジ ネ ス A -ファッション産業のフロンティア-	2	2・3・4	
		感 性 ビ ジ ネ ス B -ファッション産業のフロンティア-	2	2・3・4	
		感 性 ビ ジ ネ ス C -ファッション・ビジネス戦略論-	2	2・3・4	(財)ファッション産業人材育成機構 (IFI) 寄附講座
		感 性 ビ ジ ネ ス D -ファッション・ビジネス戦略論-	2	2・3・4	(財)ファッション産業人材育成機構 (IFI) 寄附講座
		パーソナル・マナー・マネジメント入門	2	2・3・4	三井生命寄附講座
		企業モノづくりと人づくりのリテラシー	2	2・3・4	
		国際ビジネスと海外事情A	2	2・3・4	
		国際ビジネスと海外事情B	2	2・3・4	
		現代金融の諸問題	2	2・3・4	金融青山会寄附講座
		ファイナンシャルプランニング入門	2	2・3・4	(株)近代セールス社寄附講座
		ファイナンシャルプランニング基礎	2	2・3・4	(株)近代セールス社寄附講座
		囲碁で養うロジカルシンキング	2	2・3・4	公益財団法人日本棋院寄附講座
		ファッション流通ビジネス論	2	2・3・4	
		海外語学・文化研修Ⅰ	2	2・3・4	
		海外語学・文化研修Ⅱ	2	2・3・4	
		海外語学・文化研修Ⅲ	2	2・3・4	
		ビジネスコミュニケーション	2	2・3・4	
世 界 遺 産 入 門	2	2・3・4	NPO 法人世界遺産アカデミー寄附講座		

## 【物理・数理学科履修要項】 (2014年度入学者)

## 【1】履修について

## 1. 学位

物理・数理学科に4年以上（ただし8年を限度とします）在学し、卒業に必要な138単位以上を修得した者には、「学士（理学）」の学位が授与されます。

## 2. 卒業要件

本学科を卒業するためには、卒業要件単位表に示す区分ごとに、それぞれ必要な単位を修得しなければなりません。

卒業要件単位表

系 列		必選の別		単 位	
				物理科学 コース	数理 サイエンス コース
青山スタンダード科目		p. 12参照		24	24
外国語科目	英語	必 修		8	8
		選択必修		2	2
学科科目	数学・共通科目	必 修	◎	14	14
	専門実験・実習・演習	必 修	◎	14	12
		選択必修	◇	6	—
	輪講・卒業研究	必 修	◎	12	12
	第1科目群	必 修	◎	12	4
		選択必修	◆	18	—
		選択必修	▲	—	16
	第2科目群	選択必修	△	22	—
選択必修		▽	—	34	
自由選択科目	青山スタンダード科目	選 択		6	12
	外国語科目				
	学科科目				
	他学科科目				
	他学部科目				
合 計				138	

物理・数理学科 (2014 年度入学者)

外国人留学生  
卒業要件単位表

系 列		必選の別	単位	
			物理科学 コース	数理 サイエンス コース
青山スタンダード科目		p. 12参照	24	24
外国語科目	英語	必 修	10	10
学科科目	数学・共通科目	必 修 ◎	14	14
	専門実験・実習・演習	必 修 ◎	14	12
		選択必修 ◇	6	-
	輪講・卒業研究	必 修 ◎	12	12
	第 1 科目群	必 修 ◎	12	4
		選択必修 ◆	18	-
		選択必修 ▲	-	16
	第 2 科目群	選択必修 △	22	-
選択必修 ▽		-	34	
自由選択科目	青山スタンダード科目	選 択	6	12
	外国語科目			
	学科科目			
	他学科科目			
	他学部科目			
合 計			138	

## 3. 最高履修制限単位

最高履修制限単位とは、各年度で履修申請できる最高限度の単位数です。

理工学部における最高履修制限単位は次のとおりです。各年次でこの表に示す単位数を超えて履修することはできません。なお、各年次において、1科目以上の履修をしなければなりません。

学年	1～4年次	合計
最高履修制限単位	各48単位	192単位

(注意) 教職課程科目および「地学」「地学実験」「生物学実験」の単位は、最高履修制限単位に含まれません。

## 4. 修得単位僅少者

入学後の2年間(休学期間を除く)で修得単位が32単位に満たない者は、成業の見込みのない者として除籍されることがありますので、該当しないよう特に注意してください。

## 5. 進級条件

3年次生から4年次生に進級するためには、3年次終了時に「卒業研究」の履修条件を満たしている必要があります。

ただし、本学の3年次後期から4年次前期に相当する期間に協定校または認定校に留学する学生に限り、4年次の後期授業開始までに卒業研究の履修条件を満たすことを条件に4年次に進級し、「卒業研究A」(8単位、後期週24時間)「物理学輪講A」(4単位、後期週8時間)、「物理専門実験A」「数理専門実験A」(2単位、前期週6時間)を履修することができます。留学前に学科に申し出、学科の指示に従ってください。

## 6. 卒業研究の履修条件

卒業研究の履修条件は、以下のとおりです。

- 1) 3年以上在学していること。
- 2) 3年次までの必修科目のうち下記の科目を除く卒業要件単位を満たしていること。

物理科学コース

青山スタンダード科目の「第二外国語科目」

学科科目の「コンピュータアプリケーション演習」および「統計力学Ⅰ」

数理サイエンスコース

青山スタンダード科目の「第二外国語科目」

学科科目の「コンピュータアプリケーション演習」

- 3) 学科科目の選択必修科目(物理科学コースは◇◆△、数理サイエンスコースは▲▽印の科目)中より38単位以上修得していること。
- 4) 卒業要件内単位のうち116単位以上修得していること。

## 【2】 外国語科目 (英語) 配置表および履修方法

### 1. 外国語科目履修方法

外国語のクラスは指定制なので指定以外のクラスで履修することはできません。  
 なお、所要単位を超えて修得した単位は自由選択科目の選択の単位に算入されます。

### 2. 外国語科目配置表

#### 外国語科目 (英語)

◎印の 8 単位 必修  
 ★から 2 単位 選択必修

授 業 科 目	単 位	週 時 間 数								履 修 条 件	
		1 年		2 年		3 年		4 年			
		前	後	前	後	前	後	前	後		
◎English Core I-a	1	2									
◎English Core I-b	1	2									
◎English Core I-c	1		2								
◎English Core I-d	1		2								
◎English Core II-a	1			2							
◎English Core II-b	1			2							
◎English Core II-c	1				2						
◎English Core II-d	1				2						
★Public Speaking A	1					2					
★Public Speaking B	1						2				
★Advanced Skills A	1					2				受講にあたっては事前に 担当者の許可が必要です。	
★Advanced Skills B	1						2				
★English Comprehension A	1					2					
★English Comprehension B	1						2				
★English for Engineers A	1					2					
★English for Engineers B	1						2				
★Study Abroad A	2				2					※下記参照	
★Study Abroad B	2				2						

※Study Abroad A、B  
 の履修について

理工学部では、2013年度入学生より海外研修を実施しています。海外研修に参加したものが、一定の条件を満たすことにより、単位を修得することが可能です。ただし、卒業に必要な単位として認められるのは、A、Bそれぞれ1回ずつ、計2回の参加までです。参加希望者はオリエンテーションに必ず参加し、プログラムの詳細を確認してください。

◎外国人留学生の外国語科目 (日本語) 配置表および履修方法

◎外国人留学生  
 外国語科目 (日本語)  
 配置表  
 ◎の10単位 必修

授 業 科 目	単 位	週 時 間 数								履 修 条 件	
		1 年		2 年		3 年		4 年			
		前	後	前	後	前	後	前	後		
◎ 日 本 語 初 級 A-1	1	2									
◎ 日 本 語 初 級 A-2	1		2								日本語初級A-1 修得者のみ履修可
◎ 日 本 語 初 級 B-1	1	2									
◎ 日 本 語 初 級 B-2	1		2								日本語初級B-1 修得者のみ履修可
◎ 日 本 語 初 級 C-1	1	2									
◎ 日 本 語 初 級 C-2	1		2								日本語初級C-1 修得者のみ履修可
◎ 日 本 語 中 級 A-1	1			2							日本語初級A-2、B-2、C-2の うち2科目以上修得者のみ履修可
◎ 日 本 語 中 級 A-2	1				2						日本語中級A-1 修得者のみ履修可
◎ 日 本 語 中 級 B-1	1			2							日本語初級A-2、B-2、C-2の うち2科目以上修得者のみ履修可
◎ 日 本 語 中 級 B-2	1				2						日本語中級B-1 修得者のみ履修可
日 本 語 上 級 - 1	1					2					青山キャンパス開講科目 日本語中級A-2、B-2のうちい ずれかの科目の修得者のみ履修可
日 本 語 上 級 - 2	1						2				青山キャンパス開講科目 日本語上級-1 修得者のみ履修可

なお、日本語上級-1、上級-2は自由選択科目の選択単位に算入されます。

外国人留学生  
 第二外国語科目履修方法

※第二外国語科目配置表は青山スタンダード科目配置表の言葉の技能〔領域F〕・テーマ別科目〔領域F〕を参照してください。

※入学手続時に申請した科目以外は履修できません。

・言葉の技能〔領域F〕(第二外国語科目)の必要単位  
 必修(4単位)

フランス語、ドイツ語、スペイン語、中国語、ロシア語、韓国語、英語のうちから  
 1外国語を履修してください。

・テーマ別科目〔領域F〕を修得した場合、その単位は自由選択科目の単位に算入されます。

※本学入学以前に、高等学校あるいは海外等ですでに学習したことのある者が、その学力をI(A)・I(B)修了者に準ずると認定された場合、IIの科目で卒業に必要な単位に充当することができます。詳細は、『学年初頭行事』を参照してください。

◎交換留学生の外国語科目配置表および履修方法

交換留学生の履修は別途指導します。

授 業 科 目	単 位	備 考
日 本 語 ( I )	2	青山キャンパス開講
日 本 語 ( II )	2	
日 本 語 ( III )	2	
日 本 語 ( IV )	2	
日 本 語 ( V )	2	

### 【3】 学科科目配置表及び履修方法

#### 1. 学科科目履修方法

(1) 学科科目について

学科科目の卒業要件は、「卒業要件単位表」を参照してください。

規定以上に修得した選択必修科目の単位は自由選択科目の選択の単位に算入されます。

(2) コースについて

物理・数理学科では、2年次より2コース（物理科学コース、数理サイエンスコース）に分かれます。所属コースによってカリキュラムが異なりますので、科目配置表をもとに学習計画をたててください。なお、決定後のコース変更はできませんので注意してください。

#### 2. 学科科目配置表

理工学部生以外の履修は原則として許可しません。

◎は必修 ◇・◆・▲・△・▽は選択必修

#### 1 年次科目配置表

1 年次は、以下の授業科目から単位を修得してください。

##### 数学・共通科目

◎の科目14単位 必修

授 業 科 目	単 位	週 時 間 数								備 考	
		1 年		2 年		3 年		4 年			
		前	後	前	後	前	後	前	後		
◎力 学 I	2	2									
◎力 学 II	2		2								
◎線 形 代 数 I A	2	2									
◎線 形 代 数 I B	2		2								
◎解 析 学 I A	2	2									
◎解 析 学 I B	2		2								
◎基 礎 物 理 数 学	2	2									

##### 専門実験・実習・演習

◎の科目8単位 必修

◎物 理 基 礎 実 験 I	1	4									
◎物 理 基 礎 実 験 II	1		4								
◎化 学 基 礎 実 験	2		4								
			前期又は後期								
◎電 気 計 測 実 験	1		4								
			前期又は後期								
◎も の づ くり 実 習	1		4								
			前期又は後期								
◎情 報 処 理 実 習	2		4								
			前期又は後期								

##### 第2科目群

2年次以降の所属コースにより必要単位が異なります。(P. 21参照)

△▽数 学 演 習 A	2	2									
△▽数 学 演 習 B	2		2								
△▽物 理 学 演 習 I	2		2								

##### 選択科目

化 学 I	2	2									
化 学 II	2		2								

学科科目配置表

物理科学コース

数学・共通科目

◎の科目14単位 必修

各コースで決められた授業科目の単位を修得してください。  
自コース以外の科目を履修した場合は選択科目となります。

授 業 科 目	単 位	週 時 間 数								備 考	
		1 年		2 年		3 年		4 年			
		前	後	前	後	前	後	前	後		
◎力 学 I	2	2									
◎力 学 II	2		2								
◎線 形 代 数 I A	2	2									
◎線 形 代 数 I B	2		2								
◎解 析 学 I A	2	2									
◎解 析 学 I B	2		2								
◎基 礎 物 理 数 学	2	2									

専門実験・実習・演習

◎の科目14単位 必修

◇の科目の中から

6 単位 選択必修

◎物 理 基 礎 実 験 I	1	4									
◎物 理 基 礎 実 験 II	1		4								
◎化 学 基 礎 実 験	2		4 前期又は後期								
◎電 気 計 測 実 験	1		4 前期又は後期								
◎も の づ く り 実 習	1		4 前期又は後期								
◎情 報 処 理 実 習	2		4 前期又は後期								
◎コンピュータプログラミング演習	1				2						
◎物 理 計 測 基 礎 実 験 I	1				3						理工学実践演習Ⅰ履修者は履修不可
◎物 理 計 測 基 礎 実 験 II	1					3					理工学実践演習Ⅱ履修者は履修不可
◎コンピュータアプリケーション演習	1						2				
◎物 理 専 門 実 験 I	1						3				理工学実践演習Ⅲ履修者は履修不可
◎物 理 専 門 実 験 II	1							3			理工学実践演習Ⅳ履修者は履修不可
◎物 理 専 門 実 験 A	2							6			協定校・認定校留学生のみ履修可
◎理 工 学 実 践 演 習 I	2				4						理工学高度実践プログラム申請者のみ履修可
◎理 工 学 実 践 演 習 II	2					4					
◎理 工 学 実 践 演 習 III	2						4				
◎理 工 学 実 践 演 習 IV	2							4			
◇物 理 学 演 習 II	2				2						
◇物 理 学 演 習 IV	2					2					
◇物 理 数 学 演 習 I	1					1					
◇物 理 数 学 演 習 II	1						1				
◇物 理 学 演 習 III	2							2			
◇計 算 機 基 礎 実 習	1								3		

輪講・卒業研究

◎の科目12単位 必修

◎物 理 学 輪 講 I	2							4		卒業研究Ⅰ・Ⅱと同時履修してください。(Ⅰ・Ⅱは同一担当で履修すること。)
◎物 理 学 輪 講 II	2								4	
◎物 理 学 輪 講 A	4								8	協定校・認定校留学生のみ履修可

輪講・卒業研究

(前ページの続き)

授 業 科 目	単 位	週 時 間 数								備 考
		1 年		2 年		3 年		4 年		
		前	後	前	後	前	後	前	後	
◎ 卒 業 研 究 I	4								12	I・IIの単位を分離して修得することができない。I・IIのうちいずれかが不合格となればI・II共に不合格となる。 I・IIは同一担当で履修すること。 理工学高度実践研究I・II履修者は履修不可
◎ 卒 業 研 究 II	4							12		
◎ 卒 業 研 究 A	8							24		
◎ 理工学高度実践研究 I	4							12		
◎ 理工学高度実践研究 II	4							12		

第 1 科目群

◎の科目12単位 必修

◆の科目の中から

18単位 選択必修

◎ 電 磁 気 学	4			4						
◎ 量 子 力 学 I	4				4					
◎ 統 計 力 学 I	4					4				
◆ 波 動	2			2						
◆ 解 析 力 学	2			2						
◆ 物 理 数 学 I	2			2						
◆ 電 磁 光 学 概 論	2				2					
◆ 熱 物 理 学	2				2					
◆ 物 理 数 学 II	2				2					
◆ 量 子 力 学 II	2					2				
◆ 量 子 力 学 III	2						2			
◆ 相 対 論	2					2				
◆ 固 体 物 理	2					2				
◆ 物 理 実 験 学	2					2				
◆ 数 値 解 析	2					2				
◆ 統 計 力 学 II	2						2			

第 2 科目群

△の科目の中から

22単位 選択必修

△ 数 学 演 習 A	2	2								
△ 数 学 演 習 B	2		2							
△ 物 理 学 演 習 I	2		2							
△ 電 気 ・ 電 子 回 路 入 門	2					2				
△ 天 体 物 理 概 論	2					2				
△ 原 子 核 物 理	2					2				
△ 最 新 物 理 講 義	2					2				
△ 超 伝 導	1						1			
△ 相 関 と 物 性	1						1			
△ 生 物 物 理	2						2			
△ 宇 宙 物 理 I	1						1			
△ 宇 宙 物 理 II	1						1			
△ 場 と 粒 子	2						2			
△ 生 体 セ ン シ ン グ	1						1			
△ 先 端 デ バ イ ス	1						1			
△ 先 端 応 用 光 学 科 学	2						2			
△ 流 れ と 変 形	1						1			
△ 物 体 と 地 震 の 運 動	1						1			

選択科目

授 業 科 目	単 位	週 時 間 数								備 考
		1 年		2 年		3 年		4 年		
		前	後	前	後	前	後	前	後	
△量 子 化 学 I	2							2		
△量 子 化 学 II	2								2	
化 学 I	2	2								
化 学 II	2		2							
線 形 代 数 II	2			2						
線 形 代 数 III	2				2					
微 分 方 程 式 I	2			2						
解 析 学 II	2			2						
応 用 初 等 代 数	2			2						
確 率 統 計	2			2						
微 分 方 程 式 I 演 習	1			1						隔週
解 析 学 II 演 習	1			1						隔週
応 用 初 等 代 数 演 習	1			1						隔週
線 形 代 数 II 演 習	1			1						隔週
化 学 III	2			2						
図 形 科 学	2			2						
地 学	2			2						卒業要件外、注)
基 礎 化 学	2				2					教育職員免許状の取得を希望する者のみ履修可
集 合 と 位 相	2				2					
計 算 数 学	2				2					
幾 何 学 I	2				2					
集 合 と 位 相 演 習	1				1					隔週
代 数 学 I 演 習	1				1					隔週
幾 何 学 I 演 習	1				1					隔週
サイバネティクス	2				2					
製 図	1				2					
複 素 解 析 I	2					2				
微 分 方 程 式 II	2					2				
幾 何 学 II	2					2				
幾 何 学 III	2						2			
解 析 学 IV	2					2				
解 析 学 IV 演 習	1					1				隔週
複 素 解 析 I 演 習	1					1				隔週
物 理 ・ 数 理 セ ミ ナ ー	2						2			2015年度より英語講義
現 代 化 学 概 論	2					2				
一 般 機 械 工 学	2					2				
一 般 経 営 工 学	2						2			
数 理 統 計	2						2			
代 数 学 II	2						2			
フ ァ イ ナ ン ス 数 学	2						2			
微 分 方 程 式 III	2						2			

選択科目

(前ページの続き)

授 業 科 目	単 位	週 時 間 数								備 考	
		1 年		2 年		3 年		4 年			
		前	後	前	後	前	後	前	後		
代 数 学 II 演 習	1					1				隔週	
幾 何 学 III 演 習	1					1				隔週	
一 般 電 気 工 学	2					2					
イ ン タ ー ン シ ッ プ	1					3					
理 工 学 実 践 研 究 I	4					12				理工学高度実践プログラム申請者のみ履修可	
理 工 学 実 践 研 究 II	4					12					
電 子 計 算 機 工 学 I	2							2			
電 子 計 算 機 工 学 II	2							2			
電 気 物 性 学 II	2							2			
高 電 圧 工 学	2							2			
集 積 回 路 工 学	2							2			
科 学 哲 学	2							2			
量 子 電 子 デ バ イ ス	2							2			
半 導 体 デ バ イ ス	2							2			
磁 気 工 学	2							2			
生 命 化 学 E	2							2			
無 機 化 学 D	2							2			
機 器 分 析	2							2			
流 体 力 学 及 び 演 習	4							4			
応 用 数 学 I	2							2			
応 用 数 学 II	2							2			
電 磁 波	2							2			
弾 塑 性 工 学	2							2			
情 報 数 学 I	2							2			
生 物 学 実 験	2			4							卒業要件外、注)
地 学 実 験	2			4							集中講義、「地学」を履修中または修得済の者のみ履修可 卒業要件外、注)

注) 卒業要件外、教育職員免許状の取得を希望する学生以外は履修できません。

数理サイエンスコース

数学・共通科目

◎の科目14単位 必修

授 業 科 目	単 位	週 時 間 数								備 考	
		1年		2年		3年		4年			
		前	後	前	後	前	後	前	後		
◎力学 I	2	2									
◎力学 II	2		2								
◎線形代数 I A	2	2									
◎線形代数 I B	2		2								
◎解析学 I A	2	2									
◎解析学 I B	2		2								
◎基礎物理数学	2	2									

専門実験・実習・演習

◎の科目12単位 必修

◎物理基礎実験 I	1	4									
◎物理基礎実験 II	1		4								
◎化学基礎実験	2		4 前期又は後期								
◎電気計測実験	1		4 前期又は後期								
◎ものづくり実習	1		4 前期又は後期								
◎情報処理実習	2		4 前期又は後期								
◎コンピュータプログラミング演習	1				2						
◎コンピュータアプリケーション演習	1					2					
◎数理専門実験 I	1					3					理工学実践演習Ⅲ履修者は履修不可
◎数理専門実験 II	1						3				理工学実践演習Ⅳ履修者は履修不可
◎数理専門実験 A	2					6					協定校・認定校留学者のみ履修可
◎理工学実践演習Ⅲ	2					4					理工学高度実践プログラム申請者のみ履修可
◎理工学実践演習Ⅳ	2						4				

輪講・卒業研究

◎の科目12単位 必修

◎数理輪講 I	2						4				卒業研究 I・II と同時履修してください。(I・II は同一担当で履修すること。)
◎数理輪講 II	2							4			
◎数理輪講 A	4							8			協定校・認定校留学者のみ履修可
◎卒業研究 I	4							12			I・II の単位を分離して修得することができない。I・II のうちいずれかが不合格となれば I・II 共に不合格となる。 I・II は同一担当で履修すること。 理工学高度実践研究 I・II 履修者は履修不可
◎卒業研究 II	4								12		
◎卒業研究 A	8								24		協定校・認定校留学者のみ履修可
◎理工学高度実践研究 I	4							12			理工学高度実践プログラム申請者のみ履修可
◎理工学高度実践研究 II	4								12		

第1科目群

◎の科目4単位 必修

▲の科目の中から

16単位 選択必修

◎線形代数 II	2			2							
◎微分方程式 I	2			2							
▲解析学 II	2			2							
▲応用初等代数	2			2							
▲確率統計	2			2							
▲線形代数 III	2				2						
▲集合と位相	2				2						

第 1 科目群

(前ページの続き)

授 業 科 目	単 位	週 時 間 数								備 考	
		1 年		2 年		3 年		4 年			
		前	後	前	後	前	後	前	後		
▲計 算 数 学	2				2						
▲解 析 学 III	2				2						
▲複 素 解 析 I	2					2					
▲微 分 方 程 式 II	2					2					
▲幾 何 学 II	2					2					
▲解 析 学 IV	2					2					
▲数 理 統 計	2							2			

第 2 科目群

▽の科目の中から

34単位 選択必修

▽数 学 演 習 A	2	2									
▽数 学 演 習 B	2		2								
▽物 理 学 演 習 I	2		2								
▽微 分 方 程 式 I 演 習	1			1							隔週
▽解 析 学 II 演 習	1			1							隔週
▽応 用 初 等 代 数 演 習	1			1							隔週
▽線 形 代 数 II 演 習	1			1							隔週
▽電 磁 気 学	4			4							
▽解 析 力 学	2			2							
▽波 動	2			2							
▽代 数 学 I	2				2						
▽幾 何 学 I	2				2						
▽物 理 数 学 II	2				2						
▽集 合 と 位 相 演 習	1				1						隔週
▽解 析 学 III 演 習	1				1						隔週
▽代 数 学 I 演 習	1				1						隔週
▽幾 何 学 I 演 習	1				1						隔週
▽物 理 数 学 演 習 II	1				1						
▽量 子 力 学 I	4				4						
▽熱 物 理 学	2				2						
▽理 工 学 実 践 演 習 I	2			4							理工学高度実践プログラム申請者のみ履修可
▽理 工 学 実 践 演 習 II	2				4						
▽計 算 機 基 礎 実 習	1					3					
▽解 析 学 IV 演 習	1					1					隔週
▽複 素 解 析 I 演 習	1					1					隔週
▽代 数 学 II	2						2				
▽複 素 解 析 II	2							2			
▽幾 何 学 III	2							2			
▽フ ァ イ ナ ン ス 数 学	2							2			
▽微 分 方 程 式 III	2							2			
▽代 数 学 II 演 習	1						1				隔週
▽幾 何 学 III 演 習	1						1				隔週
▽幾 何 学 IV	2								2		
▽解 析 学 V	2									2	
▽代 数 学 III	2										2

## 選択科目

授 業 科 目	単 位	週 時 間 数								備 考	
		1 年		2 年		3 年		4 年			
		前	後	前	後	前	後	前	後		
化 学 I	2	2									
化 学 II	2		2								
化 学 III	2			2							
量 子 力 学 II	2					2					
量 子 力 学 III	2						2				
相 対 論	2					2					
固 体 物 理	2					2					
統 計 力 学 I	4					4					
物 理 ・ 数 理 セ ミ ナ ー	2						2				2015年度より英語講義
現 代 化 学 概 論	2					2					
一 般 機 械 工 学	2					2					
一 般 経 営 工 学	2						2				
一 般 電 気 工 学	2						2				
イ ン タ ー ン シ ッ プ	1					3					
理 工 学 実 践 研 究 I	4					12					理工学高度実践プログラム申請者のみ履修可
理 工 学 実 践 研 究 II	4						12				
科 学 哲 学	2								2		

## 【4】 自由選択科目履修方法

## 自由選択科目履修方法

1. 自由選択科目の  
必要単位

物理科学コース 6単位  
数理サイエンスコース 12単位

2. 自由選択科目  
履修方法

下記の(イ)(ロ)(ハ)(ニ)(ホ)のうちから任意に必要な単位修得しなければなりません。

- |                |   |                                     |
|----------------|---|-------------------------------------|
| (イ) 青山スタンダード科目 | } | (卒業に必要な単位を超えて修得した単位は、自由選択科目に算入されます) |
| (ロ) 外国語科目      |   |                                     |
| (ハ) 学科科目       |   |                                     |
| (ニ) 他学科科目      |   |                                     |
| (ホ) 他学部科目      |   |                                     |

ただし、卒業要件外科目は除きます。他学科・他学部科目のうちには実験科目、「現代物理学概論」などの除外科目がありますので当該学科・学部の履修規定に従ってください。

注意：他キャンパス開講科目を履修する際には、キャンパス間の移動時間に注意してください(「Ⅲ. 履修について1. 履修計画」を参照)。

物理・数理学科 (2014年度生) 履修ガイドライン

これはあくまでも履修の一例です。

	1年次		2年次		3年次		4年次	
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
コース共通 必修科目	力学Ⅰ② 基礎物理数学② 解析学ⅠA② 線形代数ⅠA②	力学Ⅱ② 解析学ⅠB② 線形代数ⅠB②						
コース共通 実験 必修科目	物理基礎実験Ⅰ① 化学基礎実験② 電気計測実験① ものづくり実習① 情報処理実習②	物理基礎実験Ⅱ①	コンピュータプロ グラミング演習①	コンピュータアプリ ケーション演習①				
コース共通 選択 必修科目	物理学演習Ⅰ② 数学演習A②	物理学演習Ⅱ② 数学演習B②	波動② 解析力学②	熱物理学② 物理数学Ⅱ② 物理数学演習Ⅱ①	計算機基礎実習①			
物理科学コース 必修科目			電磁気学④	量子力学Ⅰ④	統計力学Ⅰ④			
物理科学コース 必修実験科目			物理計測基礎実験Ⅰ① 物理計測基礎実験Ⅱ①	物理専門実験Ⅰ① 物理専門実験Ⅱ①	物理学論講Ⅰ② 物理学論講Ⅱ② 卒業研究Ⅰ④ 卒業研究Ⅱ④			
物理科学 コース選択 必修科目			物理学演習Ⅱ② 物理数学Ⅰ②	物理数学演習Ⅰ① 物理学演習Ⅳ② 電磁光学概論②	物理学演習Ⅲ② 量子力学Ⅱ② 量子力学Ⅲ② 相対論② 固体物理② 物理実験学② 数値解析② 電気・電子回路入門② 天体物理概論② 原子核物理② 最新物理講義②	統計力学Ⅱ② 超伝導① 相関と物性① 生物物理② 宇宙物理Ⅰ① 宇宙物理Ⅱ① 場と粒子② 生体センシング① 先端デバイス① 先端応用光科学② 流れと変形① 物体と地震の運動①	量子化学Ⅰ② 量子化学Ⅱ②	
数理サイエンス コース必修 科目			線形代数Ⅱ② 微分方程式Ⅰ②					
数理サイエンス コース必修 実験科目					数理専門実験Ⅰ① 数理専門実験Ⅱ①	数理論講Ⅰ② 数理論講Ⅱ② 卒業研究Ⅰ④ 卒業研究Ⅱ④		
数理サイエンス コース選択 必修科目			解析学Ⅱ② 応用初等代数② 確率統計② 微分方程式Ⅰ演習① 解析学Ⅱ演習① 応用初等代数演習① 線形代数Ⅱ演習① 電磁気学④	線形代数Ⅲ② 集合と位相② 計算数学② 解析学Ⅲ② 代数学Ⅰ② 幾何学Ⅰ② 集合と位相演習① 解析学Ⅲ演習① 代数学Ⅰ演習① 幾何学Ⅰ演習① 量子力学Ⅰ④	複素解析Ⅰ② 微分方程式Ⅱ② 幾何学Ⅱ② 解析学Ⅳ演習① 複素解析Ⅰ演習① 複素解析Ⅱ② 幾何学Ⅲ② ファイナンス数学② 微分方程式Ⅲ② 代数学Ⅱ演習① 幾何学Ⅲ演習①	数理統計②	幾何学Ⅳ② 解析学Ⅴ② 代数学Ⅲ②	
コース共通 選択科目	化学Ⅰ②	化学Ⅱ②	化学Ⅲ②			物理・数理セミナー②		科学哲学②

※その他学科学科目配置表参照

# 【化学・生命科学科履修要項】 (2014年度入学者)

## 【1】履修について

### 1. 学位

化学・生命科学科に4年以上（ただし8年を限度とします）在学し、卒業に必要な138単位以上を修得した者には、「学士（理学）」の学位が授与されます。

### 2. 卒業要件

本学科を卒業するためには、卒業要件単位表に示す区分ごとに、それぞれ必要な単位を修得しなければなりません。

卒業要件単位表

系 列		必選の別		単 位	
青山スタンダード科目		p. 12参照		24	
外国語科目	英語	必 修	◎	8	
		選択必修	★	2	
学科科目	数学・共通科目	必 修	◎	8	
		選択必修	△	6	18
	☆または△		12		
	専門実験	必 修	◎	9	
	輪講・卒業研究	必 修	◎	12	
	選択必修 I	選択必修	★	24	
選択必修 II	★または▽		23		
自由選択科目	青山スタンダード科目	選 択		10	
	外国語科目				
	学科科目				
	他学科科目				
	他学部科目				
合 計				138	

外国人留学生  
卒業要件単位表

系 列		必選の別		単 位	
青山スタンダード科目		p. 12参照		24	
外国語科目	日本語	必 修	◎	10	
学科科目	数学・共通科目	必 修	◎	8	
		選択必修	△	6	18
	☆または△		12		
	専門実験	必 修	◎	9	
	輪講・卒業研究	必 修	◎	12	
	選択必修 I	選択必修	★	24	
選択必修 II	★または▽		23		
自由選択科目	青山スタンダード科目	選 択		10	
	外国語科目				
	学科科目				
	他学科科目				
	他学部科目				
合 計				138	

3. 最高履修制限単位

最高履修制限単位とは、各年度で履修申請できる最高限度の単位数です。

理工学部における最高履修制限単位は次のとおりです。各年次でこの表に示す単位数を超えて履修することはできません。なお、各年次において、1科目以上の履修をしなければなりません。

学年	1～4年次	合計
最高履修制限単位	各48単位	192単位

(注意) 教職課程科目および「地学」「地学実験」の単位は、最高履修制限単位に含まれません。

4. 修得単位僅少者

入学後の2年間(休学期間を除く)で修得単位が32単位に満たない者は、成業の見込みのない者として除籍されることがありますので、該当しないよう特に注意してください。

5. 進級条件

3年次生から4年次生に進級するためには、3年次終了時に「卒業研究」の履修条件を満たしている必要があります。

ただし、本学の3年次後期から4年次前期に相当する期間に協定校または認定校に留学する学生に限り、4年次の後期授業開始までに卒業研究の履修条件を満たすことを条件に4年次に進級し、「卒業研究A」(8単位、後期週24時間)および「化学・生命科学輪講A」(3単位、後期週6時間)を履修することができます。留学前に学科に申し出、学科の指示に従ってください。(自学科の「卒業研究A」のみ履修可。)

6. 卒業研究の履修条件

卒業研究の履修条件は以下のとおりです。

- 1) 3年以上在学していること。
- 2) 3年次までの必修科目の卒業要件単位を満たしていること。
- 3) 学科科目(講義科目)の選択必修科目の中から下記の表の4系列の授業科目(物理化学系列6単位、無機分析化学系列6単位、有機化学系列6単位、生命科学系列6単位)を含む30単位修得していること。
- 4) 卒業要件内単位のうち120単位以上修得していること。

系 列	授 業 科 目
物 理 化 学 系 列	物理化学A・B・C、量子化学I・II、レーザー光化学
無 機 分 析 化 学 系 列	分析化学、無機化学A・B・C・D、電気化学
有 機 化 学 系 列	有機化学A・B・C・D、生体有機化学、有機合成化学
生 命 科 学 系 列	生体物質分析、生命科学A・B・C・D・E

## 【2】 外国語科目 (英語) 配置表および履修方法

### 1. 外国語科目履修方法

外国語のクラスは指定制なので指定以外のクラスで履修することはできません。  
 なお、所要単位を超えて修得した単位は自由選択科目の選択の単位に算入されます。

### 2. 外国語科目配置表

**外国語科目 (英語)**

◎印の 8 単位 必修  
 ★から 2 単位 選択必修

授 業 科 目	単 位	週 時 間 数								履 修 条 件
		1 年		2 年		3 年		4 年		
		前	後	前	後	前	後	前	後	
◎English Core I-a	1	2								
◎English Core I-b	1	2								
◎English Core I-c	1		2							
◎English Core I-d	1		2							
◎English Core II-a	1			2						
◎English Core II-b	1			2						
◎English Core II-c	1				2					
◎English Core II-d	1				2					
★Public Speaking A	1					2				
★Public Speaking B	1						2			
★Advanced Skills A	1					2				受講にあたっては事前に 担当者の許可が必要です。
★Advanced Skills B	1						2			
★English Comprehension A	1					2				
★English Comprehension B	1						2			
★English for Engineers A	1					2				
★English for Engineers B	1						2			
★Study Abroad A	2				2					
★Study Abroad B	2				2					※下記参照

※Study Abroad A、B  
 の履修について

理工学部では、2013年度入学生より海外研修を実施しています。海外研修に参加したものが、一定の条件を満たすことにより、単位を修得することが可能です。ただし、卒業に必要な単位として認められるのは、A、Bそれぞれ1回ずつ、計2回の参加までです。参加希望者はオリエンテーションに必ず参加し、プログラムの詳細を確認してください。

◎外国人留学生の外国語科目（日本語）配置表および履修方法

外国人留学生  
外国語科目（日本語）  
配置表  
◎の10単位 必修

授 業 科 目	単 位	週 時 間 数								履 修 条 件	
		1年		2年		3年		4年			
		前	後	前	後	前	後	前	後		
◎ 日 本 語 初 級 A-1	1	2									
◎ 日 本 語 初 級 A-2	1		2								日本語初級A-1 修得者のみ履修可
◎ 日 本 語 初 級 B-1	1	2									
◎ 日 本 語 初 級 B-2	1		2								日本語初級B-1 修得者のみ履修可
◎ 日 本 語 初 級 C-1	1	2									
◎ 日 本 語 初 級 C-2	1		2								日本語初級C-1 修得者のみ履修可
◎ 日 本 語 中 級 A-1	1			2							日本語初級A-2、B-2、C-2のうち2科目以上修得者のみ履修可
◎ 日 本 語 中 級 A-2	1				2						日本語中級A-1 修得者のみ履修可
◎ 日 本 語 中 級 B-1	1			2							日本語初級A-2、B-2、C-2のうち2科目以上修得者のみ履修可
◎ 日 本 語 中 級 B-2	1				2						日本語中級B-1 修得者のみ履修可
日 本 語 上 級 - 1	1					2					青山キャンパス開講科目 日本語中級A-2、B-2のうちいずれかの科目の修得者のみ履修可
日 本 語 上 級 - 2	1						2				青山キャンパス開講科目 日本語上級-1 修得者のみ履修可

なお、日本語上級-1、上級-2は自由選択科目の選択単位に算入されます。

外国人留学生  
第二外国語科目履修方法

※第二外国語科目配置表は青山スタンダード科目配置表の言葉の技能〔領域F〕・テーマ別科目〔領域F〕を参照してください。

※入学手続き時に申請した科目以外は履修できません。

・言葉の技能〔領域F〕（第二外国語科目）の必要単位  
必修（4単位）

フランス語、ドイツ語、スペイン語、中国語、ロシア語、韓国語、英語のうちから1外国語を履修してください。

・テーマ別科目〔領域F〕を修得した場合、その単位は自由選択科目の単位に算入されます。

※本学入学以前に、高等学校あるいは海外等ですでに学習したことのある者が、その学力をI（A）・I（B）修了者に準ずると認定された場合、IIの科目で卒業に必要な単位に充当することができます。詳細は、『学年初頭行事』を参照してください。

◎交換留学生の外国語科目配置表および履修方法

交換留学生の履修は別途指導します。

授 業 科 目	単 位	備 考
日 本 語 （ I ）	2	青山キャンパス開講
日 本 語 （ II ）	2	
日 本 語 （ III ）	2	
日 本 語 （ IV ）	2	
日 本 語 （ V ）	2	

### [3] 学科科目配置表及び履修方法

#### 1. 学科科目履修方法

##### [学科科目]

学科科目の卒業要件は、「卒業要件単位表」を参照してください。

選択必修Ⅰ・Ⅱの47単位には、学科科目配置表に示す各系列ごとに、要求されている単位をその中に含むこと。

なお、規定以上に修得した選択必修科目の単位は自由選択科目の選択の単位に算入されません。

#### 2. 学科科目配置表

理工学部生以外の履修は原則として許可しません。

◎は必修 △☆★▽は選択必修

##### 数学・共通科目

◎印の8単位 必修  
☆および△から18単位  
(内6単位△から) 選択  
必修

##### 【講義科目】

授 業 科 目	単 位	週 時 間 数								備 考
		1年		2年		3年		4年		
		前	後	前	後	前	後	前	後	
☆物 理 学 I	2	2								
☆物 理 学 II	2		2							
☆物 理 学 III	2			2						
☆化 学 I	2	2								
☆化 学 II	2		2							
☆化 学 III	2			2						
△解 析 学 I A	2	2								
△解 析 学 I B	2		2							
△解 析 学 II	2			2						
△線 形 代 数 I A	2	2								
△線 形 代 数 I B	2		2							
△線 形 代 数 II	2			2						
△線 形 代 数 III	2				2					
△微 分 方 程 式 I	2					2				
△物 理 数 学 I	2					2				
△物 理 数 学 II	2				2					
△複 素 解 析 I	2					2				
図 形 科 学	2			2						
現 代 物 理 学 概 論	2				2					
一 般 機 械 工 学	2			2						
一 般 電 気 工 学	2						2			
一 般 経 営 工 学	2						2			
サイバネティクス	2				2					

##### 【実験・演習科目】

△数 学 演 習 A	2	2								
△数 学 演 習 B	2		2							
△解 析 学 II 演 習	1			1						隔週
△微 分 方 程 式 I 演 習	1			1						隔週

授 業 科 目	単 位	週 時 間 数								備 考
		1年		2年		3年		4年		
		前	後	前	後	前	後	前	後	
△物理数学演習Ⅰ	1			1						隔週
△物理数学演習Ⅱ	1			1						隔週
△複素解析Ⅰ演習	1					1				隔週
△製 図	1			2						
◎物理基礎実験Ⅰ	1	4								
◎物理基礎実験Ⅱ	1		4							
◎化学基礎実験	2		4 前期又は後期							
◎電気計測実験	1		4 前期又は後期							
◎ものづくり実習	1		4 前期又は後期							
◎情報処理実習	2		4 前期又は後期							
◎無機化学実験	2			6						
◎生体物質分析実験	1			3						
◎物理化学実験	2				6					
◎有機化学実験	2					6				
◎生命科学実験Ⅰ	2					6				
◎化学・生命科学輪講Ⅰ	1					2				
◎化学・生命科学輪講Ⅱ	2						4		「卒業研究Ⅰ・Ⅱ」と同時履修のこと	
◎化学・生命科学輪講Ⅲ	1						2			
◎化学・生命科学輪講A	3						6		協定校・認定校留学生のみ履修可	
◎卒業研究Ⅰ	4						12		Ⅰ・Ⅱの単位を分離して修得することができない。Ⅰ・Ⅱのうちいずれかが不合格となればⅠ・Ⅱ共に不合格となる。Ⅰ・Ⅱは同一担当で履修すること。	
◎卒業研究Ⅱ	4						12			
◎卒業研究A	8						24		協定校・認定校留学生のみ履修可	
★物理化学A	2			2						
★物理化学B	2			2						
★物理化学C	2				2					
★量子化学Ⅰ	2					2				
★量子化学Ⅱ	2						2			
★レーザー光化学	2						2			
★分析化学	2	2								
★無機化学A	2		2							
★無機化学B	2			2						
★無機化学C	2			2						
★無機化学D	2					2				
★電気化学	2					2				

**専門実験**

◎印の9単位 必修

**輪講・卒業研究**

◎印の12単位 必修

**選択必修Ⅰ**

4系列の★印24単位  
選択必修

〈物理化学系列〉  
6単位選択必修

〈無機分析化学系列〉  
6単位選択必修

授 業 科 目	単 位	週 時 間 数								備 考	
		1 年		2 年		3 年		4 年			
		前	後	前	後	前	後	前	後		
<b>〈有機化学系列〉</b> 6 単位選択必修	★有機化学 A	2	2								
	★有機化学 B	2		2							
	★有機化学 C	2			2						
	★有機化学 D	2				2					
	★生体有機化学	2					2				
	★有機合成化学	2						2			
<b>〈生命科学系列〉</b> 6 単位選択必修	★生体物質分析	2		2							
	★生命科学 A	2	2								
	★生命科学 B	2		2							
	★生命科学 C	2			2						
	★生命科学 D	2				2					
	★生命科学 E	2					2				
<b>選択必修Ⅱ</b>  選択必修Ⅰの★印、各 分野▽印および実験科 目▽印より任意に23単 位選択必修 〈化学分野〉	▽応用確率統計	2				2					
	▽数理化化学	2		2							
	▽無機材料化学	2			2						
	▽錯体化学	2				2					
	▽高分子化学	2					2				
	▽立体化学	2					2				
	▽化学工学通論	2					2				
	▽機器分析	2					2				
	▽溶液化学	2			2						
	▽現代化学の最前線	2					2				
	▽基礎物理学	2		2							
	▽基礎化学	2			2						
<b>〈生命科学分野〉</b>	▽生命科学の最前線	2				2					
	▽生命情報と生体分子	2		2							
	▽生体膜	2			2						
	▽分子遺伝学と遺伝子資源の応用	2				2					
	▽バイオインフォマティクス	2					2				
	▽代謝と調節	2				2					
	▽生物物理	2					2				
	▽バイオテクノロジー	2					2				
	▽医薬品科学	2							2		
	▽ケミカルバイオロジー	2					2				
<b>〈実験科目〉</b>	▽生命科学実験Ⅱ	1				3					
	▽化学情報処理実習	1			3						
	▽インターンシップ	1					3				集中講義

## 【4】自由選択科目履修方法

### 自由選択科目履修方法

下記の(イ)(ロ)(ハ)(ニ)(ホ)のうちから任意に10単位修得しなければなりません。

- |                |   |                                     |
|----------------|---|-------------------------------------|
| (イ) 青山スタンダード科目 | } | (卒業に必要な単位を超えて修得した単位は、自由選択科目に算入されます) |
| (ロ) 外国語科目      |   |                                     |
| (ハ) 学科科目       |   |                                     |
| (ニ) 他学科科目      |   |                                     |
| (ホ) 他学部科目      |   |                                     |

ただし、卒業要件外科目は除きます。他学科科目のうちには、実験科目、「現代化学概論」等の除外科目がありますので当該学科の履修規定に従ってください。

(注意) 他キャンパス開講科目を履修する際には、キャンパス間の移動時間に注意してください(「Ⅲ. 履修について1. 履修計画」を参照)。

化学・生命科学科 (2014年度生) 履修ガイドライン

これはあくまでも履修の一例です。

I		II		III~IV		IV
前 期	後 期	前 期	後 期	前 期	後 期	
青山スタンダード科目		青山スタンダード科目		青山スタンダード科目		
外 国 語 ( 英 語 )						
解析学 I A	解析学 I B	微分方程式 I	物理数学 II	解析学 II		
線形代数 I A	線形代数 I B	線形代数 II	線形代数 III	物理数学 I		
数学演習 A	数学演習 B		物理数学演習 I	複素解析 I		
		微分方程式 I 演習	物理数学演習 II	解析学 II 演習		
				複素解析 I 演習		
情報処理実習 (前期または、後期)			化学情報 処 理 実 習			
物理学 I	物理学 II	物理学 III	現代物理学 概 論			
↑	↑					
物理基礎実験 I	物理基礎実験 II					
電気・機械計測実験		基礎物理学				
化学 I	化学 II	化学 III	基礎化学			
化学基礎実験		無機化学実験	物理化学実験	生命科学実験 I	有機化学実験	化学・生命 科学輪講 II 化学・生命 科学輪講 III 卒業研究 I 卒業研究 II
		生物物質分析実験		生命科学実験 II	化学・生命科学輪講 I	
		物理化学 A		量子化学 I	量子化学 II	
		物理化学 B	物理化学 C		レーザー光化学	
		数理化学	溶液化学		応用確率統計	
分析化学	無機化学 A	無機化学 B	無機材料化学	電気化学	無機化学 D	
		無機化学 C		錯体化学	現代化学の最前線	
有機化学 A		有機化学 B	有機化学 C	有機化学 D	有機合成化学	
					高分子化学	
					生体有機化学	
					機器分析	
					立体化学	
生命科学 A		生物物質分析			生命科学の最前線	
		生命科学 B	生命科学 C	生命科学 D	生命科学 E	
		生命情報と生体分子	生 体 膜	ケミカルバイオロジー	バイオテクノロジー	
				分子遺伝学と遺伝子資源の応用	生 物 物 理	
				代謝と調節	バイオインフォマティクス	
						医薬品科学
		図形科学	製 図	一般経営工学	化学工学通論	
		一般機械工学		インターンシップ	一般電気工学	

## 【電気電子工学科履修要項】 (2014年度入学者)

### 【1】履修について

1. 学位

電気電子工学科に4年以上（ただし8年を限度とします）在学し、卒業に必要な141単位以上を修得した者には、「学士（工学）」の学位が授与されます。

2. 卒業要件

本学科を卒業するためには、卒業要件単位表に示す区分ごとに、それぞれ必要な単位を修得しなければなりません。

卒業要件単位表

系 列		必選の別		単 位	
青山スタンダード科目		p. 12参照		24	
外国語科目	英語	必 修	◎	8	
		選択必修	★	2	
学科科目	数学・共通科目	必 修	◎	8	
		選択必修	☆	10	
	専門実験・実習・演習		必 修	◎	16
	輪講・卒業研究		必 修	◎	10
	専門科目	必 修	◎	29	
		選択必修	★	26	
自由選択科目	青山スタンダード科目	選 択		8	
	外国語科目				
	学科科目				
	他学科科目				
	他学部科目				
合 計				141	

外国人留学生  
卒業要件単位表

系 列		必選の別		単 位	
青山スタンダード科目		p. 12参照		24	
外国語科目	日本語	必 修	◎	10	
学科科目	数学・共通科目	必 修	◎	8	
		選択必修	☆	10	
	専門実験・実習・演習		必 修	◎	16
	輪講・卒業研究		必 修	◎	10
	専門科目	必 修	◎	29	
		選択必修	★	26	
自由選択科目	青山スタンダード科目	選 択		8	
	外国語科目				
	学科科目				
	他学科科目				
	他学部科目				
合 計				141	

## 3. 最高履修制限単位

最高履修制限単位とは、各年度で履修申請できる最高限度の単位数です。

理工学部における最高履修制限単位は次のとおりです。各年次でこの表に示す単位数を超えて履修することはできません。なお、各年次において、1科目以上の履修をしなければなりません。

学年	1～4年次	合計
最高履修制限単位	各48単位	192単位

(注意) 教職課程科目および「職業指導」の単位は、最高履修制限単位に含まれません。

## 4. 修得単位僅少者

入学後の2年間(休学期間を除く)で修得単位が32単位に満たない者は、成業の見込みのない者として除籍されることがありますので、該当しないよう特に注意してください。

## 5. 進級条件

3年次生から4年次生に進級するためには、3年次終了時に「卒業研究」の履修条件を満たしている必要があります。

ただし、本学の3年次後期から4年次前期に相当する期間に協定校または認定校に留学する学生に限り、4年次の後期授業開始までに卒業研究の履修条件を満たすことを条件に4年次に進級し、「卒業研究A」(8単位、後期週24時間)および「電気電子工学論講C」(2単位、後期週4時間)を履修することができます。留学前に学科に申し出、学科の指示に従ってください。

## 6. 卒業研究の履修条件

卒業研究の履修条件は、以下のとおりです。

- 1) 3年以上在学していること。
- 2) 青山スタンダード科目の卒業要件単位を修得していること。
- 3) 外国語科目・学科科目のうち3年次までの必修科目の卒業要件単位を修得していること。
- 4) 卒業要件内単位のうち118単位以上修得していること。  
ただし、修得した単位数および内容により卒業研究の方法を変える。
- 5) 機械創造工学科の審査を受け許可された者は、機械創造工学科の「卒業研究」を履修することができます。
- 6) 経営システム工学科の審査を受け許可された者は、経営システム工学科の「卒業研究」を履修することができます。
- 7) 情報テクノロジー工学科の審査を受け許可された者は、情報テクノロジー工学科の「卒業研究」を履修することができます。

**【2】 外国語科目 (英語) 配置表および履修方法**

1. 外国語科目履修方法

外国語のクラスは指定制なので指定以外のクラスで履修することはできません。  
 なお、所要単位を超えて修得した単位は自由選択科目の選択の単位に算入されます。

2. 外国語科目配置表

**外国語科目 (英語)**

◎印の 8 単位 必修  
 ★から 2 単位 選択必修

授 業 科 目	単 位	週 時 間 数								履 修 条 件	
		1 年		2 年		3 年		4 年			
		前	後	前	後	前	後	前	後		
◎English Core I-a	1	2									
◎English Core I-b	1	2									
◎English Core I-c	1		2								
◎English Core I-d	1		2								
◎English Core II-a	1			2							
◎English Core II-b	1			2							
◎English Core II-c	1				2						
◎English Core II-d	1				2						
★Public Speaking A	1					2					
★Public Speaking B	1						2				
★Advanced Skills A	1					2				受講にあたっては事前に 担当者の許可が必要です。	
★Advanced Skills B	1						2				
★English Comprehension A	1					2					
★English Comprehension B	1						2				
★English for Engineers A	1					2					
★English for Engineers B	1						2				
★Study Abroad A	2				2					※下記参照	
★Study Abroad B	2				2						

※Study Abroad A、B  
 の履修について

理工学部では、2013年度入学生より海外研修を実施しています。海外研修に参加したものが、一定の条件を満たすことにより、単位を修得することが可能です。ただし、卒業に必要な単位として認められるのは、A、Bそれぞれ1回ずつ、計2回の参加までです。参加希望者はオリエンテーションに必ず参加し、プログラムの詳細を確認してください。

## ◎外国人留学生の外国語科目（日本語）配置表および履修方法

◎外国人留学生  
外国語科目（日本語）  
配置表  
◎の10単位 必修

授 業 科 目	単 位	週 時 間 数								履 修 条 件	
		1 年		2 年		3 年		4 年			
		前	後	前	後	前	後	前	後		
◎ 日 本 語 初 級 A-1	1	2									
◎ 日 本 語 初 級 A-2	1		2								日本語初級A-1 修得者のみ履修可
◎ 日 本 語 初 級 B-1	1	2									
◎ 日 本 語 初 級 B-2	1		2								日本語初級B-1 修得者のみ履修可
◎ 日 本 語 初 級 C-1	1	2									
◎ 日 本 語 初 級 C-2	1		2								日本語初級C-1 修得者のみ履修可
◎ 日 本 語 中 級 A-1	1			2							日本語初級A-2、B-2、C-2の うち2科目以上修得者のみ履修可
◎ 日 本 語 中 級 A-2	1				2						日本語中級A-1 修得者のみ履修可
◎ 日 本 語 中 級 B-1	1			2							日本語初級A-2、B-2、C-2の うち2科目以上修得者のみ履修可
◎ 日 本 語 中 級 B-2	1				2						日本語中級B-1 修得者のみ履修可
日 本 語 上 級 - 1	1					2					青山キャンパス開講科目 日本語中級A-2、B-2のうちい ずれかの科目の修得者のみ履修可
日 本 語 上 級 - 2	1						2				青山キャンパス開講科目 日本語上級-1 修得者のみ履修可

なお、日本語上級-1、上級-2は自由選択科目の選択単位に算入されます。

外国人留学生  
第二外国語科目履修方法

※第二外国語科目配置表は青山スタンダード科目配置表の言葉の技能〔領域F〕・テーマ別科目〔領域F〕を参照してください。

※入学手続時に申請した科目以外は履修できません。

・言葉の技能〔領域F〕（第二外国語科目）の必要単位  
必修（4単位）

フランス語、ドイツ語、スペイン語、中国語、ロシア語、韓国語、英語のうちから  
1外国語を履修してください。

・テーマ別科目〔領域F〕を修得した場合、その単位は自由選択科目の単位に算入されます。

※本学入学以前に、高等学校あるいは海外等ですでに学習したことのある者が、その学力をⅠ（A）・Ⅰ（B）修了者に準ずると認定された場合、Ⅱの科目で卒業に必要な単位に充当することができます。詳細は、『学年初頭行事』を参照してください。

## ◎交換留学生の外国語科目配置表および履修方法

交換留学生の履修は別途指導します。

授 業 科 目	単 位	備 考
日 本 語 ( I )	2	青山キャンパス開講
日 本 語 ( II )	2	
日 本 語 ( III )	2	
日 本 語 ( IV )	2	
日 本 語 ( V )	2	

### 【3】 学科科目配置表及び履修方法

#### 1. 学科科目履修方法

[学科科目]

学科科目の卒業要件は、「卒業要件単位表」を参照してください。

規定以上に修得した選択必修科目、選択科目の単位は自由選択科目の選択の単位に算入されます。

ただし、卒業要件外科目、実験科目、および「一般電気工学」は除きます。履修の際には当該学科、学部の履修規定に従ってください。

#### 2. 学科科目配置表

理工学部生以外の履修は原則として許可しません。

◎は必修 ☆★は選択必修

#### 数学・共通科目

◎の科目 8 単位 必修  
 ☆の科目の中から 10 単位  
 選択必修

授 業 科 目	単 位	週 時 間 数								備 考	
		1 年		2 年		3 年		4 年			
		前	後	前	後	前	後	前	後		
☆物 理 学 I	2	2									
☆物 理 学 II	2		2								
☆物 理 学 III	2			2							
☆化 学 I	2	2									
☆化 学 II	2		2								
☆化 学 III	2			2							
◎解 析 学 I A	2	2									
◎解 析 学 I B	2		2								
☆解 析 学 II	2			2							
◎線 形 代 数 I A	2	2									
◎線 形 代 数 I B	2		2								
☆線 形 代 数 II	2				2						
☆線 形 代 数 III	2					2					
☆微 分 方 程 式 I	2			2							
☆物 理 数 学 I	2			2							
☆物 理 数 学 II	2				2						
☆複 素 解 析 I	2					2					
☆図 形 科 学	2			2							
☆数 学 演 習 A	2	2									
☆数 学 演 習 B	2		2								
☆解 析 学 II 演 習	1			1							隔週
☆微 分 方 程 式 I 演 習	1			1							隔週
☆物 理 数 学 演 習 I	1				1						隔週
☆物 理 数 学 演 習 II	1				1						隔週
☆複 素 解 析 I 演 習	1					1					隔週
☆製 図	1				2						

専門実験・実習・演習

◎の科目16単位 必修

授 業 科 目	単 位	週 時 間 数								備 考	
		1 年		2 年		3 年		4 年			
		前	後	前	後	前	後	前	後		
◎物理基礎実験Ⅰ	1	4									
◎物理基礎実験Ⅱ	1		4								
◎化学基礎実験	2	4 前期又は後期									
◎電気計測実験	1	4 前期又は後期									
◎ものづくり実習	1	4 前期又は後期									
◎情報処理実習	2	4 前期又は後期									
◎電気電子工学基礎実験Ⅰ	2			4							
◎電気電子工学基礎実験Ⅱ	2				6						
◎電気工学実験Ⅰ	2					6					
◎電気工学実験Ⅱ	2						6				
インターンシップ	1						3				
理工学実践演習Ⅰ	2			4							
理工学実践演習Ⅱ	2				4						
理工学実践演習Ⅲ	2					4					
理工学実践演習Ⅳ	2						4				
理工学実践研究Ⅰ	4					12					
理工学実践研究Ⅱ	4						12				

理工学高度実践プログラム参加者のみ履修可

輪講・卒業研究

◎の科目10単位 必修

◎電気電子工学輪講A	1						2				
◎電気電子工学輪講B	1							2			
◎電気電子工学輪講C	2							4			協定校・認定校留学生のみ履修可
◎卒業研究Ⅰ	4							12			I・IIの単位を分離して修得することはできない。I・IIのうちいずれかが不合格となればI・II共に不合格となる。I・IIは同一担当で履修すること。理工学高度実践プログラム参加者は履修不可
◎卒業研究Ⅱ	4								12		
◎理工学高度実践研究Ⅰ	4								12		理工学高度実践プログラム参加者のみ履修可
◎理工学高度実践研究Ⅱ	4									12	
◎卒業研究A	8									24	協定校・認定校留学生のみ履修可

専門科目

◎の科目29単位 必修

★の科目の中から26単位  
選択必修

◎電気回路ⅠA及び演習	2	2									
◎電気回路ⅠB及び演習	2		2								
◎電気電子工学概論	2	2									
◎基礎電気数学	2		2								
◎電気磁気Ⅰ及び演習	3		4								
◎電気磁気Ⅱ及び演習	3			4							
◎電気回路Ⅱ	4			4							
◎基本電子回路Ⅰ	2			2							
◎基礎電気物性学及び演習	3			4							
◎電気物性学Ⅰ	2				2						
◎電気電子計測	2			2							
◎電気回路Ⅲ	2				2						

電気電子工学科 (2014 年度入学者)

(前ページの続き)

授 業 科 目	単 位	週 時 間 数								備 考
		1年		2年		3年		4年		
		前	後	前	後	前	後	前	後	
★基本電子回路Ⅱ	2			2						
★電 磁 波	2			2						
★アナログ電子回路	2					2				
★デジタル電子回路	2						2			
★電 気 数 学	2			2						
★数 値 計 算 法	2					2				
★情 報 処 理	2			2						
★電気音響工学	2						2			
★電気物性学Ⅱ	2					2				
★磁 気 工 学	2					2				
★半 導 体 デ バ イ ス	2						2			
★量子電子デバイス	2						2			
★電 波 工 学 Ⅰ	2					2				
★電 波 工 学 Ⅱ	2						2			
★システム制御Ⅰ	2					2				
★システム制御Ⅱ	2						2			
★信号基礎理論	2					2				
★通 信 方 式	2							2		
★電子計算機工学Ⅰ	2					2				
★電子計算機工学Ⅱ	2						2			
★電気機器学Ⅰ	2					2				
★電気機器学Ⅱ	2						2			
★送 配 電 工 学	2							2		
★発 変 電 工 学	2						2			
★電 子 応 用	2							2		
★パワーエレクトロニクス	2							2		
★情報通信理論	2						2			
★電気施設管理及び法規	2							2		
★電気機械設計及び製図	2								2	
★高 電 圧 工 学	2					2				
★光エレクトロニクス	2					2				
★通信工学及び法規	2							2		
★集積回路工学	2							2		
★プログラミング言語	2			3						
現代物理学概論	2			2						
現代化学概論	2						2			
サイバネティクス	2			2						
一般機械工学	2					2				
一般経営工学	2						2			
計 算 機 概 論	2			2						
ソフトウェア設計	2			2						
確 率 統 計	2			2						
材料力学Ⅰ及び演習	4			4						
ロ ボ ッ ト 工 学	2			2						

授 業 科 目	単 位	週 時 間 数								備 考	
		1 年		2 年		3 年		4 年			
		前	後	前	後	前	後	前	後		
自動制御と制御プログラミング	2			2							
計測・電子回路	2			2							
状態制御	2				2						
メカトロニクス	2				2						
言語理論とコンパイラ	2				2						
分析技術入門	2				2						
モデル化技術入門	2				2						

#### 【4】自由選択科目履修方法

##### 自由選択科目履修方法

下記の (イ) (ロ) (ハ) (ニ) (ホ) のうちから任意に8単位修得しなければなりません。

- |                |                                       |
|----------------|---------------------------------------|
| (イ) 青山スタンダード科目 | } (卒業に必要な単位を超えて修得した単位は、自由選択科目に算入されます) |
| (ロ) 外国語科目      |                                       |
| (ハ) 学科科目       |                                       |
| (ニ) 他学科科目      |                                       |
| (ホ) 他学部科目      |                                       |

ただし、卒業要件外科目、実験科目および「一般電気工学」は除外科目として扱います。他学科・他学部科目のうちには実験科目などの除外科目がありますので当該学科・学部の履修規定に従ってください。

注意：他キャンパス開講科目を履修する際には、キャンパス間の移動時間に注意してください（「Ⅲ. 履修について1. 履修計画」を参照）。

電気電子工学科 (2014年度生) 履修ガイドライン

これはあくまでも履修の一例です。

1 年		2 年		3 年		4 年			
前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期		
物理学 I	物理学 II	物理学 III						理工系で 身に付けるべき 専門基礎知識	
化学 I	化学 II	化学 III	図形科学						
解析学 I A	解析学 I B	解析学 II							
線形代数 I A	線形代数 I B	微分方程式 I		線形代数 II	線形代数 III				
数学演習 A	数学演習 B	物理数学 I	物理数学 II	複素解析 I					
		解析学 II 演習	物理数学演習 I	複素解析 I 演習					
		微分方程式 I 演習	物理数学演習 II						
電気電子工学概論								電気電子の基礎	
	基礎電気数学	電気数学						電気に必要な応用数学	
電気回路 IA 及び演習	電気回路 IB 及び演習	電気回路 II 基本電子回路 I	電気回路 III 基本電子回路 II	アナログ電子回路	デジタル電子回路			回路の基礎理論から 応用まで	
	電気磁気 I 及び演習	電気磁気 II 及び演習			通信工学及び法規			電磁気の基礎理論から 電波応用まで	
	電磁波		電波工学 I		電波工学 II				
必ず身に付けるべき 電気の専門知識				電子計算機工学 I 信号基礎理論		電気音響工学 電子計算機工学 II 情報通信理論	通信方式	コンピューターと 情報・通信	
		基礎電気物性学及び演習	電気物性学 I	電気物性学 II	半導体デバイス 量子電子デバイス	集積回路工学			
			光エレクトロニクス 磁気工学					材料の基礎理論から デバイス応用まで	
		電気電子計測	システム制御 I		システム制御 II	電子応用			
				高電圧工学 電気機器学 I		発変電工学 電気機器学 II	送配電工学 パワーエレクトロニクス 電気施設管理及び法規	電気機械設計及び製図	パワーエレクトロニクス 関連科目
情報処理実習		プログラミング言語	情報処理	数値計算法				ソフトウェアの 基礎から応用まで	
物理基礎実験 I	物理基礎実験 II	電気電子工学基礎実験 I	電気電子工学基礎実験 II	電気工学実験 I	電気工学実験 II			実験を通じた 理論の理解	
化学基礎実験									
電気計測実験									
ものづくり実習									
				電気電子工学輪講 A		電気電子工学輪講 B			
				卒業研究 I		卒業研究 II			
								ゼミ形式少人数科目	
								4年間のまとめ	

★電気主任技術者資格  
について

1) 2014年度生

本学は、電気主任技術者免状に係わる学校として経済産業省の認定を受けており、必要な単位(必修科目の他、選択必修科目の中から指定された8科目17単位)を修得して卒業すると、**実務経験により、第一種、第二種および第三種電気主任技術者免状の交付を申請**することができます。将来、500V以上の電気工作物の工事、維持又は運用に係わる可能性のある者は、次に示す各科目区分ごとの必要単位を必ず**在学中**に修得しておいてください。なお、科目名や単位数は入学年度により異なりますので注意してください。

また、電気電子計測、電波工学Ⅱ及び通信工学及び法規の科目を修得して卒業すると、第1級陸上特殊無線技士及び第3級海上特殊無線技士の免許交付を申請することができます。

科目区分と必要単位数		本学における該当科目	単位	備 考
科目区分	単位			
電気又は電子工学の基礎	17単位以上	◎電気回路ⅠA及び演習 ◎電気回路ⅠB及び演習 ◎電気磁気Ⅰ及び演習 ◎電気磁気Ⅱ及び演習 ◎電気回路Ⅱ 基本電子回路Ⅰ 基礎電気物性学及び演習 ◎電気電子計測 基本電子回路Ⅱ アナログ電子回路 デジタル電子回路	2 2 3 3 4 2 3 2 2 2	本学での必修科目が経済産業省指定の授業内容をすべて含み、かつ、該当科目合計単位数が20単位のため、卒業すれば、この科目区分は自動的に充足。
発電、変電、送電、配電及び電気材料等 電気法規・電気施設管理	8単位以上	◎発変電工学 ◎送配電工学 高電圧工学 電気物性学Ⅱ ◎電気施設管理及び法規	2 2 2 2 2	◎印の指定科目に加え、 <b>高電圧工学が電気物性学Ⅱの何れか一方の修得が必要</b> 。単位不足の場合には電気主任技術者試験の電力科目、法規科目の合格により補完できる。
電気及び電子機器、自動制御、電気エネルギー利用並びに情報伝送及び処理等	10単位以上	◎電気機器学Ⅰ ◎電気機器学Ⅱ ◎パワーエレクトロニクス ◎システム制御Ⅰ ◎システム制御Ⅱ 情報処理	2 2 2 2 2 2	◎印の指定科目を必ず修得すること。単位不足の場合には電気主任技術者試験の機械科目の合格により補完できる。
電気実験、実習	6単位以上	◎電気電子工学基礎実験Ⅱ ◎電気工学実験Ⅰ ◎電気工学実験Ⅱ	2 2 2	すべて必修科目のため、卒業すれば、自動的に充足。
電気電子機器設計、製図	2単位以上	◎電気機械設計及び製図	2	

◎印は、経済産業省が指定した必ず履修しなければならない授業内容に該当する本学の指定科目。

必要な単位の一部を修めなくて卒業した場合は、次のⅠまたはⅡの方法で補うことができます。なお、本学大学院において修得した学部科目は認められません。

Ⅰ 上の表の各科目区分ごとに1科目を限度として、**卒業後3年以内に科目等履修生制度により本学で修得した単位**に含めることができます。なお、単位修得前の実務経験は1/2として計算します。

Ⅱ 不足している科目に相当する電気主任技術者試験(一次試験)に合格することにより不足単位を補うことができます。ただし、試験合格で補完できるのは、受験科目が「電力」、「機械」、「法規」のいずれかの1科目か、「電力」と「法規」、「機械」と「法規」の場合のみですので注意してください。

免状交付の申請は、必要な単位数を修得していることを前提に、次のような実務経験に応じて申請できます。免状交付申請に必要な単位修得証明書については申請時に本学相模原事務部学務課に相談してください。

種類	実務の内容	経験年数
第一種	電圧5万ボルト以上の電気工作物の工事、維持又は運用	5年以上
第二種	電圧1万ボルト以上の電気工作物の工事、維持又は運用	3年以上
第三種	電圧500ボルト以上の電気工作物の工事、維持又は運用	1年以上

## 【機械創造工学科 教育目標とカリキュラム】

(2014～2007年度入学者)

### 教育目標とカリキュラム

現代の機械は知的機能や動作機能が統合された複雑なシステムです。システムをつくるということは、目標あるいは要求から出発し、さまざまな要素を統合して現実に存在するものとして実体化することです。

そのための学問が工学、とりわけ機械工学であり、現在の機械技術者に要求されることは、機械に関する個々の断片的な知識ではなく、種々の要素を統合する能力とこの中で自ら問題を発掘して解決する能力です。したがって、このような能力を持った創造技術者を育て、伝統的な概念にとらわれない新しい機械システムを創造する能力を開発することが、本機械創造工学科の目標です。

統合する能力は、数学的基礎を背景として、数学的手法、論理的手法といった一般的なものから、設計手法、生産手法といった個々のものを学ぶことによって育てられます。解決する能力もまた、数学的・物理学的基礎を背景として、一般的なものから個々の伝統的な機械工学分野を学ぶことによって育てられます。

そこで本機械創造工学科では、

- (1) 数学、英語、コンピュータは必須の道具です。
- (2) 工業力学、材料力学、熱力学、流体力学、機械力学を統合および解決能力を育てるために必須の基礎学問と位置づけます。
- (3) (1)(2)を基礎として、機械工学は次の3つの分野に大別できます。したがって、学生諸君は自分の進むべき道を熟考し、自らの意志と責任において履修計画を立てるべきです。  
A群：材料を対象とし、材料の変形・強度・破壊など、材料の性質・挙動などについて学びます。  
B群：熱や流体を対象とし、熱や流れの力学、熱エネルギーの利用や熱移動、輸送システムなどについて学びます。  
C群：動力学・計測・制御・生産を対象とし、機械の動きとその計測・制御といったシステムに関する基礎、設計、機械加工と工作機械などについて学びます。
- (4) 上記と平行して、ラボワーク、機械創造工学演習、機械創造工学実験、機械設計製図など、演習、実験、実習科目を配置しています。これらの科目は、実践を通じて統合と解決の能力を育てる場です。
- (5) 卒業年次には各研究室に所属し、統合と解決の能力を融合させて、最先端の研究を卒業研究として行います。大学院理工学研究科理工学専攻では、宇宙航空研究開発機構(JAXA)及び産業技術総合研究所(AIST)と連携大学院方式の制度を設けており、航空宇宙工学及び産業技術につながる教育もあわせて行っています。

## 【機械創造工学科履修要項】 (2014年度入学者)

### 【1】履修について

#### 1. 学位

機械創造工学科に4年以上（ただし8年を限度とします）在学し、卒業に必要な136単位以上を修得した者には、「学士（工学）」の学位が授与されます。

#### 2. 卒業要件

本学科を卒業するためには、卒業要件単位表に示す区分ごとに、それぞれ必要な単位を修得しなければなりません。

**卒業要件単位表**

系 列		必選の別		単 位
青山スタンダード科目		p. 12参照		24
外国語科目	英語	必 修	◎	8
		選択必修	★	2
学科科目	数学・共通科目	選択必修	☆	12
	専門実験・実習・演習	必 修	◎	18
		選択必修	◇	2
		選択必修	◇または◆	6
	輪講・卒業研究	必 修	◎	10
	第1科目群	必 修	◎	20
		選択必修	△	8
第2科目群	選択必修	▽	20	
自由選択科目	青山スタンダード科目	選 択		6
	外国語科目			
	学科科目			
	他学科科目			
	他学部科目			
合 計				136

外国人留学生  
卒業要件単位表

系 列		必選の別		単位
青山スタンダード科目		p. 12参照		24
外国語科目	日本語	必 修	◎	10
学科科目	数学・共通科目	選択必修	☆	12
	専門実験・実習・演習	必 修	◎	18
		選択必修	◇	2
		選択必修	◇または◆	6
	輪講・卒業研究	必 修	◎	10
	第1科目群	必 修	◎	20
		選択必修	△	8
第2科目群	選択必修	▽	20	
自由選択科目	青山スタンダード科目	選 択		6
	外国語科目			
	学科科目			
	他学科科目			
	他学部科目			
合 計				136

### 3. 最高履修制限単位

最高履修制限単位とは、各年度で履修申請できる最高限度の単位数です。

理工学部における最高履修制限単位は次のとおりです。各年次でこの表に示す単位数を超えて履修することはできません。なお、各年次において、1科目以上の履修をしなければなりません。

学年	1～4年次	合計
最高履修制限単位	各48単位	192単位

(注意) 教職課程科目および「職業指導」の単位は、最高履修制限単位に含まれません。

### 4. 修得単位僅少者

入学後の2年間(休学期間を除く)で修得単位が32単位に満たない者は、成業の見込みのない者として除籍されることがありますので、該当しないよう特に注意してください。

### 5. 進級条件

3年次生から4年次生に進級するためには、3年次終了時に「卒業研究」の履修条件を満たしている必要があります。

ただし、本学の3年次後期から4年次前期に相当する期間に協定校または認定校に留学する学生に限り、4年次の後期授業開始までに卒業研究の履修条件を満たすことを条件に4年次に進級し、「卒業研究A」(8単位、後期週24時間)を履修することができます。留学前に学科に申し出、学科の指示に従ってください(自学科の「卒業研究A」のみ履修可)。

### 6. 卒業研究の履修条件

卒業研究の履修条件は、以下のとおりです。

- 1) 3年以上在学していること。
- 2) 3年次までに、学科科目のうちの数学・共通科目、第1科目群、専門実験・実習・演習の必要単位を修得していること。
- 3) 3年次までに、青山スタンダード科目と外国語科目の必修科目と3年次必修科目機械創造工学輪講Ⅰ・Ⅱの単位を修得していること。
- 4) 卒業要件内単位のうち120単位以上修得していること。
- 5) 電気電子工学科の審査を受け許可された者は、電気電子工学科の「卒業研究」を履修することができます。
- 6) 経営システム工学科の審査を受け許可された者は、経営システム工学科の「卒業研究」を履修することができます。
- 7) 情報テクノロジー工学科の審査を受け許可された者は、情報テクノロジー工学科の「卒業研究」を履修することができます。

## 【2】 外国語科目 (英語) 配置表および履修方法

### 1. 外国語科目履修方法

外国語のクラスは指定制なので指定以外のクラスで履修することはできません。  
 なお、所要単位を超えて修得した単位は自由選択科目の選択の単位に算入されます。

### 2. 外国語科目配置表

#### 外国語科目 (英語)

◎印の 8 単位 必修  
 ★から 2 単位 選択必修

授 業 科 目	単 位	週 時 間 数								履修条件	
		1年		2年		3年		4年			
		前	後	前	後	前	後	前	後		
◎English Core I-a	1	2									
◎English Core I-b	1	2									
◎English Core I-c	1		2								
◎English Core I-d	1		2								
◎English Core II-a	1			2							
◎English Core II-b	1			2							
◎English Core II-c	1				2						
◎English Core II-d	1				2						
★Public Speaking A	1					2					
★Public Speaking B	1						2				
★Advanced Skills A	1					2				受講にあたっては事前に 担当者の許可が必要です。	
★Advanced Skills B	1						2				
★English Comprehension A	1					2					
★English Comprehension B	1						2				
★English for Engineers A	1					2					
★English for Engineers B	1						2				
★Study Abroad A	2				2					※下記参照	
★Study Abroad B	2				2						

### ※Study Abroad A、B の履修について

理工学部では、2013年度入学生より海外研修を実施しています。海外研修に参加したものが、一定の条件を満たすことにより、単位を修得することが可能です。ただし、卒業に必要な単位として認められるのは、A、Bそれぞれ1回ずつ、計2回の参加までです。参加希望者はオリエンテーションに必ず参加し、プログラムの詳細を確認してください。

◎外国人留学生の外国語科目 (日本語) 配置表および履修方法

◎外国人留学生  
 外国語科目 (日本語)  
 配置表  
 ◎の10単位 必修

授 業 科 目	単 位	週 時 間 数								履 修 条 件	
		1 年		2 年		3 年		4 年			
		前	後	前	後	前	後	前	後		
◎ 日 本 語 初 級 A-1	1	2									
◎ 日 本 語 初 級 A-2	1		2								日本語初級A-1 修得者のみ履修可
◎ 日 本 語 初 級 B-1	1	2									
◎ 日 本 語 初 級 B-2	1		2								日本語初級B-1 修得者のみ履修可
◎ 日 本 語 初 級 C-1	1	2									
◎ 日 本 語 初 級 C-2	1		2								日本語初級C-1 修得者のみ履修可
◎ 日 本 語 中 級 A-1	1			2							日本語初級A-2、B-2、C-2の うち2科目以上修得者のみ履修可
◎ 日 本 語 中 級 A-2	1				2						日本語中級A-1 修得者のみ履修可
◎ 日 本 語 中 級 B-1	1			2							日本語初級A-2、B-2、C-2の うち2科目以上修得者のみ履修可
◎ 日 本 語 中 級 B-2	1				2						日本語中級B-1 修得者のみ履修可
日 本 語 上 級 - 1	1					2					青山キャンパス開講科目 日本語中級A-2、B-2のうちい ずれかの科目の修得者のみ履修可
日 本 語 上 級 - 2	1						2				青山キャンパス開講科目 日本語上級-1 修得者のみ履修可

なお、日本語上級-1、上級-2は自由選択科目の選択単位に算入されます。

外国人留学生  
 第二外国語科目履修方法

※第二外国語科目配置表は青山スタンダード科目配置表の言葉の技能〔領域F〕・テーマ別科目〔領域F〕を参照してください。

※入学手続時に申請した科目以外は履修できません。

・言葉の技能〔領域F〕(第二外国語科目)の必要単位  
 必修(4単位)

フランス語、ドイツ語、スペイン語、中国語、ロシア語、韓国語、英語のうちから  
 1外国語を履修してください。

・テーマ別科目〔領域F〕を修得した場合、その単位は自由選択科目の単位に算入されます。

※本学入学以前に、高等学校あるいは海外等ですでに学習したことのある者が、その学力をI(A)・I(B)修了者に準ずると認定された場合、IIの科目で卒業に必要な単位に充当することができます。詳細は、『学年初頭行事』を参照してください。

◎交換留学生の外国語科目配置表および履修方法

交換留学生の履修は別途指導します。

授 業 科 目	単 位	備 考
日 本 語 ( I )	2	青山キャンパス開講
日 本 語 ( II )	2	
日 本 語 ( III )	2	
日 本 語 ( IV )	2	
日 本 語 ( V )	2	

**【3】 学科科目配置表および履修方法**

1. 学科科目履修方法

学科科目の卒業要件は、「卒業要件単位表」を参照してください。

規定以上に修得した選択必修科目の単位は自由選択科目の選択の単位に算入されます。

2. 学科科目配置表

理工学部生以外の履修は原則として許可しません。

◎は必修 ☆・★・◇・◆・△・▽は選択必修

**数学・共通科目**

☆の科目の中から  
12単位 選択必修

授 業 科 目	単 位	週 時 間 数								備 考	
		1年		2年		3年		4年			
		前	後	前	後	前	後	前	後		
☆線形代数 I A	2	2									
☆線形代数 I B	2		2								
☆解析学 I A	2	2									
☆解析学 I B	2		2								
☆数学演習 A	2	2									
☆数学演習 B	2		2								
☆線形代数 II	2			2							
☆線形代数 III	2				2						
☆解析学 II	2			2							
☆物理数学 I	2			2							
☆複素解析 I	2					2					
☆微分方程式 I	2			2							
☆物理数学 II	2				2						
☆解析学 II 演習	1			1							隔週
☆微分方程式 I 演習	1			1							隔週
☆物理数学演習 I	1				1						隔週
☆物理数学演習 II	1				1						隔週
☆複素解析 I 演習	1					1					隔週
☆物理学 I	2	2									
☆物理学 II	2		2								
☆物理学 III	2			2							
☆現代物理学概論	2				2						
☆化学 I	2	2									
☆化学 II	2		2								
☆化学 III	2			2							

**専門実験・実習・演習**

◎の科目18単位 必修

◇◆の科目を

合計 8 単位 選択必修

(そのうち 2 単位は必ず

◇から履修しなくては

なりません)

◎ものづくり実習	1	4 前期又は後期									
◎物理基礎実験 I	1	4									
◎物理基礎実験 II	1	4									
◎化学基礎実験	2	4 前期又は後期									

授 業 科 目	単 位	週 時 間 数								備 考	
		1 年		2 年		3 年		4 年			
		前	後	前	後	前	後	前	後		
◎電気計測実験	1	4 前期又は後期									
◎情報処理実習	2	4 前期又は後期									
◎基礎製図	2			2							
◎機械要素設計	2				4						
◎計算機実習Ⅰ	2			4							
◎計算機実習Ⅱ	2				4						
◎機械設計製図	2						4				
◇機械創造工学実験Ⅰ	2					4					
◇機械創造工学実験Ⅱ	2						4				
◆機械創造工学体験演習	2	2									
◆機械創造工学演習	2				2 前期又は後期						
◆ラボ・ワーク AⅠ	1			2							教員の許可を得たものに限る。 AとBの同時履修はできない。 I・IIのうちいずれかが不合格となれば I・IIともに不合格となる。 I・IIは同一担当で履修すること。 ラボ・ワークと卒業研究の同時履修はで きない。 ラボ・ワーク AⅠ、AⅡ履修者は理工学実 践演習Ⅱの同時履修不可 ラボ・ワーク BⅠ、BⅡ履修者は理工学実 践演習Ⅳの同時履修不可
◆ラボ・ワーク AⅡ	1				2						
◆ラボ・ワーク BⅠ	1					2					
◆ラボ・ワーク BⅡ	1						2				
◆理工学実践演習Ⅱ	2				4						
◆理工学実践演習Ⅳ	2						4				
◆情報テクノロジー実験Ⅰ	2					4					
◆情報テクノロジー実験Ⅱ	2						4				
インターンシップ	1						3				

輪講・卒業研究

◎の科目10単位 必修

◎機械創造工学輪講Ⅰ	1				2					
◎機械創造工学輪講Ⅱ	1					2				
◎卒業研究Ⅰ	4							12		I・IIの単位を分離して修得することが できない。I・IIのうちいずれかが不合格 となればI・II共に不合格となる。 I・IIは同一担当で履修すること。
◎卒業研究Ⅱ	4								12	
◎卒業研究 A	8								24	協定校・認定校留学者のみ履修可
理工学高度実践研究Ⅰ	4							12		申請者のみ履修可 卒業研究Ⅰ履修者は履修不可
理工学高度実践研究Ⅱ	4								12	申請者のみ履修可 卒業研究Ⅱ履修者は履修不可

第1科目群

◎の科目20単位 必修

△の科目の中から

8単位 選択必修

◎工業力学	2	2								
◎工業動力学	2		2							
◎材料力学Ⅰ及び演習	4			4						
◎熱力学及び演習	4				4					
◎機械力学及び演習	4					4				

第 1 科目群

(前ページの続き)

授 業 科 目	単 位	週 時 間 数								備 考	
		1 年		2 年		3 年		4 年			
		前	後	前	後	前	後	前	後		
◎流体力学及び演習	4			4							
△応用数学 I	2			2							
△応用数学 II	2			2							
△材料科学概論	2			2							
△精密加工学	2				2						
△分析技術入門	2	2									
△確率統計	2			2							
△組み合わせ最適化 I	2			2							
△応用統計解析	2				2						
△オペレーションズ・リサーチ I	2				2						
△生産管理技術 I	2				2						
△情報数学 I	2	2									
△情報数学 II	2			2							
△計算機概論	2				2						
△数理モデル解析法	2				2						
△メカトロニクス	2				2						
△データ構造とアルゴリズム	2					2					

第 2 科目群

▽の科目の中から  
20単位 選択必修

▽材料力学 II	2			2							
▽応用熱力学	2			2							
▽計測・電子回路	2			2							
▽振動工学	2				2						
▽粘性流体力学	2				2						
▽機能材料	2				2						
▽状態制御	2				2						
▽弾塑性工学	2				2						
▽流体機械	2				2						
▽機構学	2				2						
▽エネルギー・燃焼論	2				2						
▽熱・物質移動論	2					2					
▽圧縮性流体力学	2					2					
▽材料強度学	2					2					
▽計算力学	2					2					
▽工作機械	2					2					
▽機械技術と社会	2					2					
▽モデル化技術入門	2	2									
▽I E 技術	2			2							
▽多変量解析 I	2					2					
▽経営システム工学特別講座	2					2					
▽ロボット工学	2			2							
▽自動制御と制御プログラミング	2			2							

選択科目

授 業 科 目	単 位	週 時 間 数								備 考	
		1 年		2 年		3 年		4 年			
		前	後	前	後	前	後	前	後		
▽設 計 情 報 工 学	2			2							
現 代 化 学 概 論	2			2							
一 般 電 気 工 学	2			2							
電 磁 波	2				2						
ア ナ ロ グ 電 子 回 路	2				2						
信 号 基 礎 理 論	2				2						
デ ジ タ ル 電 子 回 路	2					2					
電 気 音 響 工 学	2					2					
発 変 電 工 学	2					2					
送 配 電 工 学	2							2			
電 子 応 用	2							2			
一 般 経 営 工 学	2			2							
品 質 管 理 技 術	2					2					
経 済 性 工 学	2						2				
実 験 計 画 法	2						2				
生 産 管 理 技 術 II	2						2				
オペレーションズ・リサーチII	2						2				
多 変 量 解 析 II	2						2				
企 業 経 済 学	2					2					
シ ス テ ム 工 学 応 用	2					2					
コーポレートファイナンス	2						2				
生 産 シ ス テ ム 設 計	2							2			
経 営 管 理 論	2							2			
ゲ ー ム 理 論	2							2			
サイバネティクス	2			2							
ソ フ ト ウ ェ ア 設 計	2					2					
ヒューマンコンピュータインタラクション	2					2					
人 工 知 能 論	2						2				
認 知 心 理 学	2						2				
高次ヒューマンインタフェース	2						2			集中講義	
生 体 情 報 工 学	2						2				
理 工 学 実 践 演 習 I	2			4						申請者のみ履修可	
理 工 学 実 践 演 習 III	2					4				申請者のみ履修可	
職 業 指 導	4					4				(注) 隔年開講・集中講義・卒業要件外	

(注)教育職員免許状の取得を希望する学生以外は履修できません。

## 【4】自由選択科目履修方法

### 自由選択科目履修方法

下記の(イ)(ロ)(ハ)(ニ)(ホ)のうちから任意に6単位修得しなければなりません。

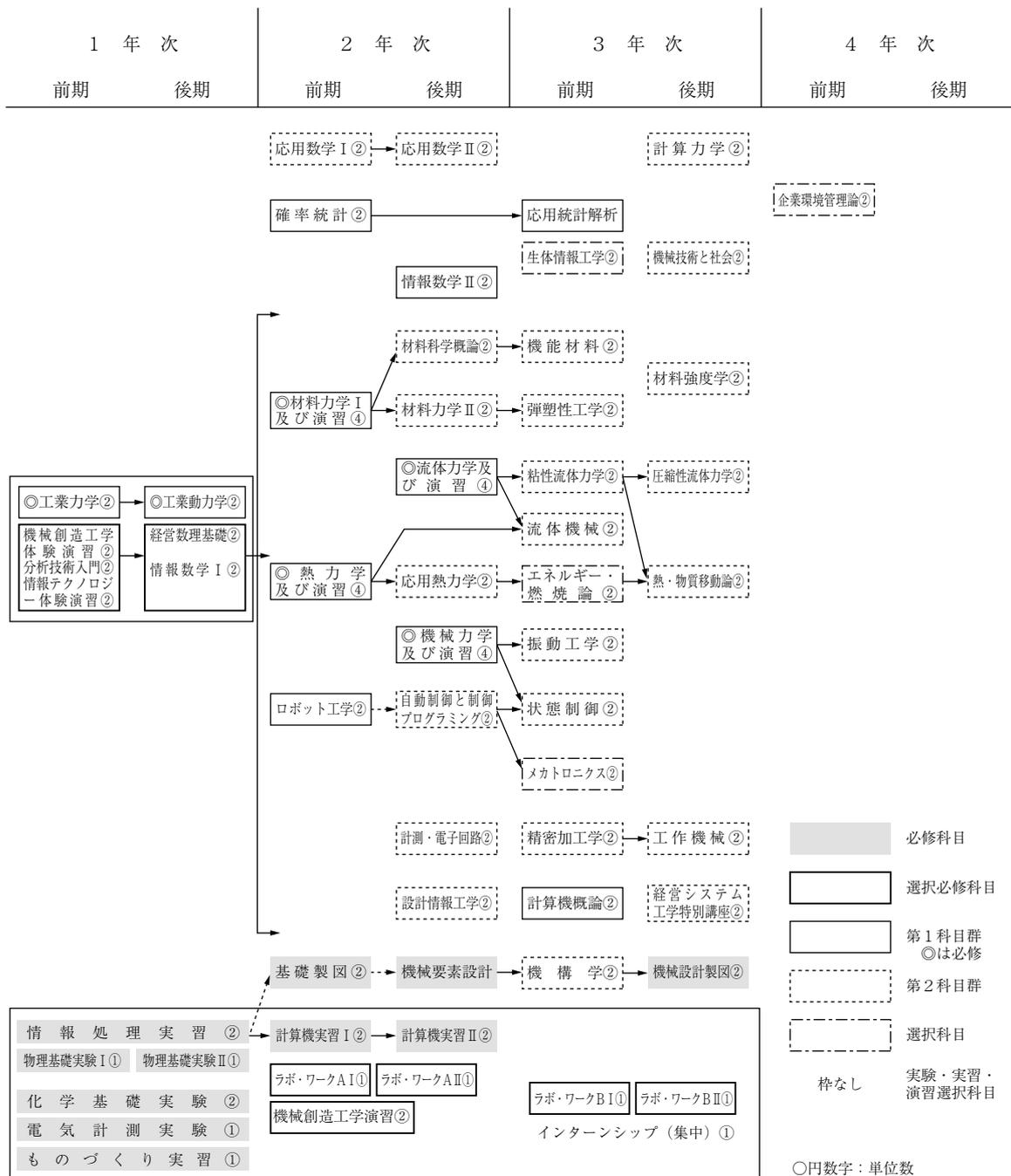
- |                |   |                                     |
|----------------|---|-------------------------------------|
| (イ) 青山スタンダード科目 | } | (卒業に必要な単位を超えて修得した単位は、自由選択科目に算入されます) |
| (ロ) 外国語科目      |   |                                     |
| (ハ) 学科科目       |   |                                     |
| (ニ) 他学科科目      |   |                                     |
| (ホ) 他学部科目      |   |                                     |

ただし、卒業要件外科目は除きます。他学科・他学部科目のうちには実験科目、「一般機械工学」などの除外科目がありますので当該学科・学部の履修規定に従ってください。

注意：他キャンパス開講科目を履修する際には、キャンパス間の移動時間に注意してください(「Ⅲ. 履修について1. 履修計画」を参照)。

機械創造工学科 (2014年度生) 履修ガイドライン

これはあくまでも履修の一例です。



青山スタンダード科目  
 フレッシュヤーズ・セミナー (1年次)  
 ウェルカム・レクチャー (1年次)  
 コア科目  
 教養コア  
 キリスト教概論 I (1年次)  
 教養コア  
 領域 B~E (1年次)  
 技能コア  
 言葉の技能  
 第二外国語科目 (1年次)  
 情報の技能  
 情報スキル I  
 テーマ別科目  
 キリスト教概論 II (2年次)  
 領域 A~H (2~3年次配置科目)

英語・技術英語 (1~3年次配置科目)

数学・化学・物理学 (1~3年次配置科目)

※2 機械創造工学実験 I ②

※3 機械創造工学実験 II ②

※2・3のどちらか1科目  
選択必修

卒業研究 I ④

卒業研究 II ④

機械創造工学輪講 I ①

機械創造工学輪講 II ①

## 【経営システム工学科履修要項】 (2014年度入学者)

### 【1】履修について

#### 1. 学位

経営システム工学科に4年以上(ただし8年を限度とします)在学し、卒業に必要な136単位以上を修得した者には、「学士(工学)」の学位が授与されます。

#### 2. 卒業要件

本学科を卒業するためには、卒業要件単位表に示す区分ごとに、それぞれ必要な単位を修得しなければなりません。

**卒業要件単位表**

系 列		必選の別		単 位
青山スタンダード科目		p. 12参照		24
外国語科目	英語	必 修	◎	8
		選択必修	★	2
学科科目	数学・共通科目	選択必修	☆	12
	専門実験・実習・演習	必 修	◎	14
		選択必修	◇	4
	輪講・卒業研究	必 修	◎	10
	第1科目群	必 修	◎	6
		選択必修	△または▲	30
第2科目群	選択必修	▽または▼	18	
自由選択科目	青山スタンダード科目※ 外国語科目 学科科目 他学科科目 他学部科目	選 択		8
合 計				136

※ただし、青山スタンダード科目は4単位までを自由選択科目として扱います。

外国人留学生  
卒業要件単位表

系 列		必選の別		単位
青山スタンダード科目		p. 12参照		24
外国語科目	日本語	必 修	◎	10
学科科目	数学・共通科目	選択必修	☆	12
	専門実験・実習・演習	必 修	◎	14
		選択必修	◇	4
	輪講・卒業研究	必 修	◎	10
	第1科目群	必 修	◎	6
		選択必修	△または▲	30
第2科目群	選択必修	▽または▼	18	
自由選択科目	青山スタンダード科目※ 外国語科目 学科科目 他学科科目 他学部科目	選 択		8
合 計				136

※ただし、青山スタンダード科目は4単位までを自由選択科目として扱います。

3. 最高履修制限単位

最高履修制限単位とは、各年度で履修申請できる最高限度の単位数です。

理工学部における最高履修制限単位は次のとおりです。各年次でこの表を示す単位数を超えて履修することはできません。なお、各年次において、1科目以上の履修をしなければなりません。

学年	1～4年次	合計
最高履修制限単位	各48単位	192単位

(注意) 教職課程科目の単位は、最高履修制限単位に含まれません。

4. 修得単位僅少者

入学後の2年間(休学期間を除く)で修得単位が32単位に満たない者は、成業の見込みのない者として除籍されることがありますので、該当しないよう特に注意してください。

5. 進級条件

3年次生から4年次生に進級するためには、3年次終了時に「卒業研究」の履修条件を満たしている必要があります。

ただし、本学の3年次後期から4年次前期に相当する期間に協定校または認定校に留学する学生に限り、4年次の後期授業開始までに卒業研究の履修条件を満たすことを条件に4年次に進級し、「卒業研究A」(8単位、後期週24時間)を履修することができます。留学前に学科に申し出、学科の指示に従ってください(自学科の「卒業研究A」のみ履修可)。

6. 卒業研究の履修条件

「卒業研究」の履修条件は以下のとおりです。

- 1) 3年以上在学していること。
- 2) 3年次までに、学科科目のうちの数学・共通科目、第1科目群、専門実験・実習・演習の必要単位を修得していること。
- 3) 3年次までの必修科目の単位を修得していること。
- 4) 卒業要件内単位のうち118単位以上修得していること。
- 5) 電気電子工学科の審査を受け許可された者は、電気電子工学科の「卒業研究」を履修することができます。
- 6) 機械創造工学科の審査を受け許可された者は、機械創造工学科の「卒業研究」を履修することができます。
- 7) 情報テクノロジー工学科の審査を受け許可された者は、情報テクノロジー工学科の「卒業研究」を履修することができます。

## 【2】 外国語科目 (英語) 配置表および履修方法

### 1. 外国語科目履修方法

外国語のクラスは指定制なので指定以外のクラスで履修することはできません。  
 なお、所要単位を超えて修得した単位は自由選択科目の選択の単位に算入されます。

### 2. 外国語科目配置表

#### 外国語科目 (英語)

◎印の 8 単位 必修  
 ★から 2 単位 選択必修

授 業 科 目	単 位	週 時 間 数								履修条件	
		1 年		2 年		3 年		4 年			
		前	後	前	後	前	後	前	後		
◎English Core I-a	1	2									
◎English Core I-b	1	2									
◎English Core I-c	1		2								
◎English Core I-d	1		2								
◎English Core II-a	1			2							
◎English Core II-b	1			2							
◎English Core II-c	1				2						
◎English Core II-d	1				2						
★Public Speaking A	1					2					
★Public Speaking B	1						2				
★Advanced Skills A	1					2				受講にあたっては事前に 担当者の許可が必要です。	
★Advanced Skills B	1						2				
★English Comprehension A	1					2					
★English Comprehension B	1						2				
★English for Engineers A	1					2					
★English for Engineers B	1						2				
★Study Abroad A	2			2						※下記参照	
★Study Abroad B	2			2							

※Study Abroad A、B  
 の履修について

理工学部では、2013年度入学生より海外研修を実施しています。海外研修に参加したものが、一定の条件を満たすことにより、単位を修得することが可能です。ただし、卒業に必要な単位として認められるのは、A、Bそれぞれ1回ずつ、計2回の参加までです。参加希望者はオリエンテーションに必ず参加し、プログラムの詳細を確認してください。

◎外国人留学生の外国語科目 (日本語) 配置表および履修方法

◎外国人留学生  
 外国語科目 (日本語)  
 配置表  
 ◎の10単位 必修

授 業 科 目	単 位	週 時 間 数								履 修 条 件	
		1 年		2 年		3 年		4 年			
		前	後	前	後	前	後	前	後		
◎ 日 本 語 初 級 A-1	1	2									
◎ 日 本 語 初 級 A-2	1		2								日本語初級A-1 修得者のみ履修可
◎ 日 本 語 初 級 B-1	1	2									
◎ 日 本 語 初 級 B-2	1		2								日本語初級B-1 修得者のみ履修可
◎ 日 本 語 初 級 C-1	1	2									
◎ 日 本 語 初 級 C-2	1		2								日本語初級C-1 修得者のみ履修可
◎ 日 本 語 中 級 A-1	1			2							日本語初級A-2、B-2、C-2の うち2科目以上修得者のみ履修可
◎ 日 本 語 中 級 A-2	1				2						日本語中級A-1 修得者のみ履修可
◎ 日 本 語 中 級 B-1	1			2							日本語初級A-2、B-2、C-2の うち2科目以上修得者のみ履修可
◎ 日 本 語 中 級 B-2	1				2						日本語中級B-1 修得者のみ履修可
日 本 語 上 級 - 1	1					2					青山キャンパス開講科目 日本語中級A-2、B-2のうちい ずれかの科目の修得者のみ履修可
日 本 語 上 級 - 2	1						2				青山キャンパス開講科目 日本語上級-1 修得者のみ履修可

なお、日本語上級-1、上級-2は自由選択科目の選択単位に算入されます。

外国人留学生  
 第二外国語科目履修方法

※第二外国語科目配置表は青山スタンダード科目配置表の言葉の技能〔領域F〕・テーマ別科目〔領域F〕を参照してください。

※入学手続き時に申請した科目以外は履修できません。

・言葉の技能〔領域F〕(第二外国語科目)の必要単位  
 必修(4単位)

フランス語、ドイツ語、スペイン語、中国語、ロシア語、韓国語、英語のうちから  
 1外国語を履修してください。

・テーマ別科目〔領域F〕を修得した場合、その単位は自由選択科目の単位に算入されます。

※本学入学以前に、高等学校あるいは海外等ですでに学習したことのある者が、その学力をI(A)・I(B)修了者に準ずると認定された場合、IIの科目で卒業に必要な単位に充当することができます。詳細は、『学年初頭行事』を参照してください。

◎交換留学生の外国語科目配置表および履修方法

交換留学生の履修は別途指導します。

授 業 科 目	単 位	備 考
日 本 語 ( I )	2	青山キャンパス開講
日 本 語 ( II )	2	
日 本 語 ( III )	2	
日 本 語 ( IV )	2	
日 本 語 ( V )	2	

**[3] 学科科目配置表及び履修方法**

1. 学科科目履修方法

学科科目の卒業要件は、「卒業要件単位表」を参照してください。

規定以上に修得した選択必修科目の単位は自由選択科目の選択の単位に算入されます。

2. 学科科目配置表

理工学部生以外の履修は原則として許可しません。

◎は必修 ☆・★・◇・△・▲・▽・▼は選択必修

**数学・共通科目**

☆の科目の中から  
12単位 選択必修

授 業 科 目	単 位	週 時 間 数								備 考	
		1 年		2 年		3 年		4 年			
		前	後	前	後	前	後	前	後		
☆解析学 I A	2	2									
☆解析学 I B	2		2								
☆解析学 II	2			2							
☆線形代数 I A	2	2									
☆線形代数 I B	2		2								
☆線形代数 II	2			2							
☆線形代数 III	2				2						
☆微分方程式 I	2			2							
☆物理数学 I	2			2							
☆物理数学 II	2				2						
☆複素解析 I	2					2					
☆数学演習 A	2	2									
☆数学演習 B	2		2								
☆解析学 II 演習	1			1							隔週
☆微分方程式 I 演習	1			1							隔週
☆物理数学演習 I	1				1						隔週
☆物理数学演習 II	1				1						隔週
☆複素解析 I 演習	1					1					隔週
☆物理学 I	2	2									
☆物理学 II	2		2								
☆物理学 III	2			2							
☆化学 I	2	2									
☆化学 II	2		2								
☆化学 III	2			2							
☆現代物理学概論	2				2						

**専門実験・実習・演習**

◎の科目14単位 必修  
◇を合計4単位 選択必修

◎情報処理実習	2	4									
◎物理基礎実験 I	1	4									
◎物理基礎実験 II	1		4								
◎化学基礎実験	2	4									
◎電気計測実験	1	4									

経営システム工学科 (2014 年度入学者)

授 業 科 目	単 位	週 時 間 数								備 考	
		1 年		2 年		3 年		4 年			
		前	後	前	後	前	後	前	後		
◎ものづくり実習	1	4 前期又は後期									
◎計算機実習Ⅰ	2			4							
◎計算機実習Ⅱ	2				4						
◎計算機実習Ⅲ	2					4					
◇モデル化技術実験	2					4					
◇分析技術実験	2						4				
◇最適化技術実験	2						4				
インターンシップ	1							3			
グローバル I S E	2								2		2015年度開講 2016年度より英語講義
理工学実践研究Ⅰ	4								12		
理工学実践研究Ⅱ	4									12	

輪講・卒業研究

◎の科目10単位 必修

◎経営システム工学輪講Ⅰ	1					2					
◎経営システム工学輪講Ⅱ	1								2		
◎卒業研究Ⅰ	4									12	I・IIの単位を分離して修得することができない。I・IIのうちいずれかが不合格となればI・II共に不合格となる。I・IIは同一担当で履修すること。
◎卒業研究Ⅱ	4									12	
◎卒業研究A	8									24	協定校留学生と認定校留学生のみ履修できます。留学以前に学科に申し出、学科の指示に従ってください。
◎理工学高度実践研究Ⅰ	4									12	申請者のみ受講可能。卒業研究との同時履修は不可。
◎理工学高度実践研究Ⅱ	4									12	申請者のみ受講可能。卒業研究との同時履修は不可。

第1科目群

◎の科目6単位 必修  
△▲の科目を合計30単位  
選択必修  
(そのうち16単位は必ず  
△から履修すること)

◎モデル化技術入門	2	2									
◎分析技術入門	2	2									
◎最適化技術入門	2	2									
△アルゴリズム設計	2			2							
△オペレーションズ・リサーチⅠ	2			2							
△確率統計	2			2							
△シミュレーション工学	2			2							
△意思決定論	2			2							
△組合せ最適化Ⅰ	2				2						
△システム工学基礎	2					2					
△多変量解析Ⅰ	2					2					
△多変量解析Ⅱ	2					2					
▲会計学	2			2							
▲経営システム工学の最先端	2			2							

第1科目群

(前ページの続き)

授 業 科 目	単 位	週 時 間 数								備 考	
		1 年		2 年		3 年		4 年			
		前	後	前	後	前	後	前	後		
▲ I E 技 術	2				2						
▲ 経 営 管 理 論	2			2							2015年度より英語講義
▲ 生 産 管 理 技 術 I	2			2							
▲ オペレーションズ・リサーチII	2				2						
▲ 実 験 計 画 法	2				2						2015年度より英語講義
▲ 経営システム工学特別講座	2				2						
▲ 応 用 統 計 解 析	2						2				2016年度より英語講義
▲ 組 合 せ 最 適 化 II	2						2				2015年度開講 2016年度より英語講義
▲ 経 済 性 工 学	2							2			2016年度より英語講義
▲ プログラミング技術	2							2			2015年度開講 2016年度より英語講義

第2科目群

▽▼の科目の中から  
合計18単位 選択必修  
(そのうち12単位は必ず  
▽から履修すること)

▽ゲ ー ム 理 論	2							2			
▽生 産 シ ス テ ム 設 計	2						2				2016年度より英語講義
▽品 質 管 理 技 術	2							2			
▽企 業 経 済 学	2							2			
▽研 究 開 発 と 製 品 設 計	2								2		
▽コ ー ポ レ ー ト フ ァ イ ナ ン ス	2								2		
▽シ ス テ ム 工 学 応 用	2							2			
▽生 産 管 理 技 術 II	2								2		2016年度より英語講義
▽地 理 情 報 処 理	2								2		2016年度より英語講義
▼一 般 電 気 工 学	2					2					
▼数 値 計 算 法	2							2			
▼電 子 計 算 機 工 学 I	2							2			
▼電 子 計 算 機 工 学 II	2								2		
▼情 報 通 信 理 論	2								2		
▼デ ジ タ ル 電 子 回 路	2								2		
▼電 子 応 用	2									2	
▼一 般 機 械 工 学	2				2						
▼工 業 力 学	2	2									
▼材 料 力 学 I 及 び 演 習	4				4						
▼熱 力 学 及 び 演 習	4				4						
▼機 械 力 学 及 び 演 習	4					4					
▼流 体 力 学 及 び 演 習	4					4					
▼材 料 科 学 概 論	2					2					
▼情 報 数 学 I	2		2								
▼計 算 機 概 論	2				2						
▼情 報 数 学 II	2				2						
▼数 理 モ デ ル 解 析 法	2				2						

第2科目群

(前ページの続き)

授 業 科 目	単 位	週 時 間 数								備 考	
		1年		2年		3年		4年			
		前	後	前	後	前	後	前	後		
▼ロボット工学	2			2							
▼ソフトウェア設計	2			2							
▼ヒューマンコンピュータインタラクション	2				2						
▼理工学実践演習Ⅰ	2			4							申請者のみ受講可能。
▼理工学実践演習Ⅱ	2				4						申請者のみ受講可能。

選択科目

工業動力学	2		2								
計測・電子回路	2				2						
精密加工学	2					2					
材料強度学	2						2				
機械技術と社会	2							2			
設計情報工学	2				2						
自動制御と制御プログラミング	2				2						
情報セキュリティ	2				2						
サイバネティクス	2				2						
言語理論とコンパイラ	2					2					
メカトロニクス	2			2							
人工知能論	2						2				
認知心理学	2						2				
生体情報工学	2						2				
現代化学概論	2				2						

【4】自由選択科目履修方法

自由選択科目履修方法

下記の(イ)(ロ)(ハ)(ニ)(ホ)のうちから任意に8単位修得しなければなりません。

- |                |   |                                     |
|----------------|---|-------------------------------------|
| (イ) 青山スタンダード科目 | } | (卒業に必要な単位を超えて修得した単位は、自由選択科目に算入されます) |
| (ロ) 外国語科目      |   |                                     |
| (ハ) 学科科目       |   |                                     |
| (ニ) 他学科科目      |   |                                     |
| (ホ) 他学部科目      |   |                                     |

ただし、卒業要件外科目は除きます。青山スタンダード科目は4単位までを自由選択科目として扱います。他学科・他学部科目のうちには実験科目、「一般経営工学」などの除外科目がありますので当該学科・学部の履修規定に従ってください。

注意：他キャンパス開講科目を履修する際には、キャンパス間の移動時間に注意してください。  
 (「Ⅲ. 履修について1. 履修計画」を参照)

経営システム工学科 (2014年度生) 履修ガイドライン

これはあくまでも履修の一例です。

	1 年 次		2 年 次		3 年 次		4 年 次	
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
共通科目	キリスト教概論Ⅰ		キリスト教概論Ⅱ					
	青山スタンダード科目 (コア科目)		青山スタンダード科目 (テーマ別科目)					
	英語・技術英語		英語・技術英語		英語・技術英語			
	第二外国語							
	数学・化学・物理学		数学・化学・物理学					
モデル化技術		モデル化技術入門	シミュレーション工学	システム工学基礎				
				IE技術	生産システム設計	プログラミング技術		
			経営管理論		システム工学応用	コネクテッドデバイス		
			意思決定論	計算機実習Ⅱ	モデル化技術実験			
分析技術	分析技術入門		確率統計	実験計画法	品質管理技術	経済性工学		
				多変量解析Ⅰ				
				多変量解析Ⅱ	応用統計解析	研究開発と製品設計		
			計算機実習Ⅰ		企業経済学	分析技術実験		
最適化技術	最適化技術入門		生産管理技術Ⅰ	組合せ最適化Ⅰ	組合せ最適化Ⅱ	生産管理技術Ⅱ		
			オペレーションズ・リサーチⅠ	オペレーションズ・リサーチⅡ				
			アルゴリズム設計		地理情報処理	ゲーム理論		
					計算機実習Ⅲ	最適化技術実験		
経営システム工学			経営システム工学の最前線	経営システム工学特別講座	グローバル I S E			
			会計学		インターンシップ		卒業研究 A	
					経営システム工学輪講Ⅰ	経営システム工学輪講Ⅱ	卒業研究Ⅰ	卒業研究Ⅱ
工学系共通科目			一般機械工学	一般電気工学	数値計算法	電子計算機工学Ⅱ	電子応用	
			材料力学Ⅰ及び演習	機械力学及び演習	電子計算機工学Ⅰ	情報通信理論		
	工業力学	情報数学Ⅰ	熱力学及び演習	流体力学及び演習		デジタル電子回路		
			計算機概論	材料科学概論				
			情報数学Ⅱ	ヒューマンコンピュータインタラクション				
			数理モデル解析法					
			ロボット工学					
			ソフトウェア設計					

## 【情報テクノロジー学科履修要項】 (2014年度入学者)

### 【1】履修について

#### 1. 学位

情報テクノロジー学科に4年以上（ただし8年を限度とします）在学し、卒業に必要な136単位以上を修得した者には、「学士（工学）」の学位が授与されます。

#### 2. 卒業要件

本学科を卒業するためには、卒業要件単位表に示す区分ごとに、それぞれ必要な単位を修得しなければなりません。

**卒業要件単位表**

系 列		必選の別		単 位
青山スタンダード科目		p. 12参照		24
外国語科目	英語	必 修	◎	8
		選択必修	★	2
学科科目	数学・共通科目	必 修	◎	2
		選択必修	☆	10
	専門実験・実習・演習	必 修	◎	24
		選択必修	◇	2
	選択必修	◇または◆	2	
	輪講・卒業研究	必 修	◎	10
	第1科目群	必 修	◎	18
		選択必修	△	8
第2科目群	選択必修	▽	12	
	選択必修	▼	4	
自由選択科目	青山スタンダード科目 外国語科目 学科科目 他学科科目 他学部科目	選 択		10
合 計				136

外国人留学生  
卒業要件単位表

系 列		必選の別		単 位
青山スタンダード科目		p. 12参照		24
外国語科目	日本語	必 修	◎	10
学科科目	数学・共通科目	必 修	◎	2
		選択必修	☆	10
	専門実験・実習・演習	必 修	◎	24
		選択必修	◇	2
		選択必修	◇または◆	2
	輪講・卒業研究	必 修	◎	10
	第1科目群	必 修	◎	18
		選択必修	△	8
第2科目群	選択必修	▽	12	
	選択必修	▼	4	
自由選択科目	青山スタンダード科目 外国語科目 学科科目 他学科科目 他学部科目	選 択		10
合 計				136

3. 最高履修制限単位

最高履修制限単位とは、各年度で履修申請できる最高限度の単位数です。

理工学部における最高履修制限単位は次のとおりです。各年次でこの表に示す単位数を超えて履修することはできません。なお、各年次において、1科目以上の履修をしなければなりません。

学年	1～4年次	合計
最高履修制限単位	各48単位	192単位

(注意) 教職課程科目および教職課程関連科目の単位は、最高履修制限単位に含まれません。

4. 修得単位僅少者

入学後の2年間(休学期間を除く)で修得単位が32単位に満たない者は、成業の見込みのない者として除籍されることがありますので、該当しないよう特に注意してください。

5. 進級条件

3年次生から4年次生に進級するためには、3年次終了時に「卒業研究」の履修条件を満たしている必要があります。

ただし、本学の3年次後期から4年次前期に相当する期間に協定校または認定校に留学する学生に限り、4年次の後期授業開始までに卒業研究の履修条件を満たすことを条件に4年次に進級し、「卒業研究A」(8単位、後期週24時間)を履修することができます。留学前に学科に申し出、学科の指示に従ってください(自学科の「卒業研究A」のみ履修可)。

6. 卒業研究の履修条件

「卒業研究」の履修条件は以下のとおりです。

- 1) 3年以上在学していること。
- 2) 3年次までに、学科科目のうちの数学・共通科目、第1科目群、専門実験・実習・演習の必要単位を修得していること。
- 3) 3年次までの必修科目の単位を修得していること。
- 4) 卒業要件内単位のうち118単位以上修得していること。
- 5) 電気電子工学科の審査を受け許可された者は、電気電子工学科の「卒業研究」を履修することができます。
- 6) 機械創造工学科の審査を受け許可された者は、機械創造工学科の「卒業研究」を履修することができます。
- 7) 経営システム工学科の審査を受け許可された者は、経営システム工学科の「卒業研究」を履修することができます。

## 【2】 第一外国語科目配置表及び履修方法

### 1. 外国語科目履修方法

外国語のクラスは指定制なので指定以外のクラスで履修することはできません。

なお、所要単位を超えて修得した単位は自由選択科目の選択の単位に算入されます。

### 2. 外国語科目配置表

#### 外国語科目 (英語)

- ◎印の 8 単位 必修  
★から 2 単位 選択必修

授 業 科 目	単 位	週 時 間 数								履 修 条 件	
		1 年		2 年		3 年		4 年			
		前	後	前	後	前	後	前	後		
◎English Core I-a	1	2									
◎English Core I-b	1	2									
◎English Core I-c	1		2								
◎English Core I-d	1		2								
◎English Core II-a	1			2							
◎English Core II-b	1			2							
◎English Core II-c	1				2						
◎English Core II-d	1				2						
★Public Speaking A	1					2					
★Public Speaking B	1						2				
★Advanced Skills A	1					2				受講にあたっては事前に 担当者の許可が必要です。	
★Advanced Skills B	1						2				
★English Comprehension A	1					2					
★English Comprehension B	1						2				
★English for Engineers A	1					2					
★English for Engineers B	1						2				
★Study Abroad A	2				2						
★Study Abroad B	2				2					※下記参照	

### ※Study Abroad A、B の履修について

理工学部では、2013年度入学生より海外研修を実施しています。海外研修に参加したものが、一定の条件を満たすことにより、単位を修得することが可能です。ただし、卒業に必要な単位として認められるのは、A、Bそれぞれ1回ずつ、計2回の参加までです。参加希望者はオリエンテーションに必ず参加し、プログラムの詳細を確認してください。

◎外国人留学生の外国語科目 (日本語) 配置表および履修方法

◎外国人留学生  
外国語科目 (日本語)  
配置表  
◎の10単位 必修

授 業 科 目	単 位	週 時 間 数								履 修 条 件	
		1 年		2 年		3 年		4 年			
		前	後	前	後	前	後	前	後		
◎ 日 本 語 初 級 A-1	1	2									
◎ 日 本 語 初 級 A-2	1		2								日本語初級A-1 修得者のみ履修可
◎ 日 本 語 初 級 B-1	1	2									
◎ 日 本 語 初 級 B-2	1		2								日本語初級B-1 修得者のみ履修可
◎ 日 本 語 初 級 C-1	1	2									
◎ 日 本 語 初 級 C-2	1		2								日本語初級C-1 修得者のみ履修可
◎ 日 本 語 中 級 A-1	1			2							日本語初級A-2、B-2、C-2の うち2科目以上修得者のみ履修可
◎ 日 本 語 中 級 A-2	1				2						日本語中級A-1 修得者のみ履修可
◎ 日 本 語 中 級 B-1	1			2							日本語初級A-2、B-2、C-2の うち2科目以上修得者のみ履修可
◎ 日 本 語 中 級 B-2	1				2						日本語中級B-1 修得者のみ履修可
日 本 語 上 級 - 1	1					2					青山キャンパス開講科目 日本語中級A-2、B-2のうちい ずれかの科目の修得者のみ履修可
日 本 語 上 級 - 2	1						2				青山キャンパス開講科目 日本語上級-1 修得者のみ履修可

なお、日本語上級-1、上級-2は自由選択科目の選択単位に算入されます。

外国人留学生  
第二外国語科目履修方法

※第二外国語科目配置表は青山スタンダード科目配置表の言葉の技能〔領域F〕・テーマ別科目〔領域F〕を参照してください。

※入学手続き時に申請した科目以外は履修できません。

・言葉の技能〔領域F〕(第二外国語科目)の必要単位  
必修(4単位)

フランス語、ドイツ語、スペイン語、中国語、ロシア語、韓国語、英語のうちから  
1外国語を履修してください。

・テーマ別科目〔領域F〕を修得した場合、その単位は自由選択科目の単位に算入されます。

※本学入学以前に、高等学校あるいは海外等ですでに学習したことのある者が、その学力をI(A)・I(B)修了者に準ずると認定された場合、IIの科目で卒業に必要な単位に充当することができます。詳細は、『学年初頭行事』を参照してください。

◎交換留学生の外国語科目配置表および履修方法

交換留学生の履修は別途指導します。

授 業 科 目	単 位	備 考
日 本 語 ( I )	2	青山キャンパス開講
日 本 語 ( II )	2	
日 本 語 ( III )	2	
日 本 語 ( IV )	2	
日 本 語 ( V )	2	

**[3] 学科科目配置表及び履修方法**

1. 学科科目履修方法

学科科目の卒業要件は、「卒業要件単位表」を参照してください。

規定以上に修得した選択必修科目の単位は自由選択科目の選択の単位に算入されます。

2. 学科科目配置表

理工学部生以外の履修は原則として許可しません。

◎は必修 ☆・★・□・◇・◆・△・▲・▽・▼は選択必修

**数学・共通科目**

◎の科目 2 単位 必修

☆の科目の中から

10単位 選択必修

授 業 科 目	単 位	週 時 間 数								備 考	
		1 年		2 年		3 年		4 年			
		前	後	前	後	前	後	前	後		
☆線形代数 I A	2	2									
☆線形代数 I B	2		2								
☆解析学 I A	2	2									
☆解析学 I B	2		2								
☆数学演習 A	2	2									
☆数学演習 B	2		2								
◎情報数学 I	2		2								2014年度より英語講義
☆線形代数 II	2			2							
☆線形代数 III	2				2						
☆解析学 II	2			2							
☆物理数学 I	2			2							
☆複素解析 I	2					2					
☆微分方程式 I	2			2							
☆物理数学 II	2				2						
☆解析学 II 演習	1			1							隔週
☆微分方程式 I 演習	1			1							隔週
☆物理数学演習 I	1				1						隔週
☆物理数学演習 II	1				1						隔週
☆複素解析 I 演習	1					1					隔週
☆化学 I	2	2									
☆物理学 I	2	2									
☆化学 II	2		2								
☆物理学 II	2		2								
☆化学 III	2			2							
☆物理学 III	2			2							
☆現代物理学概論	2				2						

**専門実験・実習・演習**

◎の科目 24 単位 必修

◇◆の科目を

合計 4 単位 選択必修

(そのうち 2 単位は必ず

◇から履修しなくてはなりません)

◎情報テクノロジー体験演習	2	2									
◎計算機実習 I	2			4							
◎計算機実習 II	2				4						
◎物理基礎実験 I	1	4									
◎物理基礎実験 II	1		4								
◎化学基礎実験	2		4								

情報テクノロジー学科 (2014 年度入学者)

授 業 科 目	単 位	週 時 間 数								備 考	
		1 年		2 年		3 年		4 年			
		前	後	前	後	前	後	前	後		
◎電気計測実験	1	4									
◎ものづくり実習	1	4									
◎情報処理実習	2	4									
◎図形情報科学演習	2			2							
◎情報総合プログラミング実習Ⅰ	2			4							
◎情報総合プログラミング実習Ⅱ	2				4						
◎システム構築実習	2		4								
◎情報テクノロジー実験Ⅰ	2				4						
◇情報テクノロジー実験Ⅱ	2					4					
◇情報テクノロジー実験Ⅲ	2				4						
◆機械創造工学実験Ⅰ	2				4						
◆機械創造工学実験Ⅱ	2					4					
インターンシップ	1					3					

輪講・卒業研究  
高度実戦研究

◎の科目10単位 必修

◎情報テクノロジー輪講Ⅰ	1				2						
◎情報テクノロジー輪講Ⅱ	1					2					
◎卒業研究Ⅰ	4							12			I・Ⅱの単位を分離して修得することができない。
◎卒業研究Ⅱ	4							12			I・Ⅱのうちいずれかが不合格となれば、I・Ⅱ共に不合格となる。
◎卒業研究A	8							24			I・Ⅱは同一担当者で履修すること。
◎理工学高度実践研究Ⅰ	4							12			協定校・認定校留学生のみ履修可
◎理工学高度実践研究Ⅱ	4							12			I・Ⅱの単位を分離して修得することができない。
											I・Ⅱのうちいずれかが不合格となれば、I・Ⅱ共に不合格となる。
											理工学高度実践プログラムの申請が承認されたものだけが、履修可能。
											本I・Ⅱを履修するものは、卒業研究I・Ⅱを履修することができない。

第1科目群

◎の科目18単位 必修

△の科目の中から

8単位 選択必修

◎計算機概論	2			2							
◎図形情報科学	2			2							
◎情報数学Ⅱ	2			2							
◎数理モデル解析法	2			2							
◎データ構造とアルゴリズム	2				2						
◎ロボット工学	2			2							
◎ソフトウェア設計	2			2							
◎ヒューマンコンピュータインタラクション	2				2						
◎マルチメディア工学	2				2						2015年度より英語講義
△情報ネットワーク	2					2					2015年度より英語講義
△工業力学	2	2									
△組合せ最適化Ⅰ	2				2						

(次ページへ続く)

第1科目群

(前ページの続き)

授 業 科 目	単 位	週 時 間 数								備 考	
		1年		2年		3年		4年			
		前	後	前	後	前	後	前	後		
△信号基礎理論	2					2					
△機械力学及び演習	4				4						
△材料力学Ⅰ及び演習	4				4						
△熱力学及び演習	4				4						
△流体力学及び演習	4				4						
△多変量解析Ⅰ	2							2			
△多変量解析Ⅱ	2							2			
△オペレーションズ・リサーチⅠ	2				2						
△オペレーションズ・リサーチⅡ	2				2						
△確率統計	2				2						この科目は履修することを強く勧める。
△応用統計解析	2							2			確率統計と併せて履修することを強く勧める。
△システム工学応用	2							2			

第2科目群

▽の科目の中から

12単位 選択必修

▼の科目の中から

4単位 選択必修

▽自動制御と制御プログラミング	2				2						
▽言語理論とコンパイラ	2					2					
▽人工知能論	2							2			
▽知的データベース	2							2			
▽認知心理学	2							2			
▽情報セキュリティ	2				2						
▽メカトロニクス	2							2			
▽設計情報工学	2				2						
▽情報と社会	2							2			
▼高次ヒューマンインタフェース	2							2			
▼生体情報工学	2							2			
▼サイバネティクス	2				2						
▼状態制御	2							2			
▼振動工学	2							2			
▼機械設計製図	2							4			
▼計測・電子回路	2				2						
▼デジタル電子回路	2							2			
▼電子計算機工学Ⅱ	2							2			
▼モデル化技術入門	2							2			
▼生産管理技術Ⅰ	2				2						
▼コーポレートファイナンス	2							2			
▼システム工学基礎	2							2			
▼プログラミング技術	2							2			
▼経済性工学	2							2			
▼企業経済学	2							2			
▼会計学	2				2						
▼意思決定論	2				2						

**選択科目**

授 業 科 目	単 位	週 時 間 数								備 考	
		1 年		2 年		3 年		4 年			
		前	後	前	後	前	後	前	後		
▼品質管理技術	2					2					
▼経営システム工学の最先端	2					2					
▼地理情報処理	2					2					
▼実験計画法	2							2			
機械技術と社会	2							2			
工業動力学	2		2								
材料科学概論	2				2						
精密加工学	2					2					
計算力学	2					2					
応用数学Ⅰ	2			2							
応用数学Ⅱ	2				2						
経営システム工学特別講座	2				2						
分析技術入門	2			2							
現代化学概論	2				2						
一般機械工学	2			2							
一般電気工学	2				2						
一般経営工学	2				2						
研究開発と製品設計	2							2			
生産システム設計	2								2		
経営管理論	2								2		
ゲーム理論	2									2	
情報社会及び情報倫理	2			2							
情報と職業	2			2							
理工学実践演習Ⅲ	2					2					理工学高度実践プログラム履修申請者のみ。
理工学実践演習Ⅳ	2						2				

**【4】 自由選択科目履修方法**

自由選択科目履修方法

下記の(イ)(ロ)(ハ)(ニ)(ホ)のうちから任意に10単位修得しなければなりません。

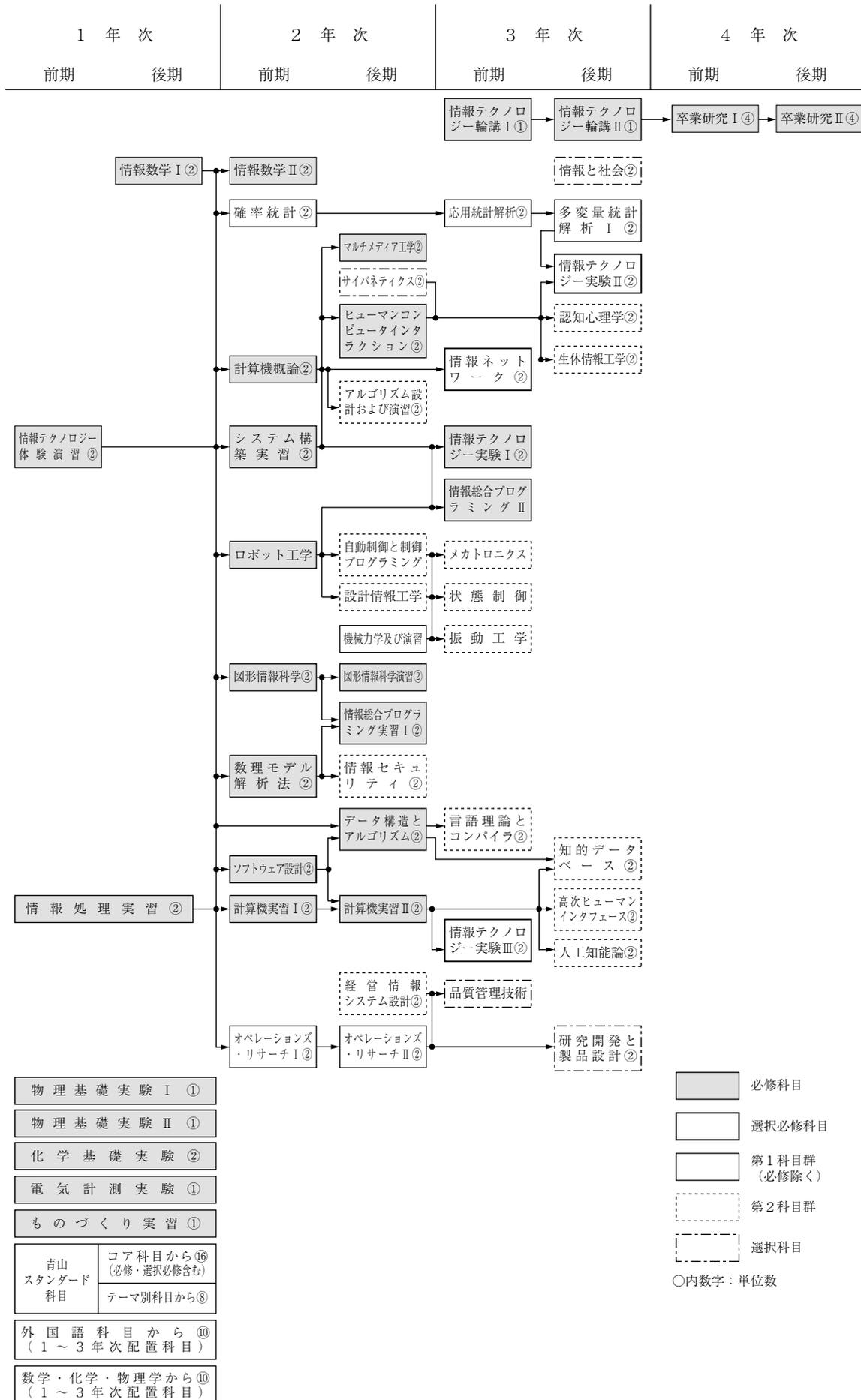
- (イ) 青山スタンダード科目
  - (ロ) 外国語科目
  - (ハ) 学科科目
  - (ニ) 他学科科目
  - (ホ) 他学部科目
- (卒業に必要な単位を超えて修得した単位は、自由選択科目に算入されます)

ただし、卒業要件外科目は除きます。他学科・他学部科目のうちには実験科目などの除外科目がありますので当該学科・学部の履修規定に従ってください。

注意：他キャンパス開講科目を履修する際には、キャンパス間の移動時間に注意してください(「Ⅲ. 履修について1. 履修計画」を参照)。

情報テクノロジー学科 (2014年度生) 履修ガイドライン

これはあくまでも履修の一例です。



## 他学部科目一覧表

### 他学部科目一覧表

#### 他学部科目の履修について

他学部科目のうち本学部学生が履修可能な科目の一覧表を以下に掲載します。  
履修については下記の点に注意してください。

1. 一覧表は他学部が本学部に対して履修可能としている科目を掲載しています。なお、「担当者氏名」及び「本年度休講」の掲載はしていませんので、講義内容および授業時間割表にて確認してください。履修希望科目が講義内容および授業時間割表に掲載されていない場合は本年度休講となっています。  
また、年度により一覧表の科目のうち履修を認めないなどの措置をとることがあります。
2. 履修可能な科目は同じ入学年度の科目のみ履修できます。掲載してある一覧表以前の入学生で他学部科目の履修を希望する学生は学務課窓口で相談してください。
3. 一覧表に掲載されている科目のうち、履修に制限がある場合は、開講学部の履修制限に従って履修してください。
4. 今後、各部の状況により変更が生じる場合がありますので、履修する際は自学部窓口にて確認をしてください。

#### 文学部共通科目

授 業 科 目	単位	履修年次	授 業 科 目	単位	履修年次	授 業 科 目	単位	履修年次
芸 術 文 化 論	4	2・3・4	文 化 財 科 学	4	2・3・4	日 本 の 思 想	4	2・3・4
東 洋 の 思 想	4	2・3・4	現 代 思 想	4	2・3・4	日 本 美 術 史	4	2・3・4
東 洋 美 術 史	4	2・3・4	西 洋 美 術 史	4	2・3・4	日 本 文 化 史	4	2・3・4
東 洋 文 化 史	4	2・3・4	西 洋 文 化 史	4	2・3・4	映 像 文 化 論 A	2	2・3・4
映 像 文 化 論 B	2	2・3・4	東 洋 音 楽 史	4	2・3・4	西 洋 音 楽 史	4	2・3・4
生 命 倫 理 学	4	2・3・4	詩 論	4	2・3・4	ギリシャ・ローマ文学	4	2・3・4
テ ク ス ト 論	4	2・3・4	物 語 文 学	4	2・3・4	キ リ ス ト 教 文 学	4	2・3・4
世界各 地 域 の 文 学 A	4	2・3・4	世界各 地 域 の 文 学 B	4	2・3・4	世界各 地 域 の 文 学 C	4	2・3・4
児 童 文 学	4	2・3・4	比 較 文 学	4	2・3・4	言 語 学 概 論	4	2・3・4
比 較 言 語 学	4	2・3・4	記 号 論	4	2・3・4	古 典 ギ リ シ ャ 語 I	4	2・3・4
古 典 ギ リ シ ャ 語 II	4	2・3・4	ラ テ ン 語 入 門	4	2・3・4	ラ テ ン 語 I	4	2・3・4
ラ テ ン 語 II	4	2・3・4	出 版 ジャ ー ナ リ ズ ム	4	2・3・4	放 送 ジャ ー ナ リ ズ ム	4	2・3・4
認 知 言 語 学	4	2・3・4	精 神 分 析 学 入 門	4	2・3・4	心 理 言 語 学	4	2・3・4
イ タ リ ア の 言 語 と 文 化 I	4	2・3・4	イ タ リ ア の 言 語 と 文 化 II	4	2・3・4	通 訳 ワ ー ク シ ョ ッ プ (1)	2	3・4
通 訳 ワ ー ク シ ョ ッ プ (2)	2	3・4						

## 文学部英米文学科

授 業 科 目	単位	履修年次	授 業 科 目	単位	履修年次	授 業 科 目	単位	履修年次
イギリス文学史	4	1・2	イギリス文学概論	4	1・2	イギリス文化概論	4	1・2
アメリカ文学史	4	1・2	アメリカ文学概論	4	1・2	アメリカ文化概論	4	1・2
グローバル文学・文化概論	4	1・2	グローバル文学理論	4	1・2	英語学概論	4	1・2
英語史	4	1・2	英文法	4	1・2	コミュニケーション概論	4	1・2
異文化間コミュニケーション概論	4	1・2	英語教育学概論	4	1・2	イギリス文学特講	4	3・4
イギリス文化特講	4	3・4	アメリカ文学特講	4	3・4	アメリカ文化特講	4	3・4
グローバル文学特講	4	3・4	グローバル文化特講	4	3・4	英語学特講	4	3・4
言語学特講	4	3・4	コミュニケーション特講	4	3・4	英語教育学特講	4	3・4
英詩概論	4	3・4	イギリス事情	4	3・4	アメリカ事情	4	3・4
英語聖書	4	3・4	メディアイングリッシュI	2	3・4			

## 文学部フランス文学科

授 業 科 目	単位	履修年次	授 業 科 目	単位	履修年次	授 業 科 目	単位	履修年次
※フランス語会話	4	1	フランス文学研究	4	3・4	フランス語学研究	4	3・4
フランス文化研究	4	3・4	購読演習	4	3・4	エクспリカシオン(A)	4	3・4
エクспリカシオン(B)	4	3・4	コミュニケーションI	4	3・4	コミュニケーションII	4	3・4
エクспレシオン・エクリットII	4	3・4	エクспレシオン・エクリットIII	4	3・4	フランス文学特講	4	2・3・4
フランス語学特講	4	2・3・4	フランス文化特講	4	2・3・4	フランス文学演習I	4	2・3
フランス文学演習II	4	3・4	フランス文化演習I	4	2・3	フランス文化演習II	4	3・4
フランス語学演習I	4	2・3	フランス語学演習II	4	3・4	フランス語教授法I	4	3・4
フランス語教授法II	4	3・4	フランス語作文	4	2・3・4	フランス語学概論	4	2・3・4
実務フランス語	4	3・4						

※：既修得者用クラスのみ履修可

## 他学部科目一覧表

### 文学部日本文学科

授 業 科 目	単位	履修年次	授 業 科 目	単位	履修年次	授 業 科 目	単位	履修年次
日 本 文 学 史(一)	2	1	日 本 文 学 史(二)	2	1	日 本 文 学 史(三)	2	2
日 本 文 学 史(四)	2	2	古典文学概論Ⅰ・Ⅱ	各2	1・2	近代文学概論Ⅰ・Ⅱ	各2	1・2
漢文学概論Ⅰ・Ⅱ	各2	1・2	日本語学概論Ⅰ・Ⅱ	各2	1・2	日本語史Ⅰ・Ⅱ	各2	1・2
表象文化研究概論Ⅰ・Ⅱ	各2	1・2	日 本 学 入 門	2	1・2	文 学 交 流 入 門	2	1・2
日本文学講読Ⅰ・Ⅱ	各2	1・2	中国古典文学講読Ⅰ・Ⅱ	各2	1・2	日本語学講読Ⅰ・Ⅱ	各2	1・2
表象文化論Ⅰ・Ⅱ	各2	2～4	日本文学特講Ⅰ・Ⅱ	各2	2～4	日本文学特講A・B	各2	1～4
中国古典文学特講Ⅰ・Ⅱ	各2	2～4	中国文学・思想特講Ⅰ・Ⅱ	各2	2～4	日本語学特講Ⅰ・Ⅱ	各2	2～4
文学交流特講A・B	各2	2～4	日本文学研究のための英語A・B	2	1・2	日本文学とアメリカ・ヨーロッパ	2	2～4
日本文学とアジア	2	2～4	書 理 論 Ⅰ ・ Ⅱ	各2	2～4			

### 文学部史学科

授 業 科 目	単位	履修年次	授 業 科 目	単位	履修年次	授 業 科 目	単位	履修年次
人 文 地 理 学 概 論	4	3・4	日 本 史 特 講	4	2・3・4	東 洋 史 特 講	4	2・3・4
西 洋 史 特 講	4	2・3・4	考 古 学 特 講	4	2・3・4	史 学 特 講 A	4	1・2・3・4
史 学 特 講 B	4	1・2・3・4	自 然 地 理 学 概 論	2	2・3・4	地 誌 学	2	2・3・4
法 律 学	2	2・3・4	政 治 学	2	2・3・4	※ 博 物 館 概 論	2	2・3のみ
※ 博 物 館 経 営 論	2	2・3のみ	※ 博 物 館 資 料 論	2	2・3のみ	※ 博 物 館 資 料 保 存 論	2	2・3・4
※ 博 物 館 展 示 論	2	2・3・4	※ 博 物 館 情 報 ・ メ デ ィ ア 論	2	2・3・4	※ 博 物 館 教 育 論	2	2・3・4
※ 博 物 館 実 習 Ⅰ	2	3のみ	※ 博 物 館 実 習 Ⅱ	2	4			

※学芸員希望者のみ

### 文学部比較芸術学科

他学部・他学科生は3年次以上の学生が履修可

授 業 科 目	単位	履修年次	授 業 科 目	単位	履修年次	授 業 科 目	単位	履修年次
比 較 芸 術 学 特 講 Ⅰ	2	3・4	比 較 芸 術 学 特 講 Ⅱ	2	3・4	比 較 芸 術 学 特 講 Ⅲ	2	3・4
美 学 ・ 芸 術 思 想	4	3・4	西 洋 の 宗 教 と 芸 術	4	3・4	日 本 ・ 東 洋 の 宗 教 と 芸 術	4	3・4
伝 統 デ ザ イン 論	4	3・4						

## 教育人間科学部教育学科

授 業 科 目	単位	履修年次	授 業 科 目	単位	履修年次	授 業 科 目	単位	履修年次
西 洋 教 育 史 I	2	3・4	西 洋 教 育 史 II	2	3・4	西 洋 教 育 史 III	2	3・4
教 育 史 特 殊 講 義	2	3・4	発 達 と 文 化 A	2	3・4	発 達 と 文 化 B	2	3・4
教 育 哲 学 A	2	3・4	教 育 哲 学 B	2	3・4	教 育 学 特 論 A	2	3・4
教 育 学 特 論 B	2	3・4	キ ャ リ ア 教 育 B	2	3・4	比 較 教 育 学	2	3・4
異 文 化 理 解 教 育	2	3・4	老 年 学	2	3・4	教 育 学 特 論 C	2	3・4
教 育 学 特 論 D	2	3・4	臨 床 心 理 学 概 論 I	2	2	臨 床 心 理 学 概 論 II	2	2
小 児 精 神 神 経 学	2	3・4	相 談 心 理 学 I	2	3・4	相 談 心 理 学 II	2	3・4
特 別 支 援 教 育	2	3・4	障 害 児 ・ 者 の 心 理 II	2	3・4	障 害 児 ・ 者 の 教 育	2	3・4
障 害 児 ・ 者 の 福 祉	2	3・4	障 害 児 ・ 者 の 医 学	2	3・4	教 育 学 特 論 E	2	3・4
教 育 学 特 論 F	2	3・4	生 涯 学 習 概 論 I	2	2	生 涯 学 習 概 論 II	2	2
高 等 教 育 論 A	2	3・4	高 等 教 育 論 B	2	3・4	社 会 教 育 計 画 I	2	3・4
社 会 教 育 計 画 II	2	3・4	社 会 教 育 課 題 研 究	4	3・4	高 齢 化 社 会 と 教 育	2	3・4
青 年 期 と 教 育	2	3・4	ジ ェ ン ダ ー と 教 育	2	3・4	青 年 文 化 論	2	3・4
ボ ラ ン テ ィ ア 教 育 論	2	3・4	地 域 ネット ワ ー キ ン グ 論	2	3・4	ス ポ ー ツ ・ レ ク リ ー シ ョ ン 論	2	3・4
教 育 学 特 論 G	2	3・4	教 育 学 特 論 H	2	3・4	認 知 科 学 概 論	2	3・4
学 校 経 営 と 学 校 図 書 館	2	2	視 聴 覚 教 育 メ デ ィ ア 論	2	3・4	イ ン タ ー フ ェ ー ス 論	2	3・4
知 的 表 現 論	2	3・4	教 材 開 発 論	2	3・4	学 校 指 導 と 学 校 図 書 館	2	3・4
学 校 図 書 館 メ デ ィ ア	2	3・4	情 報 メ デ ィ ア 利 用 論	2	3・4	読 書 教 育 論	2	3・4
学 習 心 理 学 I	2	3・4	学 習 心 理 学 II	2	3・4	社 会 心 理 学 I	2	3・4
社 会 心 理 学 II	2	3・4	教 育 学 特 論 I	2	3・4	教 育 学 特 論 J	2	3・4
図 書 館 情 報 学 概 論	2	2	図 書 館 シ ス テ ム サ ー ビ ス 論	2	2	図 書 館 情 報 文 化 論	2	2
図 書 館 シ ス テ ム 経 営 論	2	3・4	情 報 メ デ ィ ア 論 A	2	2	情 報 メ デ ィ ア 論 B	2	3・4
情 報 メ デ ィ ア 論 C	2	3・4	児 童 サ ー ビ ス 論	2	3・4	メ デ ィ ア 組 織 法 I	2	3・4
メ デ ィ ア 組 織 法 II	2	3・4	メ デ ィ ア 組 織 法 III	2	3・4	情 報 サ ー ビ ス 論 I	2	3・4
情 報 サ ー ビ ス 論 II	2	3・4	情 報 サ ー ビ ス 論 III	2	3・4	情 報 技 術 論	2	2・3・4
図 書 館 情 報 学 実 習	2	4	教 育 学 特 論 K	2	3・4	教 育 学 特 論 L	2	3・4
幼 児 教 育 原 理 B	2	1・2	児 童 福 祉 論	2	3・4	小 児 保 健 論	2	1・2
教 育 学 特 論 M	2	3・4	教 育 学 特 論 N	2	3・4	小 児 栄 養 学	2	3・4
教 育 学 特 論 O	2	3・4	教 育 学 特 論 P	2	3・4	学 校 心 理 学	2	3・4
教 育 学 特 論 Q	2	3・4	教 育 学 特 論 R	2	3・4	初 等 英 語 概 説 A	2	3・4
初 等 英 語 概 説 B	2	3・4	教 育 学 特 論 S	2	3・4	教 育 学 特 論 T	2	3・4
キ リ ス ト 教 学 校 論	2	3・4	聖 書 の 世 界 (旧 約)	2	3・4	聖 書 の 世 界 (新 約)	2	3・4
キ リ ス ト 教 の 教 理	2	3・4	キ リ ス ト 教 と 法 思 想	2	3・4	宗 教 と 社 会	2	3・4
礼 拝 学	2	3・4	キ リ ス ト 教 メ ン タ ル ヘ ル ス	2	3・4			

# 他学部科目一覧表

## 教育人間科学部心理学科

授 業 科 目	単位	履修年次	授 業 科 目	単位	履修年次	授 業 科 目	単位	履修年次
心 理 統 計 実 習	2	3・4	哲 学 的 認 識 論	4	3・4	心 の 哲 学	4	3・4
心 理 学 史	2	3・4	学 習 心 理 学	4	3・4	発 達 心 理 学	4	1・2
生 涯 発 達 心 理 学 I	2	2	生 涯 発 達 心 理 学 II	2	2	生 涯 発 達 論	2	3・4
知 覚 心 理 学	2	2	音 楽 心 理 学	2	3・4	感 情 心 理 学	2	3・4
神 経 心 理 学	2	3・4	人 格 心 理 学	4	3・4	犯 罪 心 理 学	4	3・4
社 会 心 理 学	4	3・4	社 会 心 理 学 I	2	3・4	社 会 心 理 学 II	2	3・4
産 業 心 理 学	2	3・4	広 告 心 理 学	2	3・4	ノンバーバル・コミュニケーションI	2	3・4
ノンバーバル・コミュニケーションII	2	3・4	応 用 社 会 心 理 学 特 講 I	2	3・4	応 用 社 会 心 理 学 特 講 II	2	3・4
応 用 社 会 心 理 学 特 講 III	2	3・4	応 用 社 会 心 理 学 特 講 IV	2	3・4	応 用 社 会 心 理 学 特 講 V	2	3・4
応 用 社 会 心 理 学 特 講 VI	2	3・4	心 理 学 特 講 A	2	3・4	学 校 心 理 学	2	3・4
臨 床 心 理 学	4	2	臨 床 心 理 学 I	2	3・4	臨 床 心 理 学 II	2	3・4
臨 床 心 理 学 特 講	4	3・4	精 神 分 析 学	2	3・4	精 神 医 学	4	3・4
音 楽 療 法	2	3・4	相 談 心 理 学	4	3・4	家 族 心 理 学	2	3・4
健 康 心 理 学	2	3・4	コ ミ ュ ニ テ ィ 心 理 学	2	3・4	障 害 児 ・ 者 の 心 理 II	2	3・4
障 害 児 ・ 者 の 教 育	2	3・4	障 害 児 ・ 者 の 福 祉	2	3・4	障 害 児 ・ 者 の 医 学	2	3・4
心 理 面 接 法	4	3・4	心 理 療 法 実 習 A	2	3・4	応 用 行 動 分 析	2	3・4
身 体 医 学	2	3・4	心 身 医 学	2	3・4	薬 理 学	2	3・4
脳 生 理 学	2	3・4	精 神 衛 生	2	3・4	母 子 保 健	2	3・4
成 人 ・ 高 齢 者 保 健	2	3・4	精 神 保 健 福 祉	2	3・4	保 健 ・ 医 療 ・ 福 祉 ・ 制 度 論	2	3・4
社 会 保 障 制 度 と 関 連 法 規	2	3・4	心 理 学 原 書 講 読 A	2	3・4	心 理 学 原 書 講 読 B	2	3・4

## 経済学部

## 経済学科

授 業 科 目	単 位	履 修 年 次	授 業 科 目	単 位	履 修 年 次	授 業 科 目	単 位	履 修 年 次
統 計 学 概 論 I	2	1	統 計 学 概 論 II	2	1	経 済 数 学 入 門 I	2	1
経 済 数 学 入 門 II	2	1	金 融 論 I	2	2	金 融 論 II	2	2
国 際 経 済 学 I	2	2	国 際 経 済 学 II	2	2	経 済 学 史 I	2	2
経 済 学 史 II	2	2	応 用 ミ ク ロ 経 済 学 I	2	3	応 用 ミ ク ロ 経 済 学 II	2	3
経 済 動 学 I	2	2	経 済 動 学 II	2	2	オ ー プ ン マ ク ロ 経 済 学 I	2	3
オ ー プ ン マ ク ロ 経 済 学 II	2	3	計 量 経 済 学 I	2	2	計 量 経 済 学 II	2	2
経 済 統 計 I	2	3	経 済 統 計 II	2	3	数 理 統 計 I	2	2
数 理 統 計 II	2	2	経 済 数 学 I	2	2	経 済 数 学 II	2	2
社 会 政 策 論 I	2	3	社 会 政 策 論 II	2	3	公 共 経 済 学 I	2	3
公 共 経 済 学 II	2	3	社 会 保 障 論 I	2	3	社 会 保 障 論 II	2	3
産 業 論 ( 航 空 事 業 I )	2	3	産 業 論 ( 航 空 事 業 II )	2	3	産 業 論 ( 損 害 保 険 業 )	2	3
産 業 論 ( 証 券 ビ ジ ネ ス )	2	3	産 業 論 ( 知 的 エ ン タ テ イ メ ン ト 産 業 I )	2	3	産 業 論 ( 知 的 エ ン タ テ イ メ ン ト 産 業 II )	2	3
労 働 経 済 論 I	2	3	労 働 経 済 論 II	2	3	産 業 組 織 論 I	2	3
産 業 組 織 論 II	2	3	フ ァ イ ナ ン ス 論 基 礎	2	2	フ ァ イ ナ ン ス 論	2	2
国 際 金 融 論 I	2	3	国 際 金 融 論 II	2	3	日 本 経 済 史 I	2	2
日 本 経 済 史 II	2	2	欧 米 経 済 史 I	2	2	欧 米 経 済 史 II	2	2
東 洋 経 済 史 I	2	2	東 洋 経 済 史 II	2	2	経 済 思 想 史 I	2	3
経 済 思 想 史 II	2	3	キ リ ス ト 教 社 会 思 想 史 I	2	2	キ リ ス ト 教 社 会 思 想 史 II	2	2
日 本 経 済 論 I	2	2	日 本 経 済 論 II	2	2	世 界 経 済 論 I	2	3
世 界 経 済 論 II	2	3	各 国 経 済 論 A I	2	2	各 国 経 済 論 A II	2	2
各 国 経 済 論 B I	2	2	各 国 経 済 論 B II	2	2	交 通 経 済 学 I	2	3
交 通 経 済 学 II	2	3	農 業 経 済 論 I	2	3	農 業 経 済 論 II	2	3
環 境 経 済 学 I	2	3	環 境 経 済 学 II	2	3	憲 法 A	2	2
憲 法 B	2	2	民 法 A	2	3	民 法 B	2	3
民 法 C	2	3	民 法 D	2	3	商 法 A ( I )	2	3
商 法 A ( II )	2	3	商 法 B	2	3	商 法 C	2	3
経 済 法 A	2	3	経 済 法 B	2	3	労 働 法 A	2	3
労 働 法 B	2	3	初 級 簿 記 I	2	1	初 級 簿 記 II	2	1
経 営 史 I	2	3	経 営 史 II	2	3			

# 他学部科目一覧表

## 現代経済デザイン学科

授 業 科 目	単位	履修年次	授 業 科 目	単位	履修年次	授 業 科 目	単位	履修年次
公的規制の経済学	2	3	N P O 論 A	2	3	契 約 の 経 済 学	2	3
公共政策の経済学	2	3	公 共 選 択 論	2	3	N P O 論 B	2	3
政策と評価 A	2	3	法 と 経 済 学	2	3	都 市 再 生 論	2	3
まちづくりと都市計画	2	3	住 宅 と 不 動 産 の 経 済 学	2	3	郊 外 地 域 論	2	3
地 域 人 口 論	2	3	経 済 地 理	2	2	経 済 地 誌	2	2
地方財政の経済学 I	2	3	地 方 財 政 の 経 済 学 II	2	3	開 発 経 済 学	2	3
政策と評価 B	2	3	地 域 経 済 学 II	2	3	都 市 経 済 学	2	3

## 法学部

授 業 科 目	単位	履修年次	授 業 科 目	単位	履修年次	授 業 科 目	単位	履修年次
裁 判 論	2	1・2	国 際 社 会 と 法	2	1・2	イ ン タ ー ネ ッ ト 法	2	1・2
法 思 想 史 A	2	1・2	法 思 想 史 B	2	1・2	近 代 日 本 法 史	2	1・2
近 代 西 洋 法 史	2	1・2	法 史 学 A	2	2	法 史 学 B	2	2
法 哲 学 A	2	2	法 哲 学 B	2	2	法 社 会 学 A	2	2
法 社 会 学 B	2	2	基 礎 法 特 論 A	2	3・4	基 礎 法 特 論 B	2	3・4
外 国 法 入 門 A	2	1・2	外 国 法 入 門 B	2	1・2	ア メ リ カ 法 A	2	2
ア メ リ カ 法 B	2	2	ア メ リ カ 法 C	2	2	ア メ リ カ 法 D	2	2
ア メ リ カ 法 E	2	2	イ ギ リ ス 法 A	2	2	イ ギ リ ス 法 B	2	2
フ ラ ン ス 法 A	2	2	フ ラ ン ス 法 B	2	2	ド イ ツ 法 A	2	2
ド イ ツ 法 B	2	2	中 国 法 A	2	2	中 国 法 B	2	2
E U 法	2	3・4	フ ラ ン ス 法 ・ 政 治 文 献 講 読	2	3・4	ド イ ツ 法 ・ 政 治 文 献 講 読	2	3・4
中 国 法 ・ 政 治 文 献 講 読	2	3・4	憲 法 A	2	1	憲 法 B	2	1
憲 法 C	2	2	憲 法 D	2	2	行 政 法 A	4	2
行 政 法 B	4	2	行 政 法 C	2	3・4	刑 法 A	2	2
刑 法 B	2	2	刑 法 C	2	3・4	刑 法 D	2	3・4
国 際 法 A	2	2	国 際 法 B	2	2	国 際 法 C	2	3・4
国 際 法 D	2	3・4	刑 事 訴 訟 法 A	2	3・4	刑 事 訴 訟 法 B	2	3・4
刑 事 政 策 A	2	3・4	刑 事 政 策 B	2	3・4	刑 事 法 特 論 B	2	3・4
教 育 法	2	3・4	民 法 A	4	1	民 法 B	4	2
民 法 C	4	2	民 法 D	4	3・4	民 法 E	4	3・4
商 法 C	4	3・4	商 法 D	4	3・4	商 法 E	4	3・4
民 事 訴 訟 法 A	4	3・4	民 事 訴 訟 法 B	4	3・4	国 際 民 事 訴 訟 法	2	3・4
国 際 私 法 A	2	3・4	国 際 私 法 B	2	3・4	破 産 法 A	2	3・4
破 産 法 B	2	3・4	知 的 財 産 法 A	2	3・4	知 的 財 産 法 B	2	3・4
知 的 財 産 法 C	2	3・4	知 的 財 産 法 D	2	3・4	民 事 法 特 論 A	2	3・4
民 事 法 特 論 B	2	3・4	民 事 法 特 論 C	2	3・4	税 法 A	2	2
税 法 B	2	3・4	税 法 C	2	3・4	経 済 法 A	2	3・4
経 済 法 B	2	3・4	労 働 法 A	2	2	労 働 法 B	2	2
労 働 法 C	2	3・4	労 働 法 D	2	3・4	労 働 法 E	2	3・4
国 際 労 働 法	2	3・4	社 会 保 障 法 A	2	3・4	社 会 保 障 法 B	2	3・4
政 治 学 原 論 A	2	1・2	政 治 学 原 論 B	2	1・2	日 本 政 治 史 A	2	1・2
日 本 政 治 史 B	2	1・2	政 治 思 想 史 A	2	2	政 治 思 想 史 B	2	2
比 較 政 治 学	4	2	国 際 関 係 論	4	2	政 治 学 特 論 A	2	2
政 治 学 特 論 B	2	2	N P O 論	2	3・4	ビ ジ ネ ス 法 入 門	2	1・2
消 費 者 法	2	2	銀 行 取 引 法	2	2	金 融 商 品 取 引 法	2	3・4
企 業 法 務	2	3・4	国 際 取 引 法 A	2	3・4	国 際 取 引 法 B	2	3・4
商 事 法 特 論 A	2	2	商 事 法 特 論 C	2	3・4	国 際 金 融 法	2	3・4
ファイナンスとデリバティブ	2	3・4	公 共 政 策 と 法	2	1・2	立 法 学	2	2
行 政 学 A	2	2	行 政 学 B	2	2	公 共 政 策 特 論 A	2	2
公 共 政 策 特 論 B	2	2	地 方 自 治 法	2	3・4	都 市 法	2	3・4
政 治 過 程 論 A	2	3・4	政 治 過 程 論 B	2	3・4	現 代 法 実 務 論	2	2
ヒューマン・ライツの現場B	2	1・2	環 境 法 A	2	2	環 境 法 B	2	2
人 権 法 特 論 A	2	2	人 権 法 特 論 B	2	2	人 権 法 特 論 C	2	3・4
言 論 法 A	2	3・4	言 論 法 B	2	3・4	国 際 人 権 法	2	3・4

## 経営学部

授 業 科 目	単位	履修年次	授 業 科 目	単位	履修年次	授 業 科 目	単位	履修年次
経営データ分析のための基礎解析入門Ⅰ	2	1	経営データ分析のための基礎解析入門Ⅱ	2	1	経営データ分析のための線形代数入門Ⅰ	2	1
経営データ分析のための線形代数入門Ⅱ	2	1	商学基礎論Ⅰ	2	1	商学基礎論Ⅱ	2	1
経営史 A	2	2	経営史 B	2	2	経営管理論Ⅰ	2	2
経営管理論Ⅱ	2	2	経営組織論Ⅰ	2	2	経営組織論Ⅱ	2	2
企業情報戦略Ⅰ	2	2	企業情報戦略Ⅱ	2	2	財務管理論 A	2	2
財務管理論 B	2	2	事業戦略論Ⅰ	2	2	事業戦略論Ⅱ	2	2
企業分析論	2	2	財務会計論Ⅰ	2	2	財務会計論Ⅱ	2	2
中級簿記Ⅰ	2	2	中級簿記Ⅱ	2	2	原価計算論	2	2
マーケティング論Ⅰ	2	2	マーケティング論Ⅱ	2	2	ファイナンスⅠ	2	2
ファイナンスⅡ	2	2	流通論Ⅰ	2	2	流通論Ⅱ	2	2
国際貿易論Ⅰ	2	2	国際貿易論Ⅱ	2	2	国際ビジネス環境論 A	2	2
国際ビジネス環境論 B	2	2	Globalization and Emerging Countries A	2	2	Globalization and Emerging Countries B	2	2
多角的貿易体制概論 A	2	3	多角的貿易体制概論 B	2	3	ベンチャー企業経営論	2	3
サプライチェーンと意思決定法 A	2	2	サプライチェーンと意思決定法 B	2	2	グローバル製品戦略Ⅰ	2	2
グローバル製品戦略Ⅱ	2	2	証券投資論Ⅰ	2	2	証券投資論Ⅱ	2	2
意思決定会計論	2	2	国際会計論Ⅰ	2	2	国際会計論Ⅱ	2	2
制度会計論 A	2	2	制度会計論 B	2	2	戦略管理会計Ⅰ	2	2
戦略管理会計Ⅱ	2	2	予算管理論	2	2	企業法務Ⅰ	2	3
企業法務Ⅱ	2	3	コーポレート・ファイナンスⅠ	2	3	コーポレート・ファイナンスⅡ	2	3
リスク・マネジメント論Ⅰ	2	3	リスク・マネジメント論Ⅱ	2	3	交通論Ⅰ	2	3
交通論Ⅱ	2	3	Effective Negotiation	2	3	Written Agreements	2	3
Effective Speech	2	3	Academic Presentation	2	3	キャリア開発 V	2	3
アメリカ文化論Ⅰ	2	3	アメリカ文化論Ⅱ	2	3	イギリス文化論Ⅰ	2	3
イギリス文化論Ⅱ	2	3	ユダヤ文化とビジネスⅠ	2	3	ユダヤ文化とビジネスⅡ	2	3
英語圏社会・文化研究Ⅰ	2	3	英語圏社会・文化研究Ⅱ	2	3	世界の言語文化Ⅰ	2	3
世界の言語文化Ⅱ	2	3	現代韓国社会事情Ⅰ	2	3	現代韓国社会事情Ⅱ	2	3
Market and Vusiness Environment	2	3	国際マーケティング	2	3	国際経営論Ⅰ	2	3
国際経営論Ⅱ	2	3	サプライチェーン・マネジメント A	2	3	サプライチェーン・マネジメント B	2	3
経営戦略論Ⅰ	2	3	経営戦略論Ⅱ	2	3	経営データ分析応用Ⅰ	2	3
経営データ分析応用Ⅱ	2	3	事業創造戦略論	2	3	顧客創造戦略論	2	3
人材育成論Ⅰ	2	3	人材育成論Ⅱ	2	3	人的資源管理論Ⅰ	2	3
人的資源管理論Ⅱ	2	3	組織心理学Ⅰ	2	3	組織心理学Ⅱ	2	3
マネジメントサイエンスⅠ	2	3	マネジメントサイエンスⅡ	2	3	人間行動の多面的分析 A	2	3
人間行動の多面的分析 B	2	3	戦略・マネジメント特論 A	2	3	戦略・マネジメント特論 B	2	3
コストマネジメント	2	3	財務コンサルティング論Ⅰ	2	3	財務コンサルティング論Ⅱ	2	3
会計情報論Ⅰ	2	3	会計情報論Ⅱ	2	3	会計・ファイナンス特論 A	2	3
会計・ファイナンス特論 B	2	3	企業評価論Ⅰ	2	3	企業評価論Ⅱ	2	3
実証会計論Ⅰ	2	3	実証会計論Ⅱ	2	3	財務分析論Ⅰ	2	3
財務分析論Ⅱ	2	3	監査論Ⅰ	2	3	監査論Ⅱ	2	3
税務会計論Ⅰ	2	3	税務会計論Ⅱ	2	3	競争戦略論Ⅰ	2	3
競争戦略論Ⅱ	2	3	産業労働衛生論	2	3	ヘルスケア経営論	2	3
流通情報システム論 A	2	3	流通情報システム論 B	2	3	マーケティング特論 A	2	3
マーケティング特論 B	2	3	マーケティング特論 C	2	3	マーケティング特論 D	2	3
マーケティング特論 E	2	3	マーケティング特論 F	2	3	広告コミュニケーション	2	3
マーケティング・コミュニケーション	2	3	サービスマーケティング	2	3	ソーシャルマーケティング	2	3
関係性マーケティング	2	3	ブランド・マネジメント	2	3	消費者行動論	2	3
マーケティング・リサーチ	2	3	マクロ・マーケティング A	2	3	Macromarketing B	2	3
流通政策 A	2	3	流通政策 B	2	3	経済原論Ⅰ	2	2
経済原論Ⅱ	2	2	民法 A	2	3	民法 B	2	3
民法 C	2	3	民法 D	2	3	商法 A(I)	2	3
商法 A(II)	2	3	商法 B	2	3	商法 C	2	3
経済法 A	2	3	経済法 B	2	3	労働法 A	2	3
労働法 B	2	3	国際法 A	2	3	国際法 B	2	3

## 他学部科目一覧表

### 国際政治経済学部

国際政治経済学部は、学科科目B群科目の履修を他学部の学生に認めています。ただし、以下の一覧に掲載する科目については、履修を認めていません。

#### 【国際政治経済学部生以外の学部生に履修を許可しない科目の一覧】

授 業 科 目	授 業 科 目	授 業 科 目
国際政治学特殊講義Ⅲ	国際経済学特殊講義Ⅲ	外国書（フランス語）講読Ⅰ・Ⅱ
外国書（ドイツ語）講読Ⅰ・Ⅱ	外国書（スペイン語）講読Ⅰ・Ⅱ	外国書（中国語）講読Ⅰ・Ⅱ
外国書（ロシア語）講読Ⅰ・Ⅱ	インターンシップ	海外ボランティア実習
演習ⅠA・ⅠB・Ⅱ	通訳の理論と実践Ⅰ・Ⅱ	翻訳の理論と実践Ⅰ・Ⅱ
実戦・通訳コミュニケーションⅠ・Ⅱ	国際ビジネス・コミュニケーション(Ⅰ)・(Ⅱ)	アンケート・社会調査の方法
言語の普遍性	情報と組織の経済学Ⅰ	日本経済と証券ビジネス
金融Ⅰ・Ⅱ	民法概論Ⅰ・Ⅱ	国際私法Ⅰ・Ⅱ
財政論Ⅰ・Ⅱ	簿記論ⅠA・ⅠB	簿記論ⅡA・ⅡB
広告コミュニケーション論	国際取引法	インターネットと法*
紛争解決と法	Intercultural Communication	Intercultural LiteracyⅠ
国際コミュニケーション特殊講義（海外研修）	異文化コミュニケーション特殊講義Ⅰ・Ⅱ	国連研究Ⅱ
コンピュータによる調査データの解析	コミュニケーション研究法の全体像	イギリス文化論
文化とコミュニケーションⅠ・Ⅱ	経営情報Ⅰ・Ⅱ	パブリック・リレーションズ
Global StudiesⅠ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ・Ⅵ		
その他、所属学部・学科に同一名称・異名称同一科目がある国際政治経済学部の科目		

## 総合文化政策学部

授 業 科 目	単 位	履 修 年 次	授 業 科 目	単 位	履 修 年 次	授 業 科 目	単 位	履 修 年 次
経 済 分 析 (ミ ク ロ)	2	3・4	経 済 分 析 (マ ク ロ)	2	3・4	公 共 社 会 論	2	3・4
金 融 概 論	2	3・4	行 政 学 概 論	2	3・4	国 際 関 係	2	3・4
公 共 政 策 論	2	3・4	憲 法 概 論	2	3・4	民 法 概 論	2	3・4
行 政 法 概 論	2	3・4	著 作 権 法	2	3・4	国 際 政 治 学 概 論	2	3・4
経 済 発 展 論	2	3・4	国 際 平 和 論	2	3・4	経 済 政 策 概 論	2	3・4
公 共 経 済 学 概 論	2	3・4	文 化 経 済 学	2	3・4	文 化 行 政 法	2	3・4
文 化 産 業 概 論	2	3・4	観 光 産 業 論	2	3・4	消 費 経 済 論	2	3・4
日 本 経 済 概 論	2	3・4	社 会 福 祉 論	2	3・4	キ リ ス ト 教 福 祉 論	2	3・4
マ ー ケ ティ ン グ 概 論	2	3・4	会 計 学	2	3・4	サ ー ビ ス マ ー ケ ティ ン グ 概 論	2	3・4
消 費 文 化 論	2	3・4	経 営 戦 略 概 論	2	3・4	組 織 論 入 門	2	3・4
人 的 資 源 管 理 概 論	2	3・4	経 営 情 報 論	2	3・4	管 理 会 計 概 論	2	3・4
経 営 分 析 論	2	3・4	非 営 利 会 計 論	2	3・4	プ ロ ジ ェ ク ト マ ネ ジ メ ン ト 論	2	3・4
ビ ジ ネ ス プ ロ セ ス マ ネ ジ メ ン ト 論	2	3・4	プ ロ ジ ェ ク ト フ ァ イ ナ ン ス	2	3・4	マ ー ケ ティ ン グ 戦 略 論	2	3・4
ブ ラ ン ド 戦 略 論	2	3・4	公 共 経 営 論	2	3・4	文 化 財 保 護 法	2	3・4
プ ロ ジ ェ ク ト プ ロ デ ュ ー ス 論	2	3・4	世 界 経 済 概 論	2	3・4	社 会 調 査 論 I	2	3・4
社 会 調 査 論 II	2	3・4	統 計 学	2	3・4	社 会 調 査 法 I	2	3・4
社 会 調 査 法 II	2	3・4	社 会 統 計 学	2	3・4	社 会 調 査 実 習	4	3・4
文 化 人 類 学 概 論	2	3・4	日 本 文 化 の 歴 史	2	3・4	異 文 化 間 コ ミ ュ ニ ケ ー シ ョ ン 論	2	3・4
表 象 文 化 概 論	2	3・4	社 会 分 析 学	2	3・4	宗 教 史	2	3・4
経 済 史 (1)	2	3・4	経 済 史 (2)	2	3・4	社 会 思 想 史	2	3・4
経 済 と 文 明	2	3・4	比 較 文 明 論	2	3・4	地 域 文 化 論 (1)	2	3・4
地 域 文 化 論 (2)	2	3・4	地 域 文 化 論 (3)	2	3・4	地 域 文 化 論 (4)	2	3・4
宗 教 文 化 概 論	2	3・4	宗 教 社 会 学	2	3・4	比 較 宗 教 論	2	3・4
ネ ッ ト ワ ー ク 社 会 と 文 化	2	3・4	文 化 遺 産 論	2	3・4	経 営 文 化 論	2	3・4
文 化 と 精 神 分 析	2	3・4	現 代 経 済 史	2	3・4	現 代 日 本 文 化 論	2	3・4
近 代 哲 学 史	2	3・4	論 理 学	2	3・4	公 共 哲 学 概 論	2	3・4
認 識 論	2	3・4	存 在 論	2	3・4	倫 理 学 入 門	2	3・4
象 徴 記 号 論	2	3・4	情 報 環 境 論 (1)	2	3・4	情 報 環 境 論 (2)	2	3・4
メ デ ィ ア リ テ ラ シ ー	2	3・4	宗 教 哲 学	2	3・4	社 会 倫 理	2	3・4
日 本 思 想 史 概 論	2	3・4	現 代 哲 学	2	3・4	現 代 思 潮	2	3・4
現 代 の 神 学	2	3・4	認 知 哲 学	2	3・4	環 境 美 学	2	3・4
芸 術 哲 学	2	3・4	情 報 工 学	2	3・4			

## 他学部科目一覧表

### 社会情報学部

授 業 科 目	単 位	履 修 年 次	授 業 科 目	単 位	履 修 年 次	授 業 科 目	単 位	履 修 年 次
情 報 化 社 会 と 法	2	2・3・4	デ リ バ テ イ プ ズ	2	2・3・4	経 済 解 析	2	2・3・4
現 代 の 世 界 と 日 本	2	2・3・4	グ ロー バ ル ビ ジ ネ ス	2	3・4	情 報 倫 理	2	2・3・4
文 化 心 理 学	2	2・3・4	合 理 的 思 考 と 社 会 行 動	2	2・3・4	広 報 論	2	2・3・4
情 報 政 策	2	2・3・4	社 会 資 格 講 義	2	3・4			

機械創造工学科、経営システム工学科、情報テクノロジー学科の学生は「情報化社会と法」と「グローバルビジネス」以外の科目は履修不可

## V. 授業について

### 1. 授業

#### 授業時間

授業時間は次のとおりです。

第1時限	9:00~10:30
礼 拜	10:30~11:00
第2時限	11:00~12:30
昼休み	12:30~13:20
第3時限	13:20~14:50
第4時限	15:05~16:35
第5時限	16:50~18:20
第6時限	18:30~20:00
第7時限	20:10~21:40

夕礼拝（火曜日のみ）

18:00~18:30

授業は原則5時限で実施します。しかし、科目配置の都合により6時限目以降にも配置することがあります。

また、特別な行事のときに授業時間が変更となることがあります。その場合は「学生ポータル」で伝達します。

#### 授業教室

授業教室については、別冊子『授業時間割表』に掲載されています。授業教室が変更になる場合は、随時「学生ポータル」で伝達しますので、毎日必ず確認してください。

#### 休 講

授業が休講になる場合は、「学生ポータル」で伝達します。

休講情報がなく、授業開始から30分以上経過しても担当教員が来ず、連絡もない場合は、所属キャンパスの教務窓口（巻末参照）に問い合わせ、指示を受けてください（学生共通細則第7条参照）。

#### 補 講

休講となった授業に対し、補講を行う場合があります。補講日は、前期・後期とも、定期試験開始前にそれぞれ数日間設けられています。日程については、学事暦を参照してください。詳細は「学生ポータル」で伝達しますので、必ず確認してください。また、補講期間以外にも補講を行う場合もあります。担当者が直接教室で発表するか、または「学生ポータル」で発表しますので、随時確認してください。

#### 授業の欠席について

本学では、特定の理由による欠席を認める「公欠制度」は設けておりません。ケガ・病気・忌引きなどで授業を欠席した場合は、次回の授業時に直接担当教員に申し出て、指示を受けてください。なお、長期にわたる欠席の場合は、所属キャンパスの教務窓口（巻末参照）に相談してください。

### 2. 大学からの伝達

本学では、大学から学生のみなさんへの通知や連絡は、主に「学生ポータル」と「掲示板」によって行います。

「学生ポータル」を学内で利用する場合は学生証が必要ですので、必ず携帯してください。また、利用方法については、冊子『学生ポータル利用案内』を参照してください。

「掲示板」の設置場所については次のとおりです。

青山キャンパス	8号館と9号館の間（1階）
相模原キャンパス	E棟とF棟の間（外階段下通路内）

「学生ポータル」「掲示板」では、授業・試験など学生生活に直接関係のある事項が随時伝達されています。情報を確認しなかったことにより、後になって不利益を被ることのないよう、十分注意してください。また、電話による問い合わせには一切応じられませんので、質問などがある場合は直接窓口に来室してください。

### 3. 緊急時の 「授業の取り扱い」 および「伝達手段」 について

事故、災害などにより通常利用している交通機関の運行が停止した場合の授業の取扱いは次のとおりとします。

#### 1. 通常利用している交通機関運休時における対応

- (1) 代替交通機関を利用して登校が可能と判断できた場合には、危険な状況でない限り、極力、登校するよう努めてください。
- (2) 代替交通機関の利用ができず登校できなかった場合には、所属キャンパスの教務窓口（巻末参照）に用意されている「交通機関不通による授業欠席届」に、交通機関などが発行した遅延証明書、事故証明書などを添えて授業担当者に提出して欠席分の学習補填の指示を受けてください。

#### 2. 台風の接近時などの対応

台風の接近などによる被害が予想される場合には、休講などの特別措置がとられることがあります。

#### 3. 大規模地震の発生が予想されるときへの対応

- (1) 大規模地震対策特別措置法による「地震防災対策強化地域判定会」の招集が報道された時点で休校措置がとられます。
- (2) 警戒宣言が解除され、または「判定会」が解散されたときは、休校を解き、平常授業に戻ります。

#### 緊急時の情報提供

テレドーム 0180-993171（青山学院大学用番号）

Web <http://www.aoyama.ac.jp>

（緊急の情報がない場合、テレドームは呼び出し音のみになります）

ただしこのサービスについては、利用可能な電話と、利用できない電話があります。

#### 利用可能な電話

- ① 一般電話
- ② 携帯電話…NTT docomo、au、SoftBank

#### 利用できない電話

携帯電話…NTT docomo を除くプリペイド式携帯、PHS、  
列車公衆電話、「050」から始まる IP 電話、NTT の「ひかり電話」、  
一部のケーブルテレビ電話、海外からの国際電話

緊急時には、原則として「学生ポータル」では情報提供されません。

#### 4. 新型インフルエンザに対する本学の対応について

2009年に全国的に流行した新型インフルエンザは弱毒性の「H1N1」型でしたが、いまだ強毒性インフルエンザ「H5N1」型の流行が危惧されております。

本学では新型インフルエンザの流行が確認された場合は学院危機管理委員会のもとに「新型インフルエンザ対策本部」および「新型インフルエンザ対策会議」において検討を行い、休校等の処置を行う場合（休校の解除を含む）は学生・生徒・児童・園児、教職員および保護者等に対して学院ホームページや学内一斉配信メール(学生ポータル等)、緊急連絡網、文書等でお知らせいたします。

なお、新型インフルエンザ（「H5N1」型）に対する本学の対応は「国内で1人でも発生が認められた場合は幼稚園から大学までを完全休校」とします。

日本国内で罹患者が認められ、厚生労働大臣よりフェーズ4B（ヒト-ヒト感染発生）の宣言が行われた時点で登校を控えてください。

新型インフルエンザの休校情報は発生次第、テレドーム（前ページ参照）で確認できます。

## Ⅵ. 試験・レポートについて

授業科目の履修状況を評価し単位を認定するため、試験が行われます。試験は、筆記のほかに、科目によっては、論文、レポート、口述試験、実技テスト、その他担当者の指定する方法で行われることもあります。

試験は、受験資格のある学生のみ受験できます。

受験資格は、以下のとおりです。

- ① 受験する授業科目を履修登録していること
- ② 学費を納入済みであること

なお、学期を通じ欠席の多い学生は、その科目の受験資格を失うことがあります（学生共通細則第7条参照）。

### 1. 試験の種別

#### 定期試験

前期末、後期末に期間を定めて実施する試験を定期試験といいます。

試験時間割は、試験開始日の約2週間前に「学生ポータル」で発表します（情報は変更される場合もあるので、随時確認してください）。試験実施教室や時間割は通常授業時と異なります。

#### 平常試験

定期試験期間以外の、平常の授業時間に行う試験を平常試験といいます。この場合、担当者によって実施日その他詳細が決定されます。情報は担当者より発表されるか、場合によって「学生ポータル」で発表します（情報は変更される場合もあるので、随時確認してください）。

#### レポート

レポートは、提出先によって2種類あります。

##### 【教務提出レポート】

おおむね定期試験の前後に受付が行われます。詳細は「学生ポータル」で発表します（情報は変更される場合もあるので、随時確認してください）。

テーマ、枚数、提出期限などを確認し、必ず指定された期間（時間）内に提出してください。指定された期間内であれば、当該授業科目開講キャンパスに限らず、どちらのキャンパスでも受け付けます。

**提出後の内容変更および指定された期間以外の提出は認めません。**

このレポートを提出するときは、以下の点に注意してください。

- ① 用紙は指定されたものを使用してください。
- ② 必ず大学所定のレポート提出票を貼付してください。
- ③ レポート提出票には、整理番号その他、記入事項のすべてを「学生ポータル」で確認の上、ボールペンで記入してください。鉛筆書きは受け付けません。
- ④ 受付窓口を持参する際は、提出票記入・ホチキス留めなどをすべて完了し、作成が完了した状態にしておいてください。受付窓口での提出票記入・ホチキス留めはできません。
- ⑤ 提出した際に受領印の押印された「レポート提出票（学生控）」を受け取り、成績が発表されるまで各自保管しておいてください。後日、提示を求められる場合があります。

##### 【担当者提出レポート】

情報は担当者より発表されるか、場合によって「学生ポータル」で発表します（情報は変更される場合もあるので、随時確認してください）。テーマ、用紙、枚数、提出期限、提出方法など、すべて担当者の指示に従ってください。

提出先として学務課あるいは学務部教務課設置の提出ボックスを指定される場合がありますが、このレポートは担当者提出レポートとして扱います。

## 追試験

定期試験に限り、病気、その他やむを得ない理由によって受験できなかった学生に対して行われる試験を追試験といいます。受験資格は厳密に定められており、自己の不注意によって受験できなかった場合、および、公的な証明書のない場合は、追試験を受けることはできません。

資格および申請方法などについては後述の「3. 追試験」を参照してください。なお、出席日数不足など、担当者の判断によって追試験の受験が認められない場合があります。

定期試験期間中は、試験の有無にかかわらず、定期試験期間最終日まで予定（旅行など）を入れないでください。

また、やむを得ず追試験の申請をすることも想定し、追試験実施日（学生ポータルで発表）にも留意してください。

## 2. 定期試験の受験 定期試験時間

定期試験時間割は以下のとおりです。授業時間割とは異なるので注意してください。

定期試験科目配置上、5時限で実施できないことが起きた場合のみ6・7時限目にも配置します。

試験時間は原則として60分です（理工学部・社会情報学部専門科目のみ最長85分の場合があります）。

第1時限	9：30～10：30
第2時限	11：10～12：10
第3時限	13：10～14：10
第4時限	14：50～15：50
第5時限	16：30～17：30
第6時限	18：20～19：20
第7時限	19：40～20：40

## 受験上の注意

受験上の注意は以下の通りです。あらかじめよく読んでおいてください。

試験教室で配布される受験票は、試験を受けた証拠になりますので学年・クラス番号等、正確に記入してください。答案用紙の学年・クラス番号を正しく記入しない場合、担当教員の成績報告に支障をきたすことがあります。また指定されたクラス・試験教室で必ず受験してください。

### 受験上の注意

1. 監督者の指示に従うこと。
2. 机の空いている限り、一机一名で着席すること。
3. 机上等に書き込みがある場合は、開始前に申し出ること。
4. 学生証はケースから出し、通路側の机の上に置くこと。※注
5. 以下の行為は、不正行為に該当するので充分留意すること。
  - ① 受験資格のない者の受験（代人も含む）。
  - ② 答案の交換及び他人の答案を盗み見ること。
  - ③ カンニングペーパー（縮小コピー）等の準備および使用。
  - ④ 答案用紙を提出せずに試験場から退室すること。
  - ⑤ 机の中にノート、コピー、文献等を開いたまま置くこと。

- ⑥ 所持品やかばん、透明ファイルケース等の中身が見える形のまま、身の回りに置くこと。
- 6. 机には、許可された文献類および筆記用具以外は置かないこと。  
なお、筆箱・ペンケース等も置いてはならない。
- 7. 携帯電話等の電子機器類の電源を切り、かばん等に入れておくこと。  
(携帯電話は時計として使用できない)
- 8. 試験終了前に退室する場合は、他の受験者の妨げにならないよう留意すること。
- 9. 不正行為は恥ずべき行為であり大学として厳重に対処する。

※注 学生証を提示しない学生は受験できません。

- ・試験当日学生証を忘れた場合、相模原キャンパスでは学務課、青山キャンパスでは学務部教務課で学生カードを受け取り受験してください。学生カードの使用については以下の点に注意してください。
  - a. 学生カードは、試験受験以外には一切利用できません。
  - b. 学生カードは発行日に限り記載者本人のみ有効です。使用後は自己の責任において適切に処分してください。
- ・試験開始後20分以上の遅刻者は受験できません。また試験開始後30分を経過するまで退室できません。

## 不正行為

不正行為を行った学生は、以下に示す『試験における不正行為者処分規則』が適用され、単位を修得することができません。科目によっては4年間で卒業することが不可能になります。

青山学院規則集『試験における不正行為者処分規則』より抜粋

**第3条** 不正行為者の処分内容は、学則に基づく懲戒処分（訓告、停学、退学）とするほか不正行為を行った授業科目、当該授業科目を含む数科目または全授業科目の履修届を無効とする。

**第4条** 不正行為者の氏名および処分は学内に掲示し、本人および保証人へ通知する。

不正行為とは、『試験における不正行為者処分規則施行細則』第2条に定められた、以下の行為をいいます。

- ① 代人として受験することまたは代人に受験させること。
- ② 答案を交換すること。
- ③ カンニング・ペーパーおよびそれに準ずるもの（メモ類）の用意またはそれらを使用すること。
- ④ カンニング・ペーパーおよびそれに準ずるもの（メモ類）を廻し見すること。
- ⑤ 使用が許可されていない文献等を使用すること。
- ⑥ 使用が許可されている文献等を貸借すること。
- ⑦ 所持品、身体、机、壁等に解答およびそれに類するものを書き込むこと。
- ⑧ 答案を写させること、または写しとること。
- ⑨ 他人の答案を盗み見ること。
- ⑩ 声、動作等で解答を伝達すること、または伝達を受けること。
- ⑪ 受験資格のない者が受験すること。
- ⑫ 他人の学生証を使用して受験すること。
- ⑬ 偽名または故意により無記名答案を提出すること。
- ⑭ 答案を提出しないこと。
- ⑮ 監督者の指示や注意に従わないこと。
- ⑯ その他上記各号に類すると認められる行為。

### 3. 追試験

#### 申請資格

定期試験を病気、その他やむを得ない理由によって受験できなかった学生のみ申請することができます。

以下の場合には追試験の対象とはなりません。

- ① 自己の不注意（時間割の見間違い・変更情報の見落としなど）によって受験できなかった場合
- ② 公共交通機関以外を利用した場合、天候や交通事故などによる道路の渋滞、車両の故障を理由とする遅刻・欠席の場合
- ③ 平常試験（定期試験以外の試験を指す）の場合
- ④ 定期試験を受験した場合

#### 申請方法

申請の日程、追試験日程については、定期試験前に「学生ポータル」で発表します。

追試験の受験を希望する学生は、**直接、授業科目の開講キャンパスの教務窓口**（巻末参照）で、**定められた期間に申請してください**。当該授業科目開講キャンパス以外の教務窓口では申請できません。

申請時には、当該試験の受験が不可能であったことを証明する公的な書類を持参してください。公的な書類は、**学生氏名、定期試験を受験できなかった日時、理由、証明者名の記載および証明者印のあるもの**に限ります。**コピーは不可です**。「追試験願」用紙を交付しますので、その場で記入し、持参した書類とともに提出してください。なお、受験料は無料です。

欠席理由と、それを示す証明書は次のとおりです。

理 由	証 明 書
病気	医師の診断書（通院・入院・安静期間などの記載のあるもの）
忌引（両親、兄弟姉妹、祖父母、配偶者、子供） ※法事は忌引に含めない	死亡に関する公的証明書および保証人などによる続柄の証明（要押印） または、 葬儀に参列したことを示す会葬礼状（日付が明記されているもの） および保証人などによる続柄・参列の証明（要押印）
就職試験	就職試験の受験を証明するもの（受験票では不可）
災害（台風、地震、水害、火災など）	官公庁による被災証明書
交通関係（遅延）	交通機関などの証明書（通学路線に限る。遅延当日必ず教務窓口で指示を受けること）
教育実習	教育実習参加証明書（教職課程課・学務課にて発行）
科目の時限重複	定期試験実施前に教務窓口で指示を受けること

上記以外の理由または、公的な証明書が無い場合については、事前に「**追試験受験資格審査**」を受けてください。審査で認められた場合のみ申請することができます。

#### 追試験時間・採点

原則として60分で実施し、答案は100点満点で採点されます。

## Ⅶ. 成績評価について

### 成績評価

学業成績は、授業科目ごとに行う試験（筆記試験、レポート、論文、口述試験、実技テスト、その他担当者の指定する方法）によって評価されます。

本学の成績は100点法によって評価されます。60点以上が合格とされ、所定の単位が与えられます。

成績証明書および成績通知書には AA、A、B、C の表記が用いられます。ただし、「情報スキル I」、指定の海外研修等については、所定の単位が与えられた場合、成績証明書には「RR」、成績通知書には「合格」と表示されます。

実点数範囲	学生への成績通知	成績証明書の記載
100～90	AA	AA
89～80	A	A
79～70	B	B
69～60	C	C
59以下または不合格	XX	表示せず
欠席	X	表示せず
「情報スキル I」、海外研修等による単位修得	合格	RR

### G.P.A.

G.P.A. (Grade Point Average) とは、学生の履修登録科目の 1 単位あたりの評点平均値を指します。これは、欧米で広く用いられている世界標準的な成績評価方法で、本学では給付奨学金や学業奨励賞の候補者選出、学位授与式の総代選出、本学大学院進学などの際に活用されています。

履修した科目には、A、B、C、XX などの成績が与えられます。これらの評価を数値化して 1 単位ごとの平均を算出したものが G.P.A. です。

本学では、各評価に与えられる評点は次のとおりです。

#### G.P.A. 算出対象評価

本学評価	評点
AA	4.0
A	3.0
B	2.0
C	1.0
XX(不合格)	0.0
X (欠席)	0.0

上記の評点を次の計算式に当てはめて G.P.A. を算出します。

$$G.P.A. = \frac{(AA \text{ の単位数} \times 4 + A \text{ の単位数} \times 3 + B \text{ の単位数} \times 2 + C \text{ の単位数} \times 1)}{(AA \text{ の単位数} + A \text{ の単位数} + B \text{ の単位数} + C \text{ の単位数} + XX \text{ の単位数} + X \text{ の単位数})}$$

※理工・社会情報学部は、教職課程科目を G.P.A. 算出の対象外とします。

※「情報スキル I」、指定の海外研修等は、G.P.A. 算出の対象外とします。

### 成績通知

学生の成績評価は、3月上旬および9月中旬に学生ポータルメニュー「成績通知書」にてお知らせします。学外 PC から閲覧する場合は、あらかじめ学内で Secure Matrix パスワードの登録を済ませておく必要があります。（詳細は、学生ポータルメニュー「学外から成績通知書を閲覧する手順」を参照してください。）**成績通知書は各自で印刷し、修得した科目とその評価を確認してください。**

## 成績調査

成績評価に疑問がある場合は、「成績調査」を申請することができます。これは、科目担当者に対して、安易に再考・変更を求めるものではありません。成績に疑問を持つ**明確な根拠がある場合にのみ**申請してください。

大学が指定する調査期間中に、成績通知書持参のうえ所属キャンパスの教務窓口（巻末参照）へ申し出てください。調査期間は、「学生ポータル」でお知らせします。

**電話での問い合わせ、期間外の申し出には一切応じません。**

## Ⅳ. 進級および卒業について

進 級	進級については、所属する学部で条件が異なるので、「Ⅳ. 学部履修要項」の各学部、学科の <b>進級条件</b> の項を参照してください。
卒 業	(1) 本学に4年（8期）以上在学（休学期間を除く）し、なおかつ4年次に1年（2期）以上の在学が必要です。その上で、各学部で定められた卒業に必要な単位を修得した者に卒業が認められ、学士の学位が授与されます。なお、休学期間中に卒業することはできません。 ※卒業の時期は4年次3月とし、卒業発表は3月上旬に行います。卒業の可否は必ず本人が確認してください。電話による問い合わせには一切応じておりません。
9 月 卒 業	上記の卒業の条件を満たした場合、願い出によって4年次の9月に卒業できる制度があります。 (1) 希望者は、所属キャンパスの教務窓口（巻末参照）で相談し、「 <b>9 月卒業希望届</b> 」を定められた期間に提出してください。 (2) 期限を過ぎてからの提出は、一切認められません。 (3) 学費については、本学の財務部資金課に問い合わせてください。
卒業延期制度	4年次に在学する学生が卒業要件を満たし、具体的な勉学継続計画、国家試験受験等明確な理由、目的を有したうえで、在学期間を延長して学修継続を希望する場合、卒業の延期を認めて学修継続の機会を与える制度です。 (1) 希望者は、所属キャンパスの教務窓口（巻末参照）で相談し、「 <b>卒業延期許可願</b> 」、「 <b>学修計画書</b> 」、「 <b>誓約書・保証書</b> 」を定められた期間に提出してください。 (2) 期限を過ぎてからの提出は、一切認められません。 (3) 学費については、本学の財務部資金課に問い合わせてください。

## Ⅸ. 学籍について

		内 容	取扱・問い合わせ窓口											
修業年限		本学の教育課程を修了するために必要な最低修業年限は、4年です。	学則第35条参照											
在学年限		① 本学に在学できる期間は、休学期間を除き8年です。 ② 2年次編入学生、2年次転学部・転学科生の在学年限は6年です。 ③ 3年次編入学生、3年次転学部・転学科生の在学年限は4年です。 ④ 再入学者の在学年限は、退学以前を加えて8年です。 ⑤ 編入学または転学部・転学科をした再入学者の在学年限は、退学以前を加え、編入学または転学部・転学科生の在学年限を越えることはできません。	学則第36条参照											
休学	休学期間	① 休学期間は、通年(1年間)、前期、後期の3種類があり、1年または1学期ごとに更新しなければなりません。 ② 休学期間は連続2年までとしますが、特にやむを得ない場合は、審議をしたうえで、連続して3年まで認めることがあります。 ③ 休学期間は通算して3年を超えることはできません。 ④ 休学期間は在学期間に算入しません。	学則第29・36条参照											
	休学をするには	病気その他やむを得ない理由で休学しようとする学生は、以下の手続きを行い、教授会の承認を得なければなりません。 ① 「休学願」(大学所定用紙)(保証人連署)の提出 ② 学生証の提示 ③ 休学費の納入 ④ 「理由書(書式は任意)」休学期間が通算であっても連続であっても、2年を超えてさらに休学を願い出る場合のみ提出	(手続き) ⇒所属キャンパスの教務窓口(巻末参照) 学則第28条参照  (休学費) ⇒財務部資金課 (青山キャンパス) 学則 別記学費納付に関する取扱い8参照											
	休学願の提出期限	「休学願」の提出期限は次のとおりです。 <table border="1" data-bbox="263 1211 880 1404"> <thead> <tr> <th></th> <th>休学期間</th> <th>提出期限</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>通年休学</td> <td>4月1日～翌年3月31日</td> <td>6月末日</td> </tr> <tr> <td>前期休学</td> <td>4月1日～9月30日</td> <td>6月末日</td> </tr> <tr> <td>後期休学</td> <td>10月1日～翌年3月31日</td> <td>12月末日</td> </tr> </tbody> </table>		休学期間	提出期限	通年休学	4月1日～翌年3月31日	6月末日	前期休学	4月1日～9月30日	6月末日	後期休学	10月1日～翌年3月31日	12月末日
	休学期間	提出期限												
通年休学	4月1日～翌年3月31日	6月末日												
前期休学	4月1日～9月30日	6月末日												
後期休学	10月1日～翌年3月31日	12月末日												
復学	復学をするには	休学者が復学を希望する場合、大学所定の「復学願」を提出し、教授会の承認を経て復学することができます。休学期間満了の約2ヶ月前に、学務部教務課(相模原キャンパスは学務課)から次期の復学・休学の継続などについての問い合わせをします。なお、復学が承認された場合の年次は、休学の種類にかかわらず、休学前と同一年次となります。	⇒所属キャンパスの教務窓口(巻末参照)  学則第30条参照											

		内 容	取扱・問い合わせ窓口
退 学	退学の期日	退学の期日は、学費の納付期間によって異なります。前期分まで納付している場合は9月30日付、後期分まで納付している場合は3月31日付となります。	学則 別記学費納付に関する取扱い10参照
	退学するには	病気その他やむを得ない事情で退学を希望する場合は、以下の手続きを行い、教授会の承認を得なければなりません。 ① 「退学願」(大学所定用紙)(保証人連署)の提出 ② 学生証の提出 ③ 退学期日を含む学期までの学費の納入	⇒所属キャンパスの教務窓口(巻末参照)  学則第32条参照
再入学		退学した後に再入学を願い出た場合、事情を審査のうえ相当年次に再入学を許可することがあります。願い出をするためには以下のような条件があります。 ① 再入学の願い出ができる期間は、原則として退学した日から2年以内とし、「再入学願」は1月中旬～1月末日(要問い合わせ)の間に学務担当窓口に出してください。 ② 再入学できる時期は、学年の初めとします。	⇒所属キャンパスの教務窓口(巻末参照)  学則第27条参照
二重学籍	二重禁止	本学学生は、他大学および本学他学部または他学科と併せて在学することはできません。	学則第27条の2参照
除籍		学費を期限内に納入しない、履修登録をしない、などの場合は修学の意味がないものとして除籍され、本学学生としての身分を失うこととなります。なお、除籍者に対しては、以後、在学中の修得単位・成績の証明などは一切行ないません。また、再入学の資格も失うこととなります。	学則第34条参照
転学部・転学科	転学部とは	文学部、教育人間科学部、法学部、国際政治経済学部、社会情報学部へ学部を移ることで、転学部を願い出た場合には、選考の上、当該学部への転学部を許可することがあります。許可された場合、転学部届の提出が必要となります。	⇒所属キャンパスの教務窓口(巻末参照)  学則第26条参照
	転学科とは	同一学部内で学科を移ることで、文学部の学生で転学科を願い出た場合には、選考の上、文学部の他学科への転学科を許可することがあります。また、教育人間科学部の学生が転学科を願い出た場合には、選考の上、教育人間科学部の他学科への転学科を許可することがあります。許可された場合、転学科届の提出が必要となります。	(詳細については、本学Webサイトに9月下旬頃掲出予定の「試験要項」を確認してください。)

## X. 教職課程（教員免許状・各種資格）について

### 1. 本学で取得可能な教育職員免許状

〔取得可能な免許状の種類・教科（学部・学科別）〕

本学で取得可能な免許状の種類・教科は次のとおりです。

（2014年度入学者）

学 部	学 科	免許状の種類・教科
文学部	英米文学科	中学校教諭1種免許状（英語） 高等学校教諭1種免許状（英語）
	フランス文学科	中学校教諭1種免許状（フランス語） 高等学校教諭1種免許状（フランス語）
	日本文学科	中学校教諭1種免許状（国語） 高等学校教諭1種免許状（国語）
	史学科	中学校教諭1種免許状（社会） 高等学校教諭1種免許状（地理歴史）
教育人間科学部	教育学科	幼稚園教諭1種免許状 小学校教諭1種免許状 中学校教諭1種免許状（国語・社会・英語） 高等学校教諭1種免許状 （国語・地理歴史・公民・英語）
理工学部	物理・数理学科	中学校教諭1種免許状（理科・数学） 高等学校教諭1種免許状（理科・数学）
	化学・生命科学科	中学校教諭1種免許状（理科） 高等学校教諭1種免許状（理科）
	電気電子工学科	高等学校教諭1種免許状（工業）
	機械創造工学科	高等学校教諭1種免許状（工業）
	経営システム工学科	高等学校教諭1種免許状（情報）
	情報テクノロジー学科	高等学校教諭1種免許状（情報）
社会情報学部	社会情報学科	中学校教諭1種免許状（数学） 高等学校教諭1種免許状（数学・情報）

### 2. 教員免許状の取得希望申請について

教員免許状の取得を希望する者は、入学年度適用の『教職課程履修の手引』を熟読の上、前期履修登録期間に Web の履修登録画面から「教職・各種資格申請」の画面を開き、登録を行ってください。

この申請は、毎年度前期履修登録期間に必ず行うものであり、在学中における申請内容の変更・取消、またはその有無にかかわらず、教職履修申請継続の意思を持っている場合には、毎年度申請を更新してください。申請内容は毎年度末にクリアされます。

### 3. 教職課程料の納入について

教員免許状の申請登録（Web）をすると、申請した年度ごとに後期学費納入時に教職課程料を納入することになります。たとえ教職課程科目の履修登録をしなくても、教員免許状の申請登録によって教職課程料が後期学費に加算されますので、各自の責任において免許教科を確認し、熟考の上申請をしてください。また、申請登録（Web）の取消しは、前期履修登録期間内しか行えません。なお、一旦納入された教職課程料は、いかなる理由があっても返還しません。

※学費を前期納付時に一括納付した者については、教職課程料の納付時期は9月となります。

## 4. 教職課程履修について

### 履修上の注意

教職課程の履修は、1年次の年度初頭に開催される**教職課程オリエンテーション**で配付される入学年度適用の『**教職課程履修の手引**』に従ってください。また、履修方法・科目名称の変更などについては、年度初頭に開催される2年次生対象**教職課程オリエンテーション**と3年次生および4年次生対象**教育実習・教職実践演習説明会**で資料を配付しますので、必ず確認してください。

教職課程関係の**オリエンテーション・説明会**および**手続**などの詳細については、『**学年初頭行事**』（学生ポータルに掲載）、教職課程掲示板で確認してください。

**オリエンテーション・説明会**に欠席したり、指定期間内に**介護等体験登録、教育実習Ⅱ・教職実践演習予備登録、教員免許状大学一括申請**などの手続を行わなかった場合、卒業時までに教員免許状を取得できない事態に陥ることがありますので、遺漏のないよう自己管理してください。

### 履修順序のある科目

教員免許状取得のための科目には、次ページ以下のとおり「**履修順序**」が定められたものがあります。詳細については、『**教職課程履修の手引**』の該当する学部・学科別の免許教科の項を併せて参照してください。

また、学部・学科別の取得可能な教員免許状の校種・教科は、「**1. 本学で取得可能な教育職員免許状**」の表のとおりです。

〔教員免許状取得に必要な科目の履修順序〕

(2014年度入学者適用)

幼稚園教諭免許状取得希望者

第1段階		第2段階		第3段階
				第1段階に合格した場合のみ履修できる
				第2段階に合格した場合のみ履修できる
(1年次配置科目)	(2年次配置科目)	(3年次配置科目)		(4年次配置科目)
教育思想概説 教育心理学概説 教育制度概説	教職論	保育内容教育法を 3教科以上	幼児教育実習 I	幼児教育実習 II 教職実践演習(幼)

小学校教諭免許状取得希望者

第1段階		第2段階		第3段階
				第1段階に合格した場合のみ履修できる
				第2段階に合格した場合のみ履修できる
(1年次配置科目)	(2年次配置科目)	(3年次配置科目)		(4年次配置科目)
教育思想概説 教育心理学概説 教育制度概説	教職論	初等教科教育法を 4教科以上	初等教育実習 I	初等教育実習 II 教職実践演習(小)

中学校・高等学校教諭免許状取得希望者

第1段階		第2段階		第3段階
				第1段階に合格した場合のみ履修できる
				第2段階に合格した場合のみ履修できる
(1年次配置科目)	(2年次配置科目)	(3年次配置科目)		(4年次配置科目)
教育原理 A (教育思想概説) 教育心理 (教育心理学概説) 教育原理 B (教育制度概説)	教職論	中等教育実習 I 国語科教育法 又は 国語科教材論 社会科教育法 又は 社会科教材論 地理歴史科教育法 又は 地理歴史科教材論 公民科教育法 又は 公民科教材論 英語科教育法(注1) 又は 英語科教育法特論(注1) フランス語科教育法 (フランス語教授法 I(注2)) 又は フランス語科教育法特論 理科教育法 I 及び理科教育法 II 又は 理科教材論 数学科教育法 又は 数学科教育法特論 工業科教育法 情報科教育法 又は 情報科教育法特論		中等教育実習 II A 中等教育実習 II B 教職実践演習(中・高)

(注1) 英米文学科の学生は、第1段階の科目を修得していなくても「英語科教育法」「英語科教育法特論」を履修することができます。

(注2) フランス文学科の学生は、第1段階の科目を修得していなくても「フランス語教授法 I」を履修することができます。

## 5. 教職課程科目 配置表

文学部

教育人間科学部

理工学部

社会情報学部

(2014年度入学者)

教職課程科目は教育職員免許状の取得を希望し、申請した学生以外は履修できません。				
	科目名	単位数	履修年次	
教 職 課 程 科 目	教職論	2	2	
	教育原理 A	2	1	
	教育心理	4	1	
	教育原理 B	2	1	
	教育課程編成法 (中等)	2	3・4	
	国語科教育法	4	3	
	国語科教材論	4	3	
	社会科教育法	4	3	
	社会科教材論	4	3	
	地理歴史科教育法	2	3	
	地理歴史科教材論	2	3	
	公民科教育法	2	3	
	公民科教材論	2	3	
	英語科教育法	4	3	
	英語科教育法特論	4	3	
	フランス語科教育法	4	3	
	フランス語科教育法特論	4	3	
	理科教育法 I	2	3	
	理科教育法 II	2	3	
	理科教材論	4	3	
	数学科教育法	4	3	
	数学科教育法特論	4	3	
	工業科教育法	4	3	
	情報科教育法	2	3	
	情報科教育法特論	2	3	
	道德教育指導法 (中等)	2	3・4	
	特別活動論 (中等)	2	3・4	
	教育方法の研究 (中等)	2	3・4	
	生徒・進路指導論 (中等)	2	3・4	
	教育相談 (中等)	2	3・4	
	幼児教育実習 I	1	3	
	幼児教育実習 II	4	4	
	初等教育実習 I	1	3	
初等教育実習 II	4	4		
中等教育実習 I	1	3		
中等教育実習 II A	2	4		
中等教育実習 II B	2	4		
教職実践演習 (幼)	2	4		
教職実践演習 (小)	2	4		
教職実践演習 (中・高)	2	4		

## 6. 本学で取得可能な資格

〔取得可能な資格の種類  
(学部・学科別)〕

本学で取得可能な資格の種類は次のとおりです。

(2014年度入学者)

学 部	学 科	資 格 の 種 類
文学部	英米文学科	司書教諭・司書・社会教育主事・学芸員
	フランス文学科	
	日本文学科	
	史学科	
	比較芸術学科	司書・社会教育主事・学芸員
教育人間科学部	教育学科	司書教諭・司書・社会教育主事・学芸員
	心理学科	司書・社会教育主事・学芸員
経済学部	経済学科	司書・社会教育主事・学芸員
	現代経済デザイン学科	
法学部	法学科	司書・社会教育主事・学芸員
経営学部	経営学科	司書・社会教育主事・学芸員
	マーケティング学科	
国際政治経済学部	国際政治学科	司書・社会教育主事・学芸員
	国際経済学科	
	国際コミュニケーション学科	
総合文化政策学部	総合文化政策学科	司書・社会教育主事・学芸員
理工学部	物理・数理学科	司書教諭・司書・社会教育主事・学芸員
	化学・生命科学科	
	電気電子工学科	
	機械創造工学科	
	経営システム工学科	
	情報テクノロジー学科	
社会情報学部	社会情報学科	司書教諭・司書・社会教育主事・学芸員

## 7. 各種資格の取得希望申請について

各種資格（司書教諭・司書・社会教育主事・学芸員）の取得を希望する者は、入学年度適用の『教職課程履修の手引』を熟読の上、前期履修登録期間に、Webの履修登録画面から「教職・各種資格申請」の画面を開き、登録を行ってください。

この申請は、毎年度前期履修登録期間に必ず行うものであり、在学中における申請内容の変更・取消、またはその有無にかかわらず、継続の意思を持っている場合には、毎年度申請を更新してください。申請内容は毎年度末にクリアされます。

## 8. 資格課程料の納入方法

各種資格（司書教諭・司書・社会教育主事・学芸員）の申請登録（Web）をすると、それぞれの資格について申請した年度ごとに後期学費納入時に資格課程料を納入することになります。たとえ必要科目の履修登録をしなくても、各種資格の申請登録によって資格課程料が後期学費に加算されますので、熟考の上申請をしてください。また、申請登録（Web）の取消しは、前期履修登録期間内しか行えません。なお、一旦納入された資格課程料は、いかなる理由があっても返還しません。

※学費を前期納付時に一括納付した者については、資格課程料の納付時期は9月となります。

## 9. 各種資格取得に必要な科目の履修について

### 履修上の注意

各種資格取得に必要な科目の履修は、1年次の年度初頭に開催される**各種資格オリエンテーション**で配付される入学年度適用の『**教職課程履修の手引**』に従ってください。

また、履修方法・科目名称などの変更があった場合には、年度初頭に開催される2年次生対象の**司書教諭・司書・社会教育主事オリエンテーション**、**学芸員オリエンテーション**や、2年次後期に開催される「**博物館実習Ⅰ**」**予備登録説明会**（学芸員資格取得希望者対象）などで資料を配付しますので、必ず確認してください。

各種資格関係の**オリエンテーション・説明会**および**手続**等の詳細については、『**学年初頭行事**』（学生ポータルに掲載）、**教職課程**掲示板で確認してください。

**オリエンテーション・説明会**に欠席したり、指定期間内に**博物館実習予備登録・各種資格申請**などの手続を行わなかった場合、卒業時までに資格の取得ができない事態に陥ることがありますので、遺漏のないよう自己管理してください（但し、**司書教諭**資格の取得時期については、『**教職課程履修の手引**』を参照してください）。

### 履修順序のある科目

**司書**および**学芸員**資格取得のための科目には、「**履修順序**」が定められたものがあります。詳細については、下表および『**教職課程履修の手引**』の**司書**および**学芸員**の項を参照してください。

また、学部・学科別の取得可能な資格の種類は、「**6.本学で取得可能な資格**」の表のとおりです。

#### 〔司書資格取得に必要な科目の履修順序〕

##### （2014年度入学者）

第1段階	第2段階
2年次以降履修できる (2年次配置科目)	第1段階の科目に合格した翌年度以降にのみ履修できる (3・4年次配置科目)
図書館情報学概論	情報サービス論Ⅱ 情報サービス論Ⅲ メディア組織法Ⅱ メディア組織法Ⅲ

#### 〔学芸員資格取得に必要な科目の履修順序〕

##### （2014年度入学者）

第1段階		第2段階
2・3年次のみ履修できる (2年次配置科目)	3年次のみ履修できる (3年次配置科目)	第1段階を合格した者のみ履修できる (4年次配置科目)
博物館概論 博物館経営論 博物館資料論	博物館実習Ⅰ	博物館実習Ⅱ

- ・「**博物館実習Ⅰ**」は3年次生しか履修できません。
- ・「**博物館実習Ⅰ**」の履修については、2年次後期の**予備登録**が必要です。受講者を制限する必要が生じた場合は、3年次年度初頭に**選抜試験**を実施します。
- ・「**博物館実習Ⅰ**」**説明会・予備登録**の日程については、**教職課程**掲示板で確認してください。

履修順序のある科目の  
登録方法

- ① 「博物館実習Ⅰ」（３年次配置科目）は、**事前登録科目**です。２年次後期に**博物館実習予備登録**をし、必要に応じて実施される３年次年度初頭の**選抜試験**に合格することにより**事前登録**されるので、履修登録期間中に個人が登録する必要はありません。履修登録期間中に、Webの履修登録画面で登録内容を確認してください。
- ② 「博物館実習Ⅱ」（４年次配置科目）は、Webの履修登録画面から各自が登録をしてください。履修順序の条件を満たしていない場合は、登録することができません。

## XI . 大学院について

本学には、より高度な専門知識と技術によって確かな実績と高い評価をうける「大学院」各研究科・専攻に加え、時代と社会の要請に応える高度専門職業人養成の「専門職大学院」があります。

学部から本学「大学院」「専門職大学院」へ進学を希望する学生は、詳細を下記に問い合わせてください。

### 《問い合わせ先》

#### 大学院

進学希望研究科	問い合わせ先（担当部署）
文学研究科 教育人間科学研究科 経済学研究科 法学研究科 経営学研究科 国際政治経済学研究科 総合文化政策学研究科	教務課 所在：青山キャンパス 17号館 2階
理工学研究科 社会情報学研究科	スチューデントセンター・学務課 所在：相模原キャンパス B棟 1階
国際マネジメント研究科	専門職大学院教務課 所在：青山キャンパス 17号館 2階

#### 専門職大学院

進学希望研究科	問い合わせ先（担当部署）
国際マネジメント研究科（ビジネススクール） 法務研究科（ロースクール） 会計プロフェッション研究科（アカウンティングスクール）	専門職大学院教務課 所在：青山キャンパス 17号館 2階

\* 青山学院大学ホームページ (<http://www.aoyama.ac.jp>) にも、情報が載っていますので、参照してください。

\* 上記の内容に変更が生じた場合は、「学生ポータル」で伝達いたします。

## 大学院 入試情報一覧（2014年度実績）

		学内進学者 選抜	内部推薦	外部推薦	一般(秋)	一般(春)	大学院科目 特別履修資 格試験※1
文学研究科	英米文学専攻*1				○	○	○
	フランス文学・語学専攻*1				○	○	○
	日本文学・日本語専攻*1				○	○	
	史学専攻*1				○	○	○
	比較芸術学専攻*1				○	○	
教育人間科学 研究科	教育学専攻*1				○	○	
	心理学専攻*1 心理学コース 臨床心理学コース	○				○	
	経済学研究科				○	○	○
経済学研究科	経済学専攻*1	○			○	○	○
	公共・地域マネジメント専攻*1	○			○	○	○
法学研究科	私法専攻*1		○	○	○	○	○
	公法専攻*1						
	ビジネス法務専攻*2				○(実施時期は要問い合わせ)		○
経営学研究科	経営学専攻*1	○			○	○	○
国際政治経済 学研究科	国際政治学専攻*2						
	国際経済学専攻*2	○			○	○	○
	国際コミュニケーション専攻*2						
総合文化政策 学研究科	文化創造マネジメント専攻*2	○			○	○	○
	総合文化政策学専攻*3	○			○	○	
理工学研究科	理工学専攻*1 基礎科学コース 化学コース 機能物質創成コース 生命科学コース 電気電子工学コース 機械創造コース 知能情報コース マネジメントテクノロジーコース	○			○(実施時期は要問い合わせ)		
社会情報学研 究科	社会情報学専攻*1 社会情報学コース ヒューマンイノベーションコース	○			○(実施時期は要問い合わせ)		

## 専門職大学院 入試情報一覧（2014年度実績）

		自己推薦・指定学部推薦入試				一般入試					
		7月	10月	12月	2月	7月	9月	10月	12月	1月	2月
国際マネジメント研究科	国際マネジメントサイエンス専攻*3							○			○
	国際マネジメント専攻*4							○		○	○
法務研究科	法務専攻*4					○	○		○		○
会計プロフェッション研究科	会計プロフェッション専攻*4	○	○	○	○			○			

- \*1 博士前期課程
- \*2 修士課程
- \*3 博士課程（5年一貫制）
- \*4 専門職学位課程

※1 「大学院科目特別履修資格試験」に合格した者は、学部4年次で大学院科目を履修できます。  
経済学研究科・経営学研究科では「先取り科目履修方式」もあります。



## 教務窓口について

キャンパス	担当窓口	事務取扱時間	
青山キャンパス	学務部 教務課 (17号館2階 スチューデントセンター)	(月～金) 9:00～11:30 12:30～19:00	(土) 9:00～11:30 14:00～19:00
	学務部 教職課程課 (17号館2階 スチューデントセンター)	(月・水・木) 9:00～11:30 12:30～17:00 (火・金) 9:00～11:30 12:30～19:00	(土) 9:00～11:30
相模原キャンパス	学務課 (B棟1階 スチューデントセンター)	(月～金) 9:00～11:30 12:30～17:00	(土) 9:00～11:30

\* 上記の内容に変更が生じた場合は、「学生ポータル」で伝達いたします。

\* 長期休業など、授業期間以外の事務取り扱いについては「学生ポータル」で伝達いたします。

### 窓口で取り扱う業務：

- 履修・成績に関すること
- 授業に関すること
- 休学・退学などの学籍に関する願出
- 教職課程(教員免許状)および各種資格(司書教諭・司書・学芸員・社会教育主事)取得に関すること
- 証明書の交付

在学生の証明書は、④⑤⑥⑧を除き証明書自動発行機で交付します。

種類	交付方法	問い合わせ窓口		手数料 (1通につき)
		青山キャンパス	相模原キャンパス	
①在学証明書	自動発行機	教務課	学務課	和文 200円 英文 400円 ※卒業証明書は 窓口発行
②成績証明書				
③卒業見込証明書				
④学力に関する証明書	窓口	教職課程課	学務課 教職課程担当	和文 400円
⑤教員免許状取得見込証明書				和文 200円
⑥各種資格取得見込証明書				
⑦健康診断証明書(和文)	自動発行機	保健管理センター		和文 200円 英文 400円 ※英文は申請1週 間後に交付
⑧健康診断証明書(英文)	窓口			

- ー注意ー
- ・自動発行機による証明書は、本学書式による証明です。
  - ・提出先が定めた指定書式による証明が必要な場合は、別途各在籍キャンパスの証明書取扱窓口まで問い合わせてください。
  - ・証明書用封筒は学務部教務課(青山キャンパス)・学務課(相模原キャンパス)又は、保健管理センター窓口でお渡しします。また、厳封が必要な場合は窓口申し出てください。
  - ・上記以外の証明書が必要な場合は窓口で相談してください。

\* 電話など、窓口以外での受付には原則として応じません。

\* 提出物は期限を厳守してください。締切後の取り扱いは一切行いません。

地の塩、世の光  
The Salt of the Earth, The Light of the World  
青山学院スクール・モットー

学生番号

氏 名